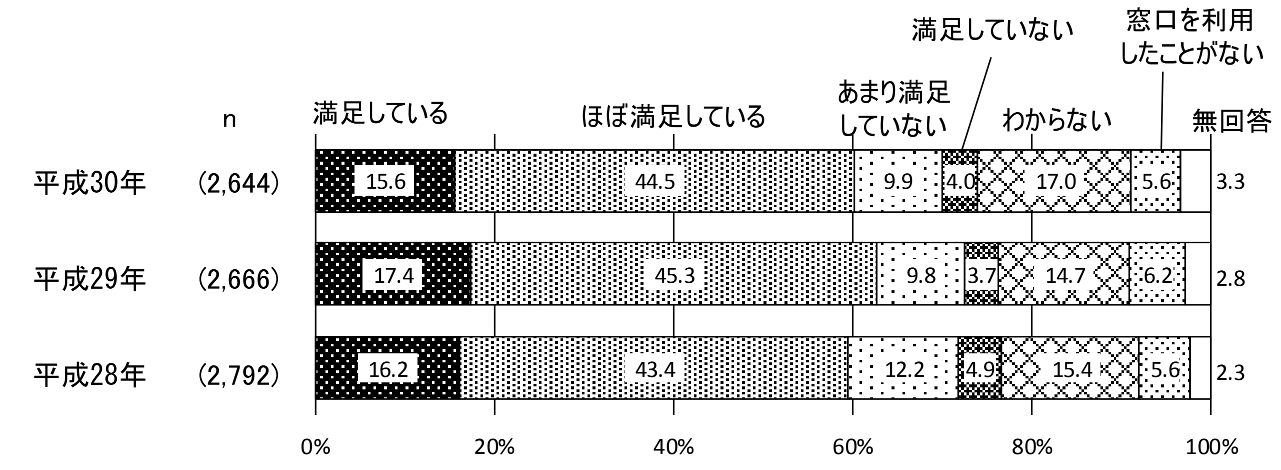
# ３．「八王子ビジョン2022」の施策指標に関する調査

## （１）窓口サービスの満足度

*◇≪満足≫が約６割*

問13　あなたは、市の窓口サービス（職員の対応や提供内容、処理時間など）に満足していますか。（○は１つだけ）

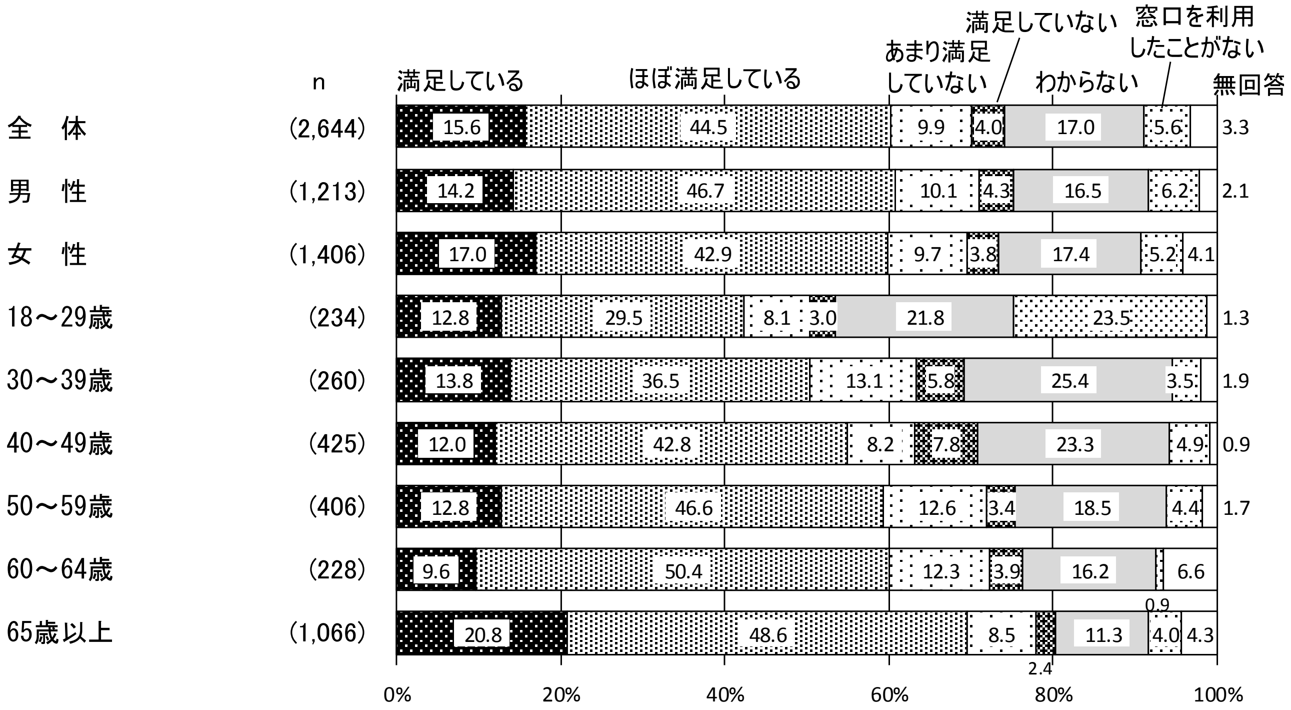
図３－１－１　窓口サービスの満足度－全体、経年比較




市の窓口サービス（職員の対応や提供内容、処理時間など）に満足しているか聞いたところ、「満足している」（15.6％）と「ほぼ満足している」（44.5％）を合わせた≪満足している≫（60.1％）は約６割となっている。一方、「あまり満足していない」（9.9％）と「満足していない」（4.0％）を合わせた≪満足していない≫（13.9％）は１割強となっている。

前回までの調査と比較すると、≪満足している≫は平成29年（62.7％）より2.6ポイント減少して、平成28年（59.6％）に近いレベルとなっている。（図３－１－１）

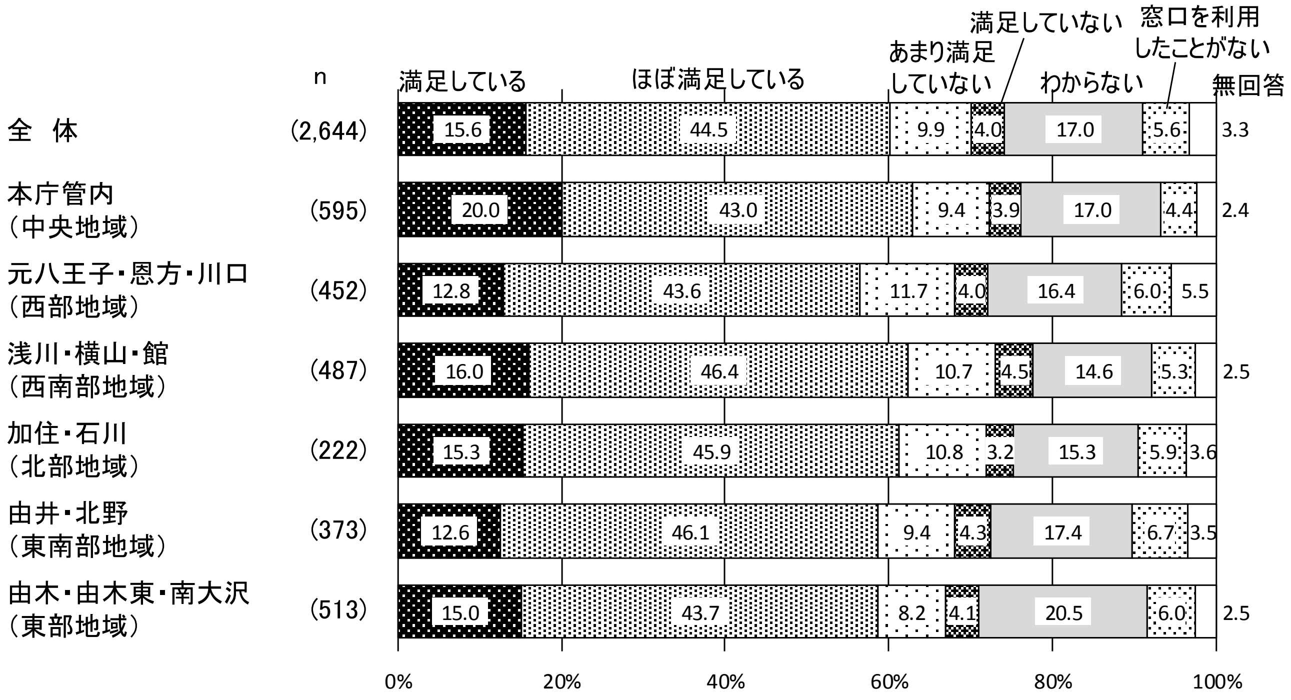
図３－１－２　窓口サービスの満足度－性別、年齢別




性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、≪満足している≫は高い年代ほど割合が高くなっており、65歳以上（69.4％）で７割弱と多くなっている。（図３－１－２）

図３－１－３　窓口サービスの満足度－居住地域別



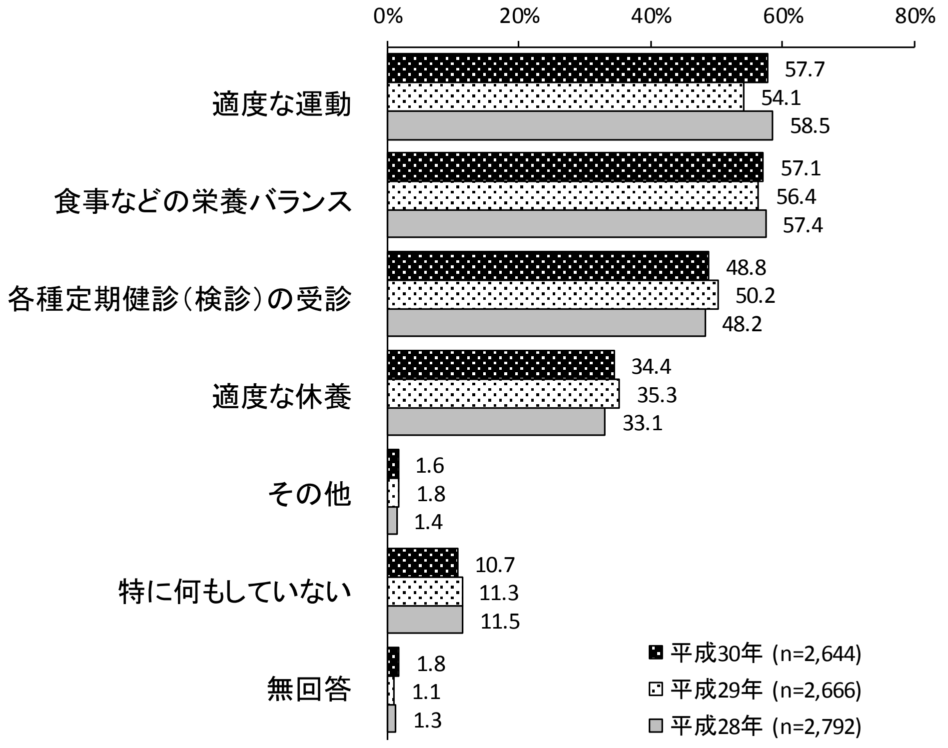

居住地域別にみると、≪満足している≫は本庁管内（中央地域）（63.0％）と浅川・横山・館（西南部地域）（62.4％）の両地域で６割強と多くなっている。（図３－１－３）

## （２）健康のために心がけていること

### ◇「適度な運動」が６割近く

問14　あなたが健康の維持・増進のために、自ら心がけていることはどれですか。
（○はいくつでも）

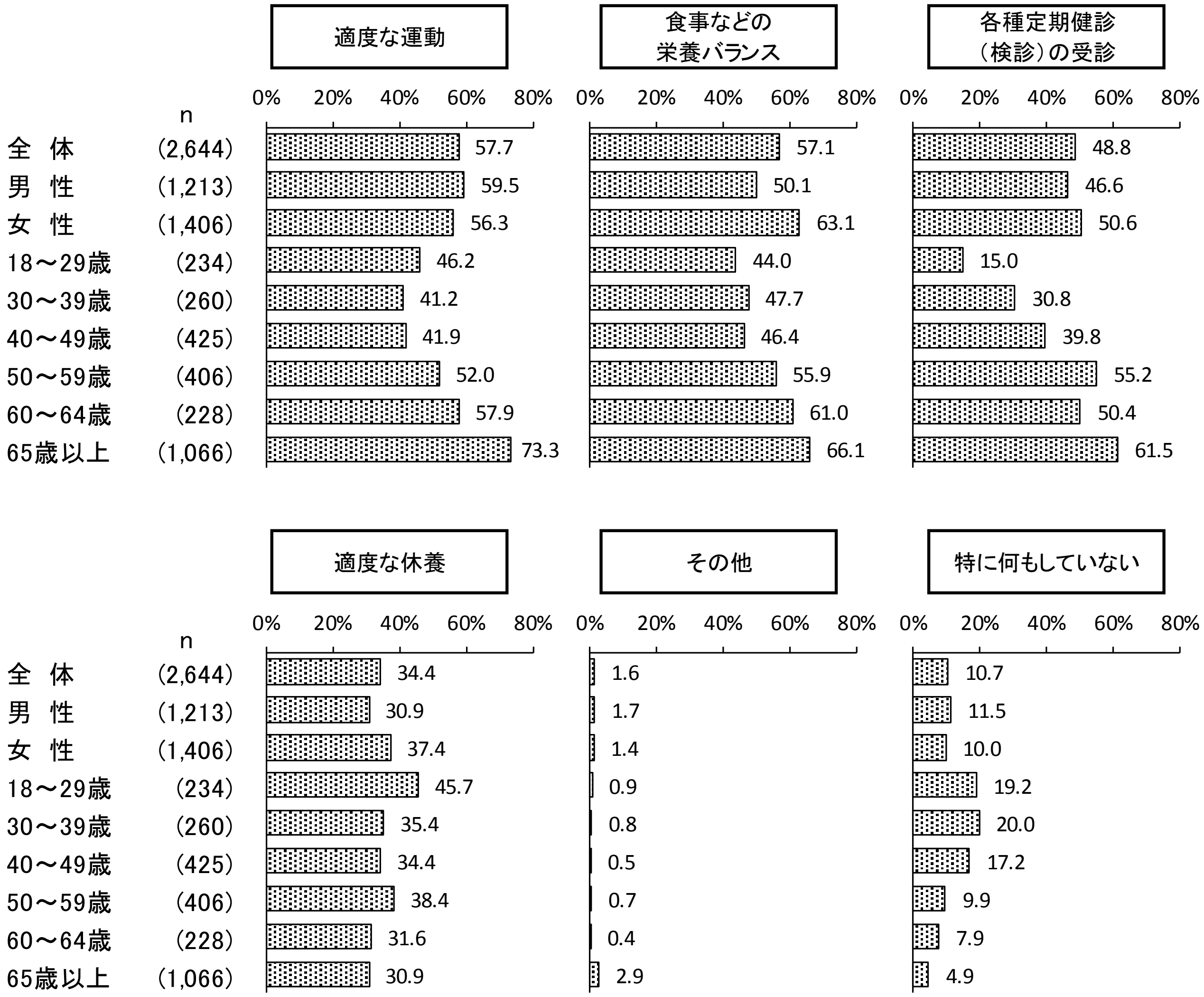
図３－２－１　健康のために心がけていることー全体、経年比較




健康の維持・増進のために、自ら心がけていることを聞いたところ、「適度な運動」（57.7％）と「食事などの栄養バランス」（57.1％）の２項目がともに６割近くで並んで最上位にあり、以下「各種定期健診（検診）の受診」（48.8％）、「適度な休養」（34.4％）などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「適度な運動」が平成29年（54.1％）より3.6ポイント増加して、平成28年（58.5％）に近いレベルとなっているのを除くと、大きな傾向の違いはみられない。
（図３－２－１）

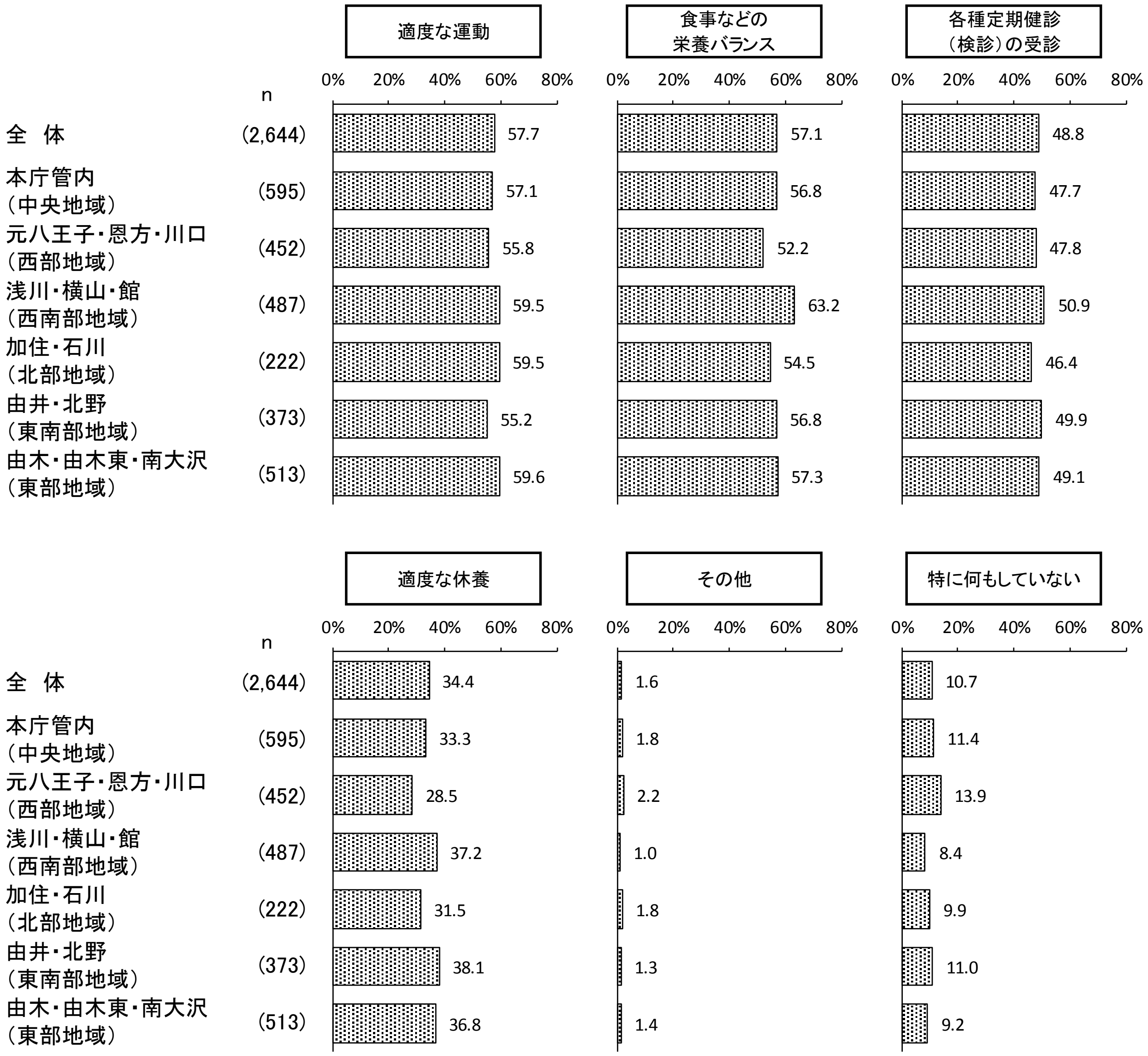
図３－２－２　健康のために心がけていること－性別、年齢別




性別にみると、「食事などの栄養バランス」は女性（63.1%）が男性（50.1%）より13.0ポイント高く、「適度な休養」も女性（37.4%）が男性（30.9%）より6.5ポイント高くなっている。一方、「適度な運動」は男性（59.5%）が女性（56.3%）より3.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「適度な運動」「食事などの栄養バランス」「各種定期健診（検診）の受診」の上位３項目は、概ね年代が上がるにつれてその割合も高まる傾向がみられ、中でも「適度な運動」は65歳以上（73.3%）で７割強と多くなっている。逆に、「各種定期健診（検診）の受診」は18～29歳（15.0%）が１割台半ばと少なくなっている。一方、「適度な休養」は18～29歳（45.7%）で４割台半ばと多く、「特に何もしていない」は30～39歳（20.0%）と18～29歳（19.2%）で２割弱～２割と多くなっている。（図３－２－２）

### 図３－２－３　健康のために心がけていること－居住地域別




居住地域別にみると、「食事などの栄養バランス」は浅川・横山・館（西南部地域）（63.2%）で６割強と多く、「適度な休養」は由井・北野（東南部地域）（38.1%）で多くなっている。一方、「特に何もしていない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（13.9%）で多くなっている。

（図３－２－３）

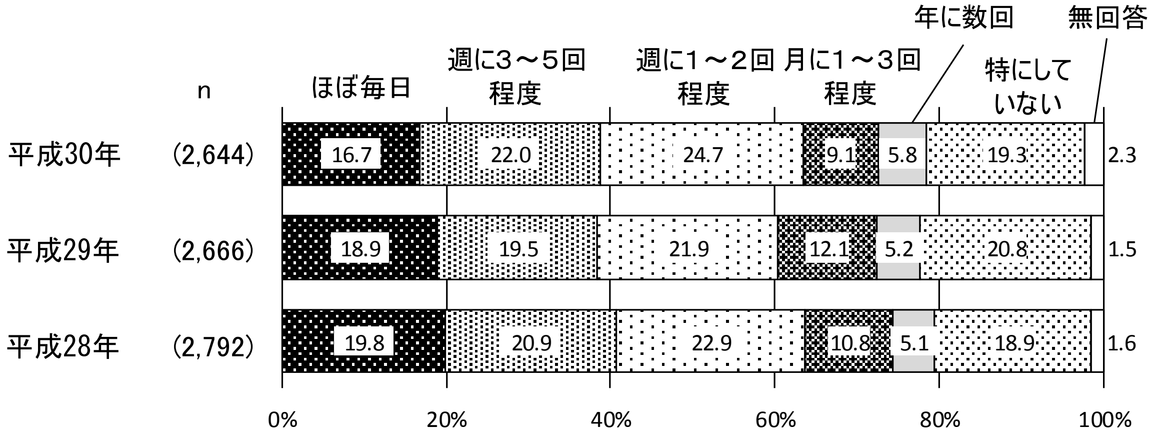
## （３）この１年間の運動頻度

### *◇≪週１回以上≫が６割強*

問15　あなたは、この１年間にどれくらいの頻度で運動をしましたか。複数の運動を行っている場合は、その合計数をお答えください。（〇は１つだけ）

※運動には、野外活動（登山やハイキングなど）や健康の維持・増進のために通勤時の自転車・徒歩、散歩（散策、ペットの散歩を含む）などで１日合計30分以上行うものも含めます。

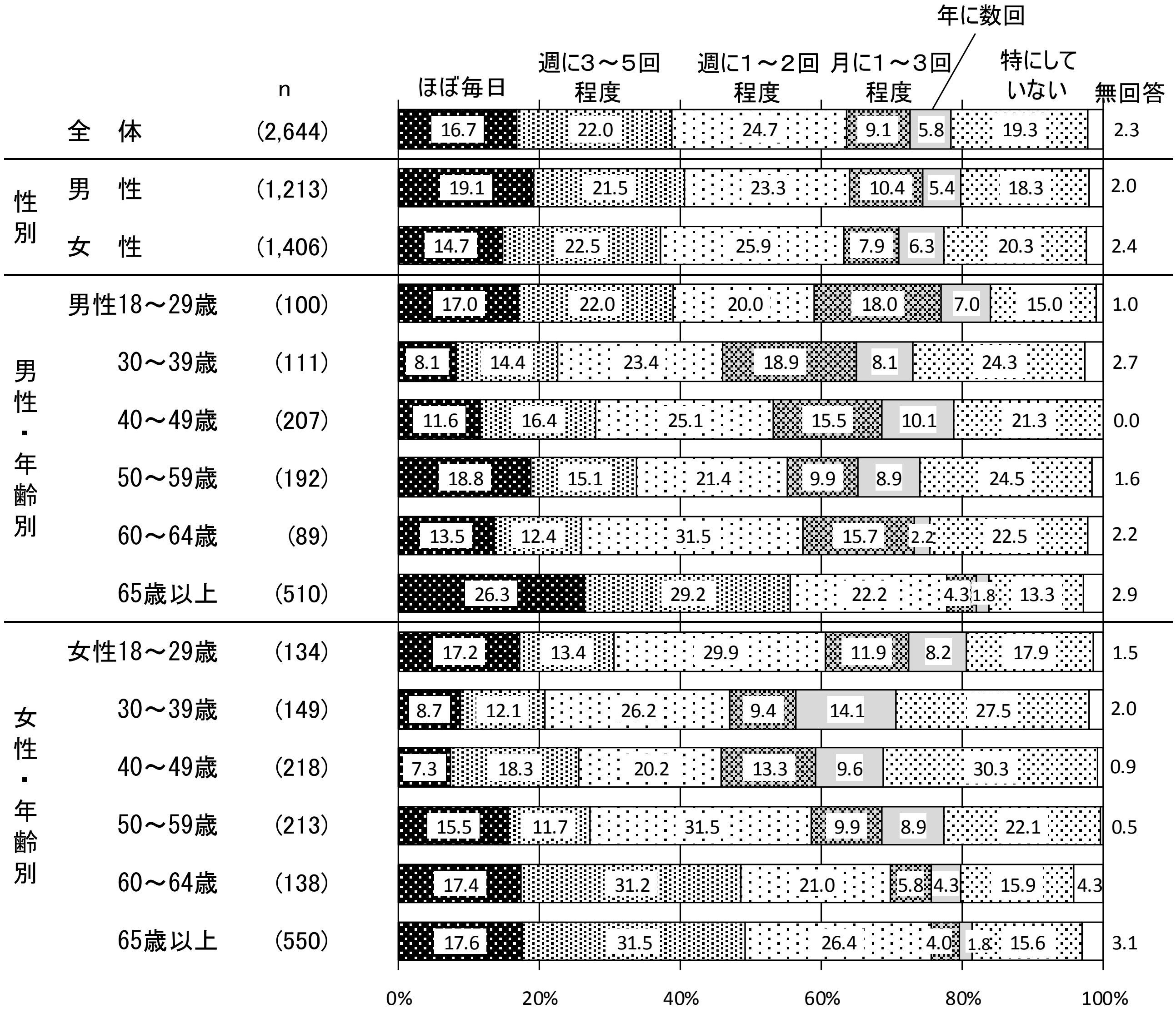
図３－３－１　この１年間の運動頻度－全体、経年比較




この１年間にどれくらいの頻度で運動をしたか聞いたところ、「ほぼ毎日」（16.7%）、「週に３～５回程度」（22.0%）、「週に１～２回程度」（24.7%）の３つを合わせた≪週１回以上≫（63.4%）は６割強となっている。「月に１～３回程度」（9.1%）が１割弱で、「特にしていない」（19.3%）は２割弱となっている。

前回までの調査と比較すると、≪週１回以上≫は平成29年（60.3%）より3.1ポイント増加して、平成28年（63.6%）と同程度となっている。（図３－３－１）

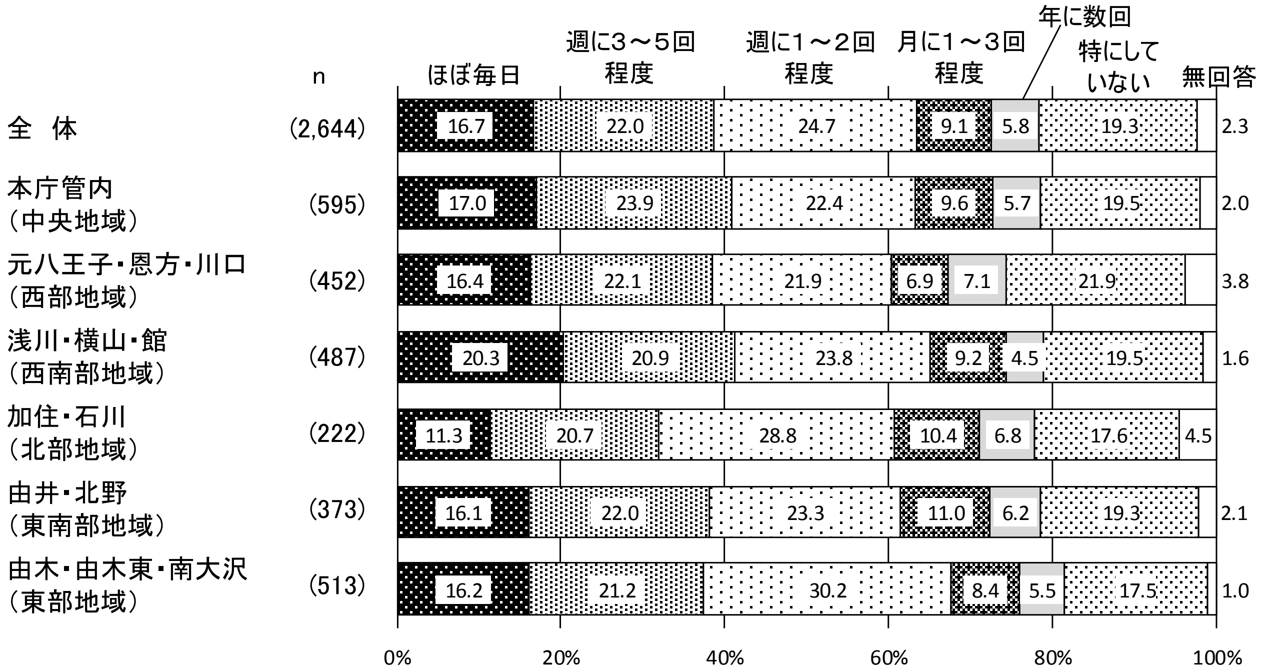
図３－３－２　この１年間の運動頻度－性別、性・年齢別




性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

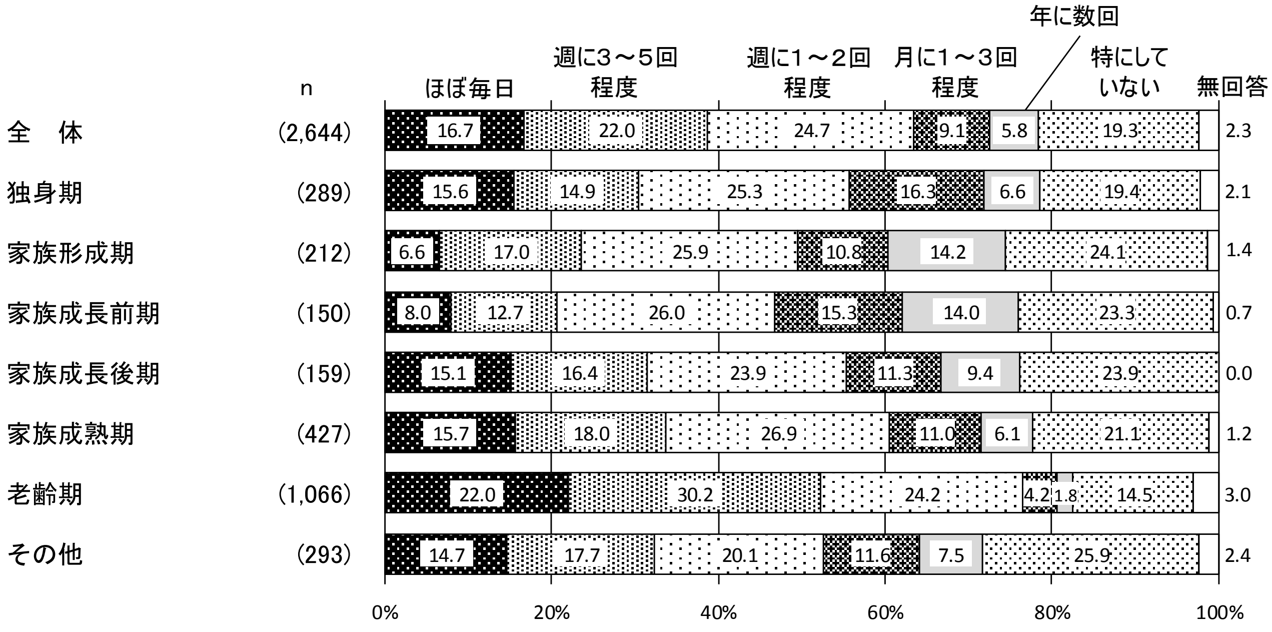
性・年齢別にみると、≪週１回以上≫は65歳以上の男女両層（男性77.7%、女性75.5%）で７割台半ば～８割近くと多くなっている一方、女性40～49歳（45.8%）と男性30～39歳（45.9%）の両層で４割台半ばと少なくなっている。（図３－３－２）

図３－３－３　この１年間の運動頻度－居住地域別




居住地域別にみると、≪週１回以上≫は由木・由木東・南大沢（東部地域）（67.6%）で７割近くと多くなっている一方、元八王子・恩方・川口（西部地域）（60.4%）と加住・石川（北部地域）（60.8%）の両地域で約６割と少なくなっている。（図３－３－３）

図３－３－４　この１年間の運動頻度－ライフステージ別




ライフステージ別にみると、≪週１回以上≫は老齢期（76.4%）で８割近くと多くなっている一方、家族成長前期（46.7%）で５割近くと少なくなっている。（図３－３－４）

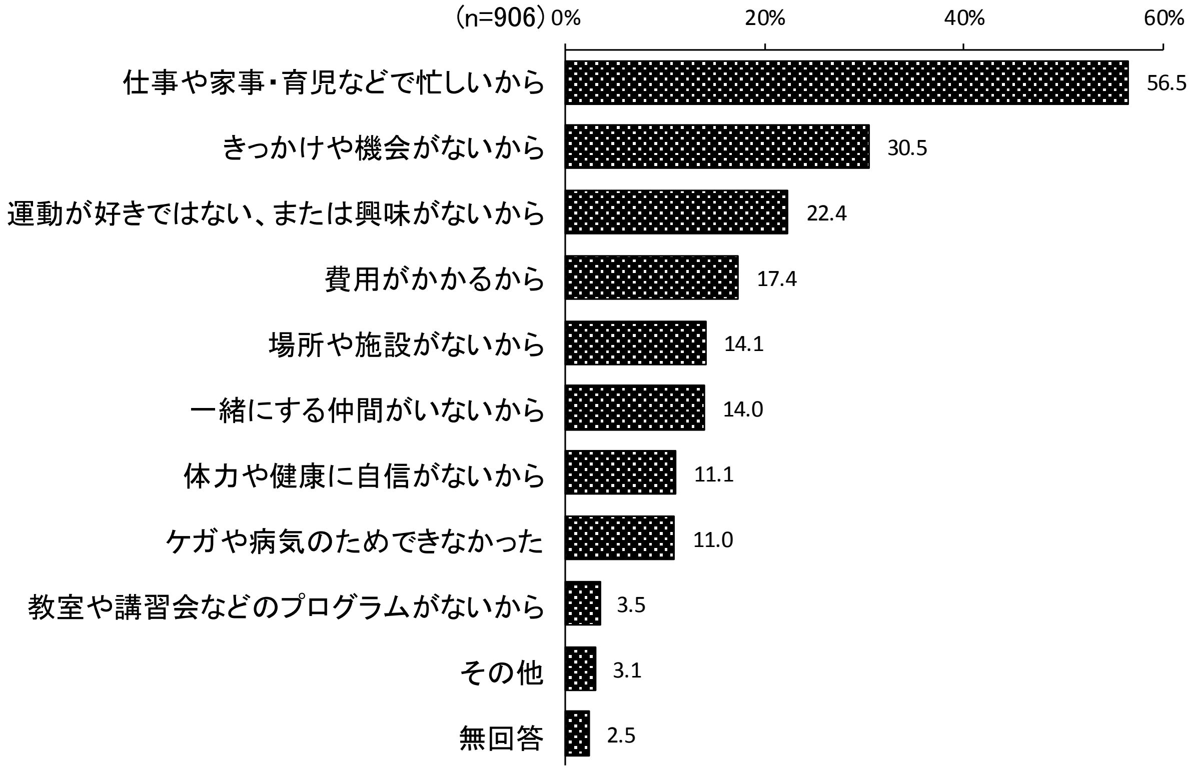
## （４）週１回以上運動しなかった理由

### *◇「仕事や家事・育児などで忙しいから」が６割近く*

（問15で「月に１～３回程度」「年に数回程度」「特にしていない」とお答えの方に）

問15－１　八王子市では平成26年に「スポーツ推進計画」を策定し、週１回以上スポーツ（運動）をする人を増やす取り組みを進めています。
あなたが、週１回以上運動しなかった理由をお知らせください。（○はいくつでも）

図３－４－１　週１回以上運動しなかった理由ー全体

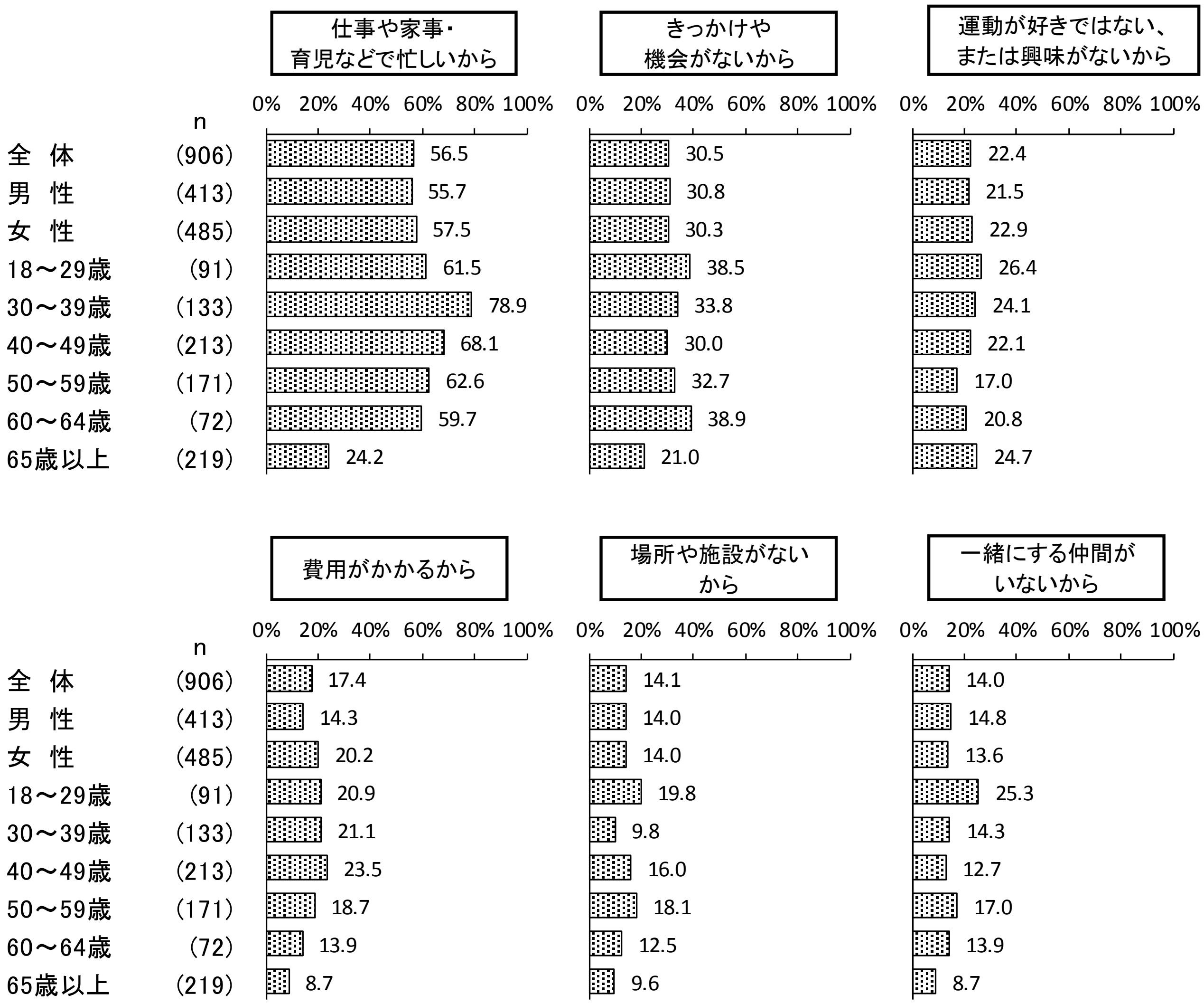



（注）新規の設問のため、経年比較はない。

この１年間で運動した頻度を「月に１～３回程度」「年に数回程度」「特にしていない」と回答した906人に、週１回以上運動しなかった理由を聞いたところ、「仕事や家事・育児などで忙しいから」（56.5％）が最も多く６割近くとなっている。以下「きっかけや機会がないから」（30.5％）、「運動が好きではない、または興味がないから」（22.4％）、「費用がかかるから」（17.4％）などの順となっている。

（図３－４－１）

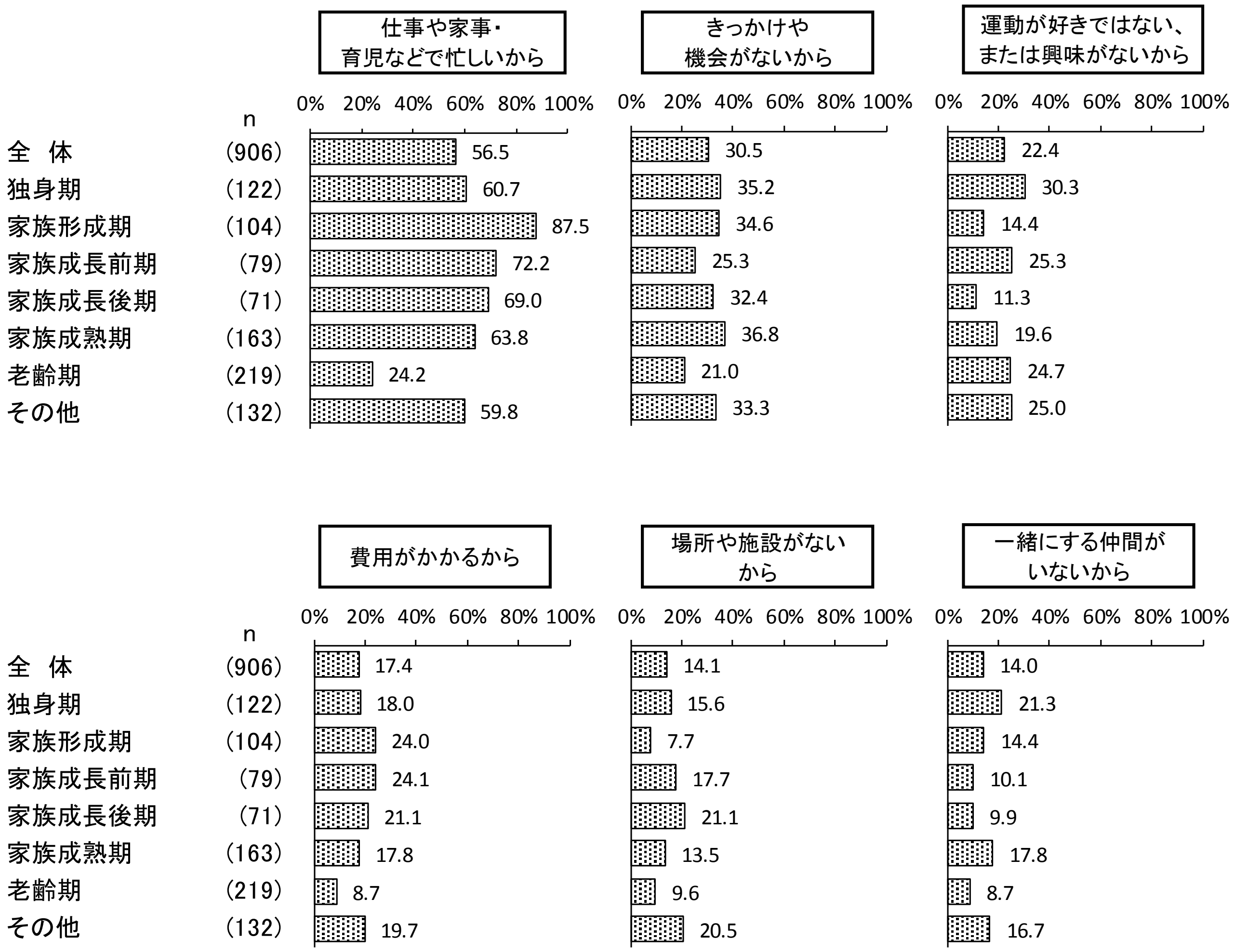
図３－４－２　週１回以上運動しなかった理由－性別、年齢別（上位６位）




性別にみると、「費用がかかるから」で女性（20.2％）が男性（14.3％）より5.9ポイント高くなっているのを除くと、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「仕事や家事・育児などで忙しいから」は30～39歳（78.9％）で８割近くと多くなっており、「きっかけや機会がないから」は60～64歳（38.9％）と18～29歳（38.5％）で４割近くと多くなっている。「一緒にする仲間がいないから」は18～29歳（25.3％）で２割台半ばと多くなっている。（図３－４－２）

図３－４－３　週１回以上運動しなかった理由－ライフステージ別（上位６位）



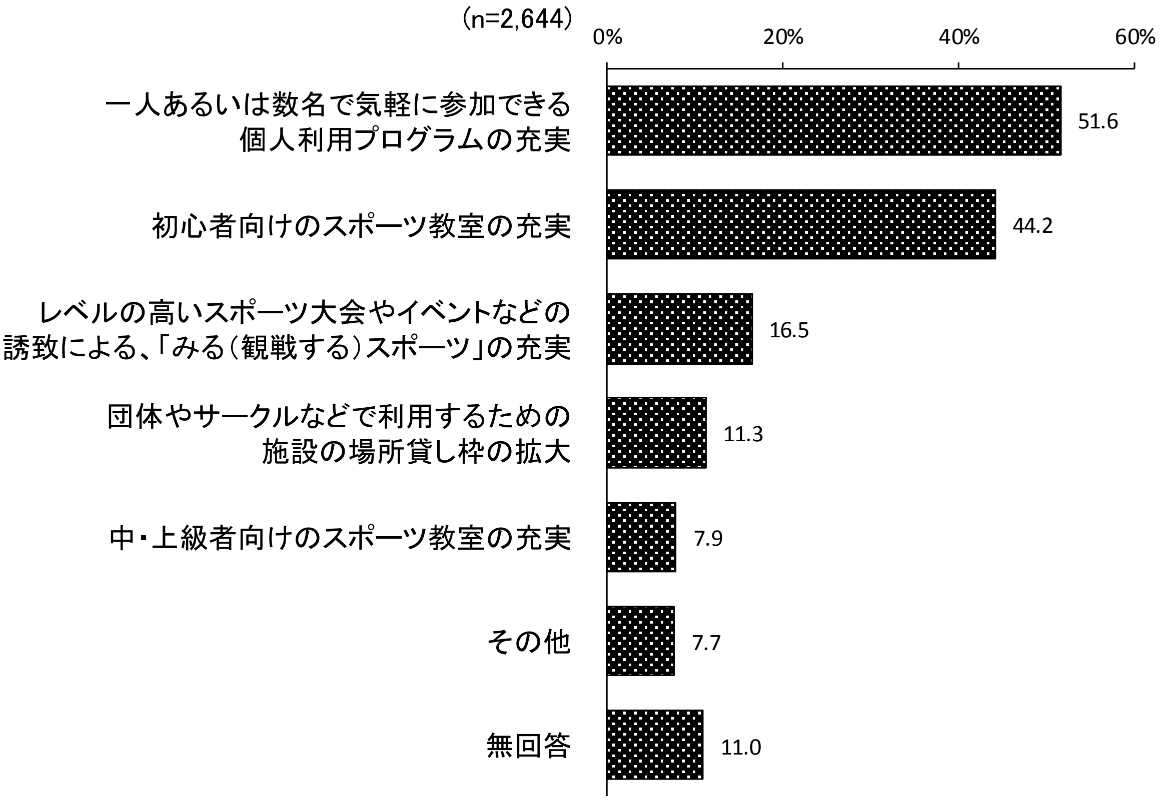

ライフステージ別にみると、「仕事や家事・育児などで忙しいから」は家族形成期（87.5%）で９割近くと多くなっており、「運動が好きではない、または興味がないから」は独身期（30.3%）で約３割と多くなっている。（図３－４－３）

## （５）市のスポーツ施設の運営で期待すること

*◇「一人あるいは数名で気軽に参加できる個人利用プログラムの充実」が５割強*

問16　あなたが市のスポーツ施設の運営に期待することは、どのようなことですか。
（○はいくつでも）

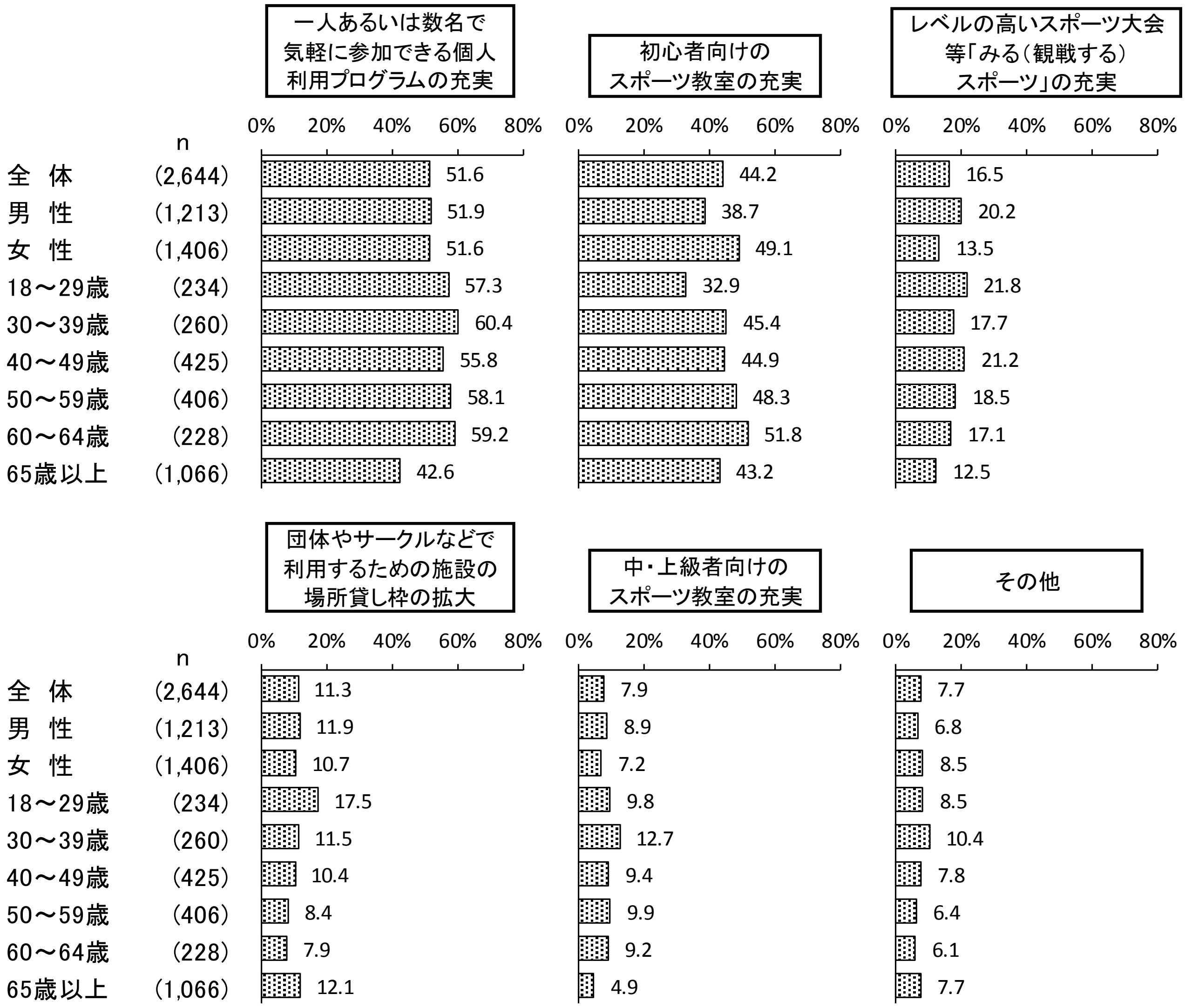
図３－５－１　市のスポーツ施設の運営で期待することー全体




（注）新規の設問のため、経年比較はない。

市のスポーツ施設の運営に期待することを聞いたところ、「一人あるいは数名で気軽に参加できる個人利用プログラムの充実」（51.6％）が最も多く５割強となっている。次いで「初心者向けのスポーツ教室の充実」（44.2％）が４割台半ばで続き、以下「レベルの高いスポーツ大会やイベントなどの誘致による、『みる（観戦する）スポーツ』の充実」（16.5％）、「団体やサークルなどで利用するための施設の場所貸し枠の充実」（11.3％）などの順となっている。（図３－５－１）

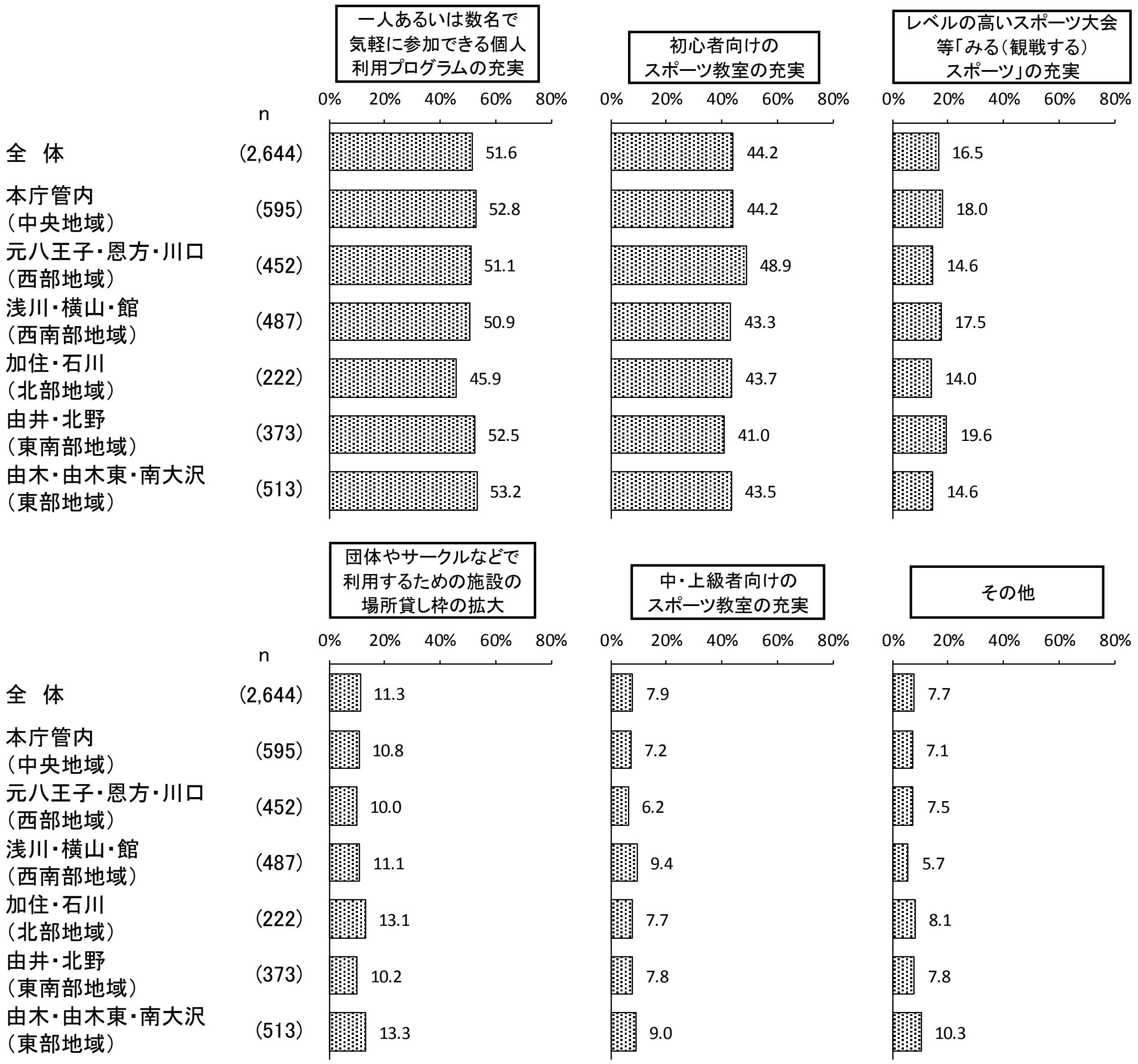
図３－５－２　市のスポーツ施設の運営で期待すること－性別、年齢別




性別にみると、「初心者向けのスポーツ教室の充実」は女性（49.1％）が男性（38.7％）より10.4ポイント高くなっており、「レベルの高いスポーツ大会やイベントなどの誘致による、『みる（観戦する）スポーツ』の充実」は男性（20.2％）が女性（13.5％）より6.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「一人あるいは数名で気軽に参加できる個人利用プログラムの充実」は30～39歳（60.4％）で約６割と最も多くなっており、「初心者向けのスポーツ教室の充実」は60～64歳（51.8％）で５割強と最も多くなっている。（図３－５－２）

## 図３－５－３　市のスポーツ施設の運営で期待すること－居住地域別




居住地域別にみると、「初心者向けのスポーツ教室の充実」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（48.9％）で多くなっており、「レベルの高いスポーツ大会やイベントなどの誘致による、『みる（観戦する）スポーツ』の充実」は由井・北野（東南部地域）（19.6％）で多くなっている。

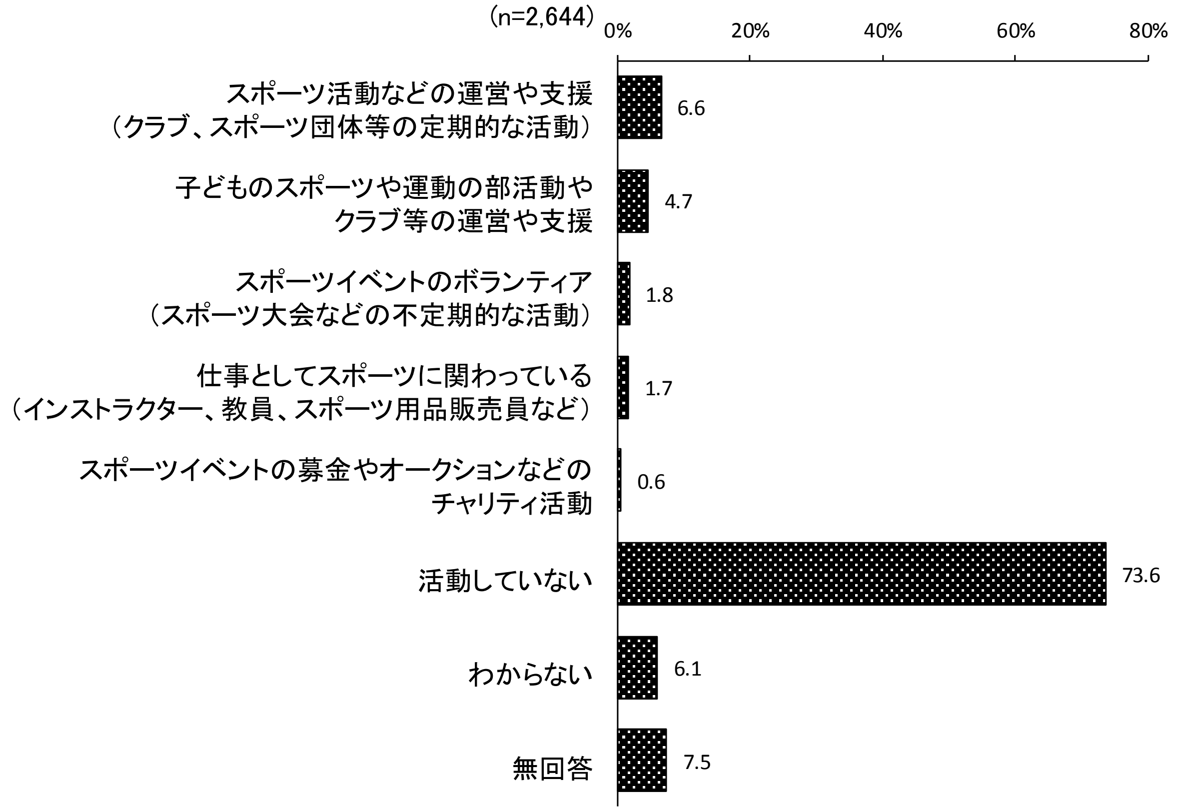
（図３－５－３）

## （６）この１年間に関わったスポーツを支える活動

### ◇「活動していない」が７割強

問17　この中に、あなたがこの１年間に関わったスポーツを支える活動がありますか。
あてはまるものに〇をつけてください。（〇はいくつでも）

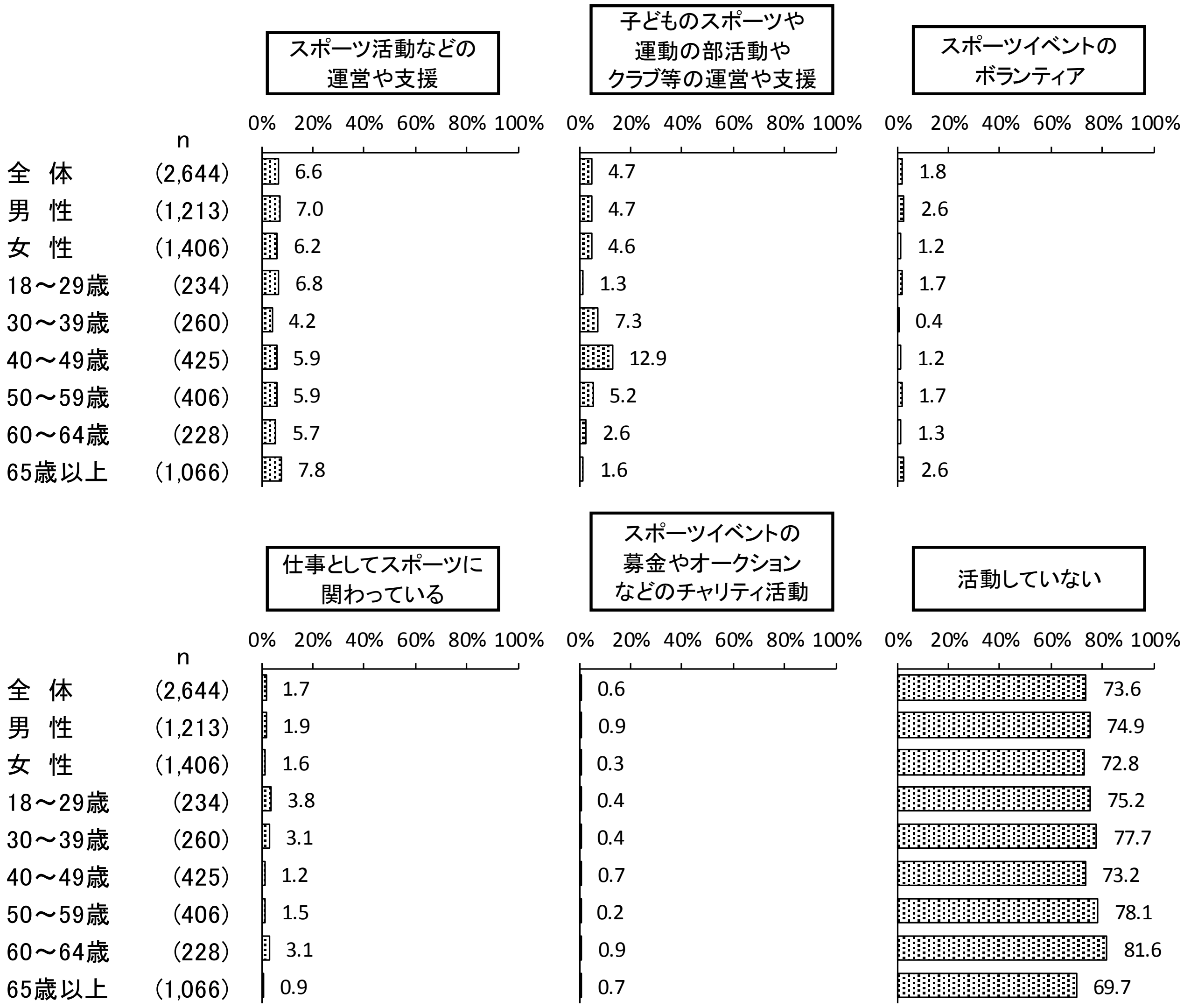
図３－６－１　この１年間に関わったスポーツを支える活動－全体




（注）新規の設問のため、経年比較はない。

この１年間に関わったスポーツを支える活動を聞いたところ、「スポーツ活動などの運営や支援（クラブ、スポーツ団体等の定期的な活動）」（6.6％）をはじめとする各活動参加者はそれぞれ１割未満で、「活動していない」（73.6％）が７割強を占めて多くなっている。（図３－６－１）

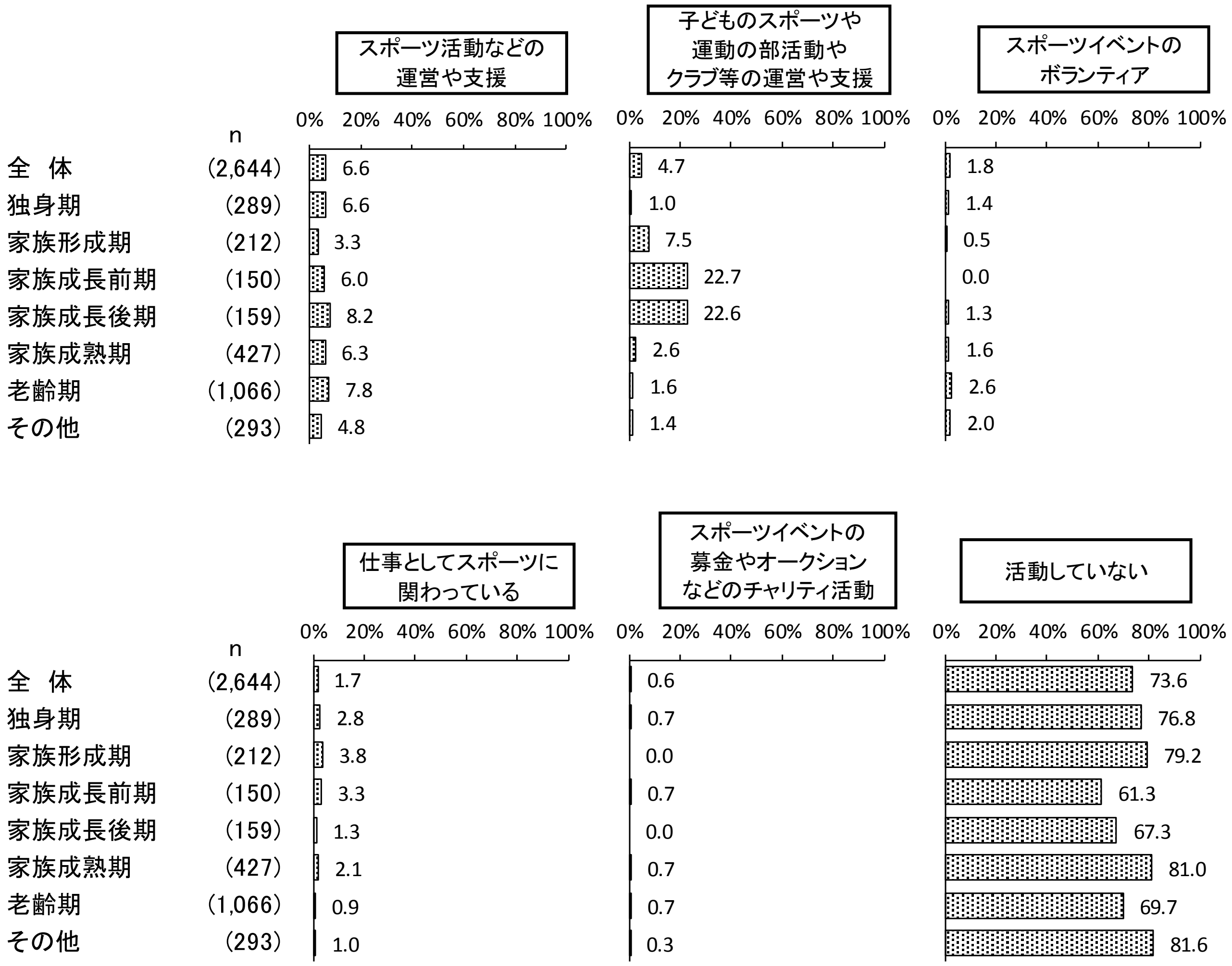
図３－６－２　この１年間に関わったスポーツを支える活動－性別、年齢別（「わからない」を除く）




性別にみると、「活動していない」で男性（74.9%）が女性（72.8%）より2.1ポイント高くなっているのを除くと、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、各活動に関して１割未満の結果が多い中、「子どものスポーツや運動の部活動やクラブ等の運営や支援」は40～49歳（12.9%）で１割強と多くなっている。一方、「活動していない」は各年代で７割弱～８割強と多くなっており、中でも60～64歳（81.6%）で８割強と最も多くなっている。（図３－６－２）

図３－６－３　この１年間に関わったスポーツを支える活動－ライフステージ別
（「わからない」を除く）




ライフステージ別にみると、「子どものスポーツや運動の部活動やクラブ等の運営や支援」は家族成長前期（22.7%）と家族成長後期（22.6%）の両層でそれぞれ２割強と多くなっている。一方、「活動していない」は家族成熟期（81.0%）とその他（81.6%）で８割強と多くなっている。

（図３－６－３）

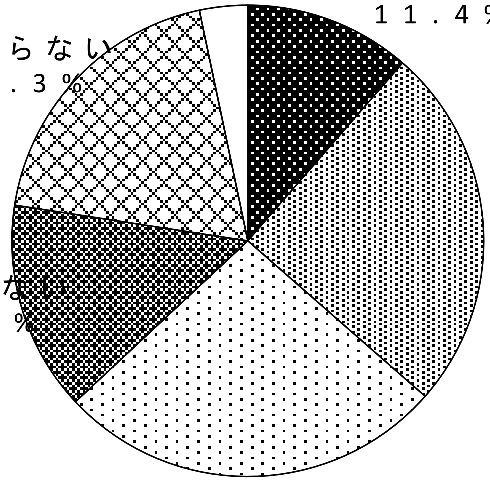
## （７）障害者スポーツへの関心

*◇≪関心がある≫が４割近く*

問18　あなたは、障害者スポーツに関心がありますか。（〇は１つだけ）

※「障害者スポーツ」とは・・・
障害があってもスポーツ活動ができるよう、障害に応じ競技規則や実施方法を変更したり、用具等を用いて障害を補ったりする工夫・適合・開発がされたスポーツのことです。

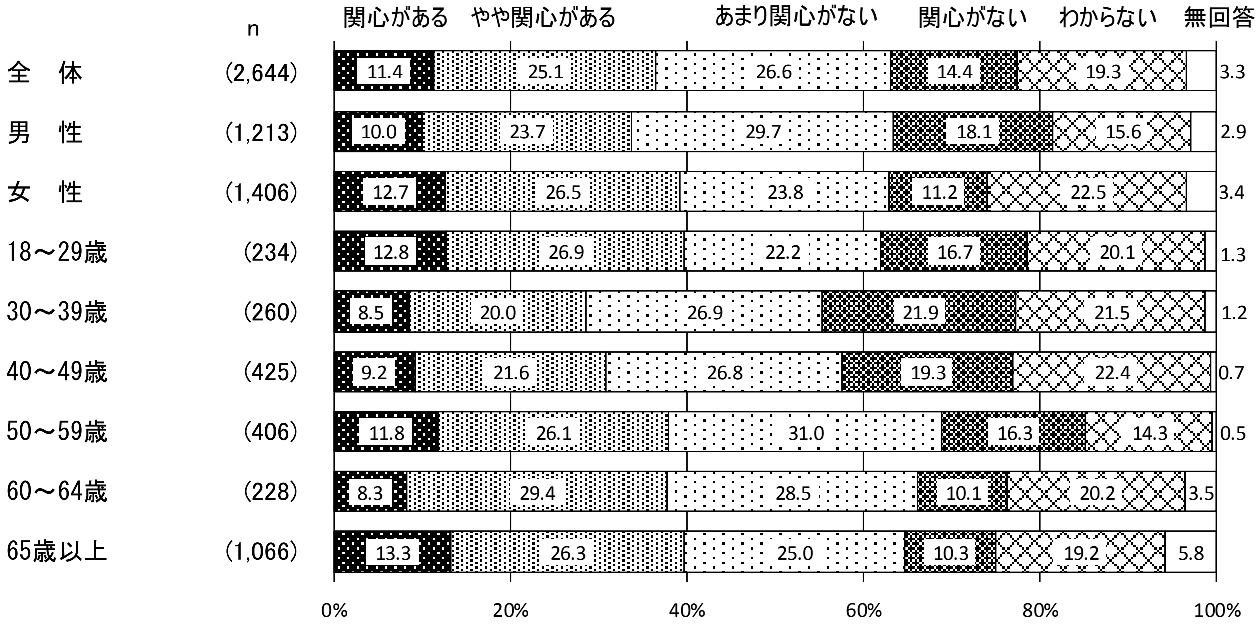
図３－７－１　障害者スポーツへの関心－全体




（注）新規の設問のため、経年比較はない。

障害者スポーツへの関心の有無を聞いたところ、「関心がある」（11.4%）と「やや関心がある」（25.1%）を合わせた≪関心がある≫（36.5%）は４割近くとなっている。一方、「あまり関心がない」（26.6%）と「関心がない」（14.4%）を合わせた≪関心がない≫（41.0%）は４割強となっている。（図３－７－１）

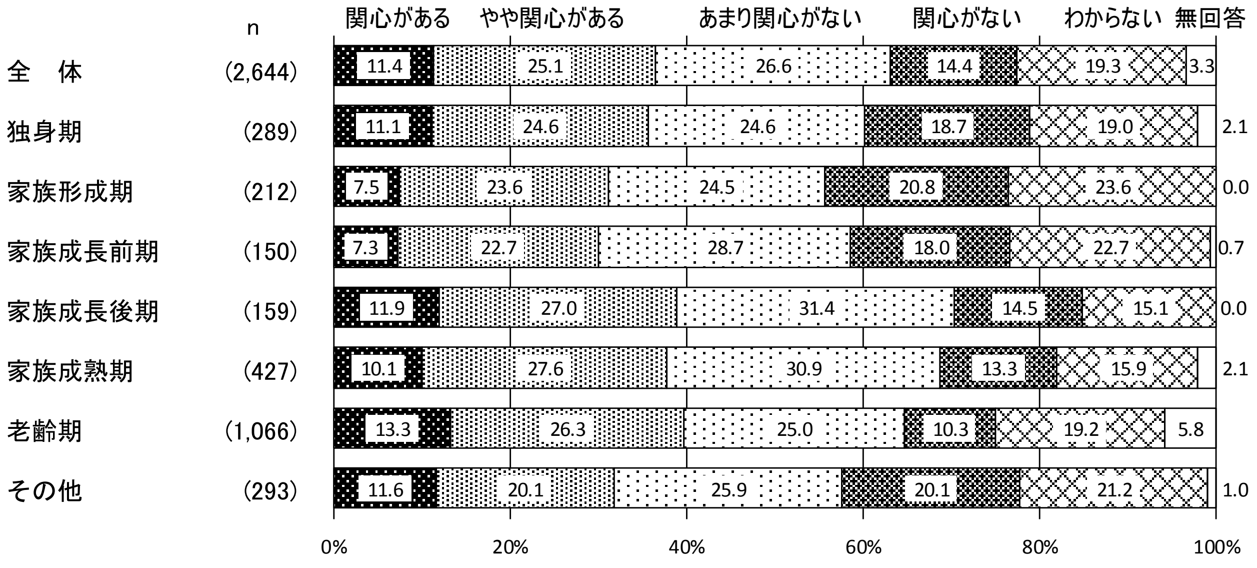
## 図３－７－２　障害者スポーツへの関心－性別、年齢別




性別にみると、≪関心がない≫は男性（47.8%）が女性（35.0%）より12.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、30～39歳は≪関心がない≫（48.8%）が５割近くで最も多くなっている一方で、≪関心がある≫（28.5%）が３割近くと少なくなっている。（図３－７－２）

## 図３－７－３　障害者スポーツへの関心－ライフステージ別



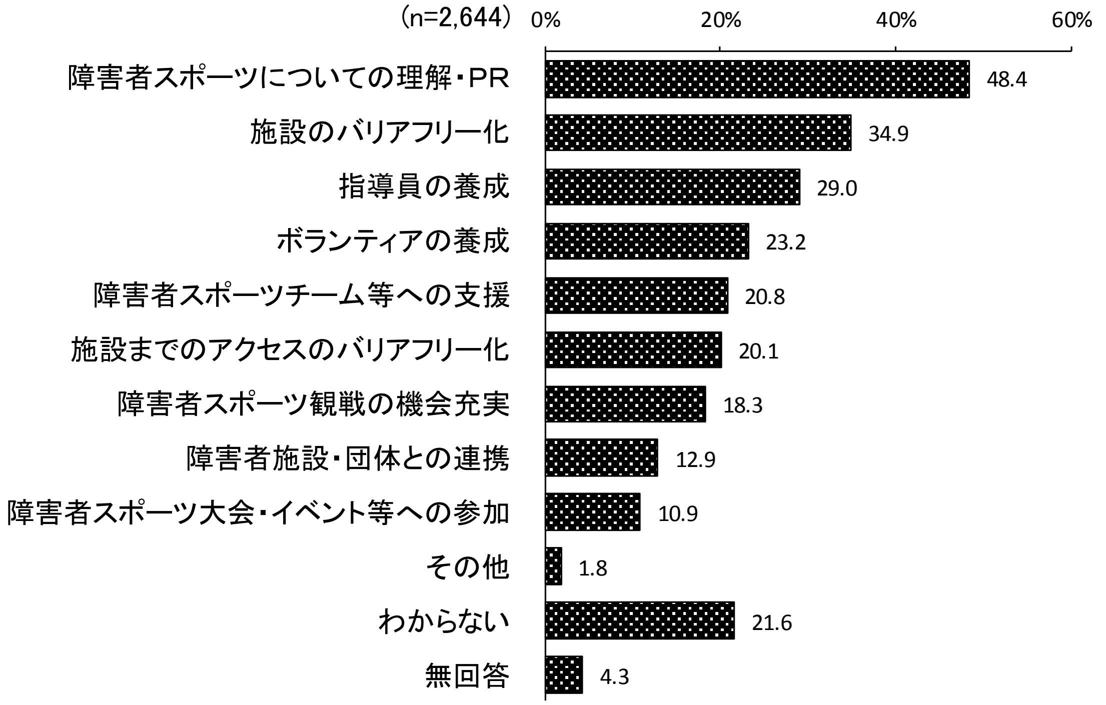

ライフステージ別にみると、≪関心がある≫は老齢期（39.6%）と家族成長後期（38.9%）の両層で４割近く～４割弱と多くなっており、家族成長前期（30.0%）で３割と最も少なくなっている。（図３－７－３）

## （８）障害者スポーツの振興に必要なこと

*◇「障害者スポーツについての理解」が５割近く*

問19　あなたは、障害者スポーツの振興を図るためにはどのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

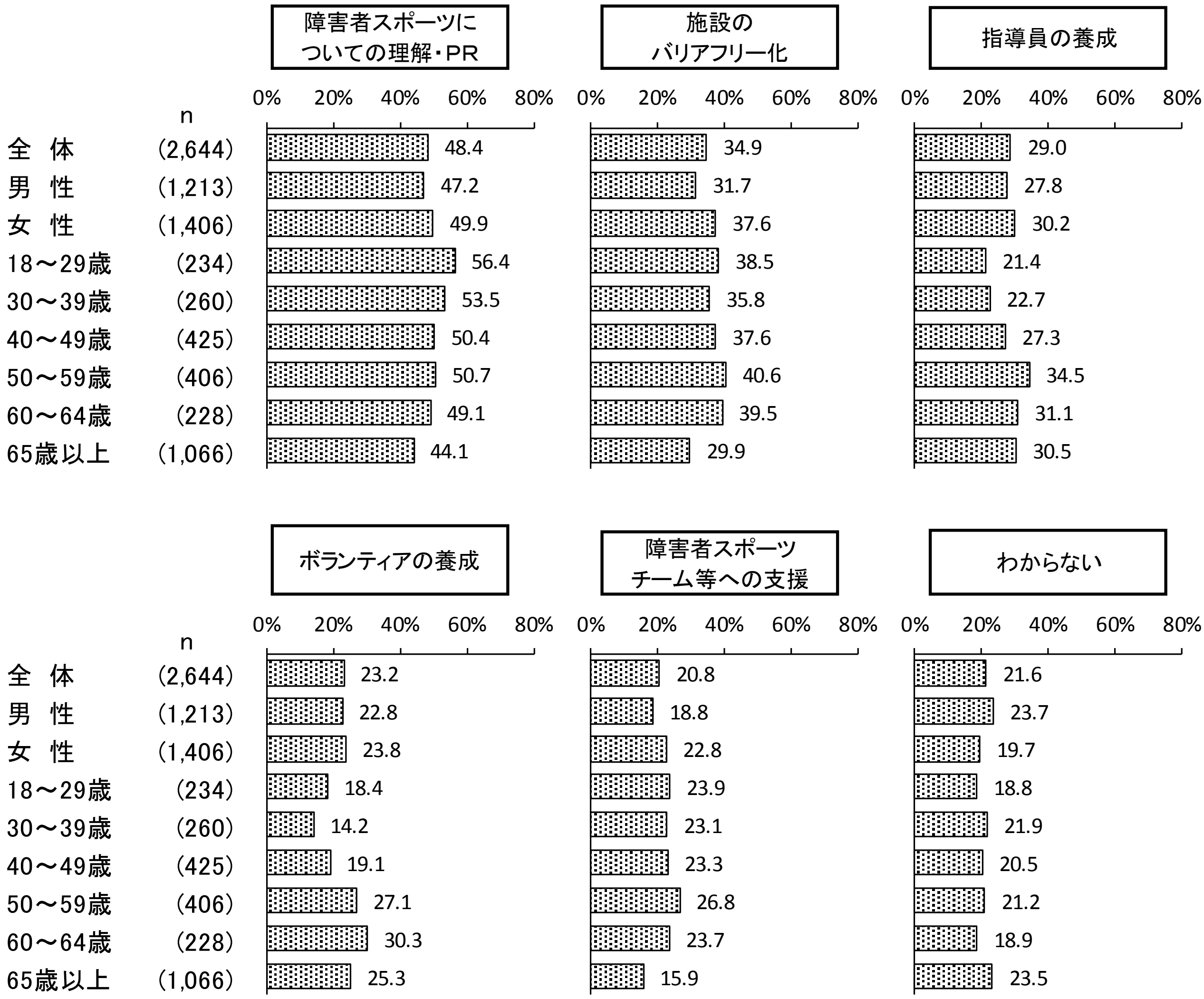
図３－８－１　障害者スポーツの振興に必要なこと－全体




（注）新規の設問のため、経年比較はない。

障害者スポーツの振興を図るために必要なことを聞いたところ、「障害者スポーツについての理解・ＰＲ」（48.4％）が５割近くで最も多く、以下「施設のバリアフリー化」（34.9％）、「指導員の養成」（29.0％）、「ボランティアの養成」（23.2％）、「障害者スポーツチーム等への支援」（20.8％）などの順となっている。（図３－８－１）

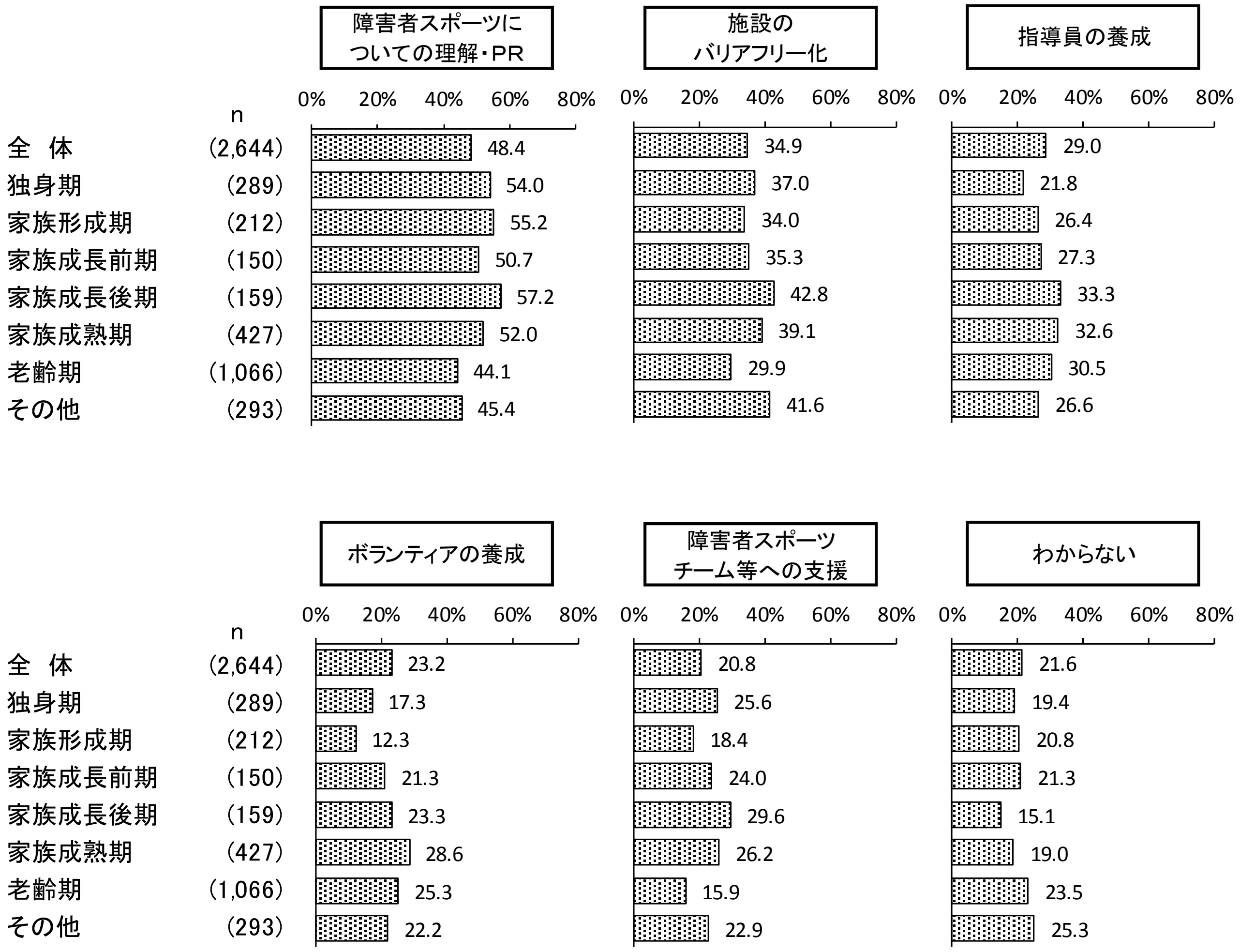
図３－８－２　障害者スポーツの振興に必要なこと－性別、年齢別（上位５位＋「わからない」）




性別にみると、「施設のバリアフリー化」は女性（37.6％）が男性（31.7％）より5.9ポイント高く、「障害者スポーツチーム等への支援」も女性（22.8％）が男性（18.8％）より4.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「障害者スポーツについての理解・ＰＲ」は18～29歳（56.4％）で、「施設のバリアフリー化」は50～59歳（40.6％）、「ボランティアの養成」は60～64歳（30.3％）で、それぞれ最も多くなっている。（図３－８－２）

図３－８－３　障害者スポーツの振興に必要なこと－ライフステージ別
（上位５位＋「わからない」）




ライフステージ別にみると、家族成長後期で「障害者スポーツについての理解・ＰＲ」（57.2％）、「施設のバリアフリー化」（42.8％）、「指導員の養成」（33.3％）、「障害者スポーツチーム等への支援」（29.6％）の４項目がいずれも最も多くなっており、「ボランティアの養成」は家族成熟期（28.6％）で３割近くと最も多くなっている。（図３－８－３）

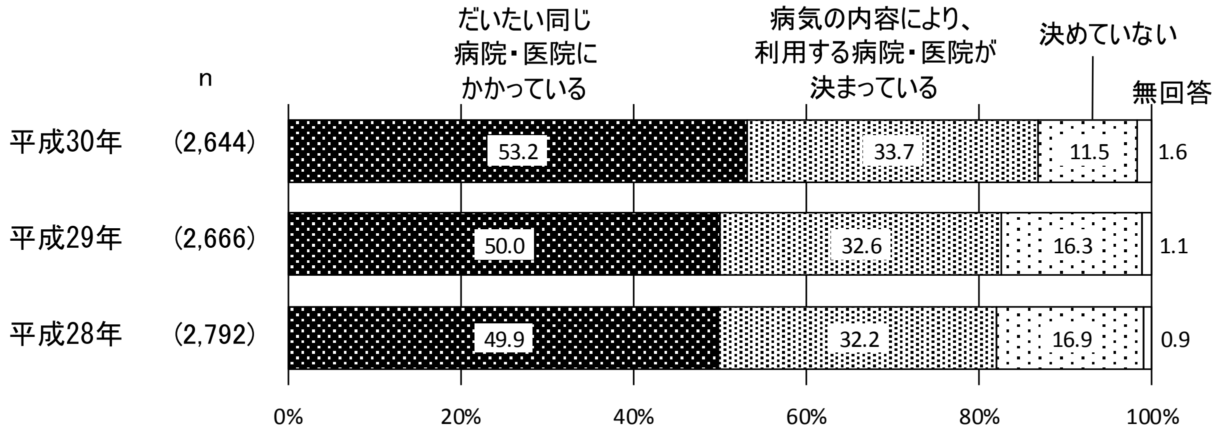
## （９）かかりつけの医療機関の有無

### *◇≪かかりつけの医療機関を決めている≫が９割近く*

問20　あなたは、かかりつけの医療機関を決めていますか。（○は１つだけ）

※「かかりつけの医療機関」とは・・・
日常的な診療や健康管理等を行ってくれる身近な医療機関のことで、ふだんの健康管理、病気の初期治療のほか、大病院での検査や治療が必要かどうかの判断、紹介などをしてくれます。

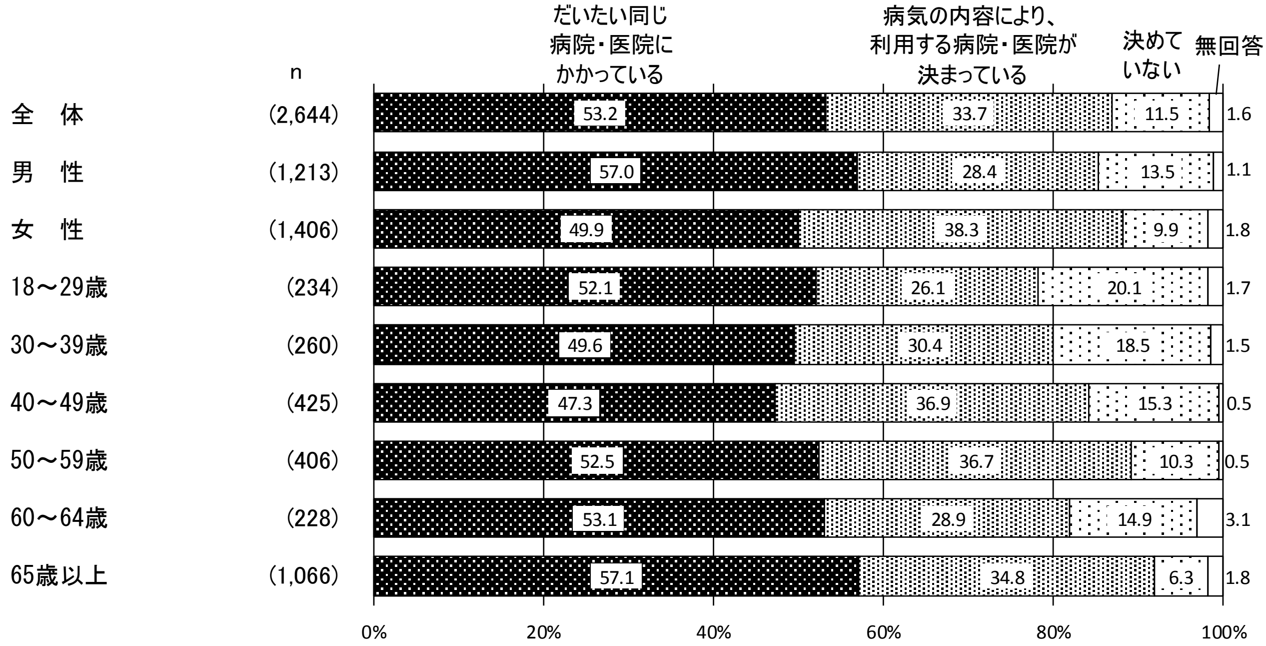
図３－９－１　かかりつけの医療機関の有無－全体、経年比較




かかりつけの医療機関を決めているか聞いたところ、「だいたい同じ病院・医院にかかっている」（53.2%）が最も多く５割強となっている。これに「病気の内容により、利用する病院・医院が決まっている」（33.7%）を合わせた≪かかりつけの医療機関を決めている≫（86.9%）は９割近くとなっている。一方、「決めていない」（11.5%）は１割強となっている。

前回までの調査と比較すると、≪かかりつけの医療機関を決めている≫は平成29年（82.6%）より4.3ポイント増加しており、２年続けての増加となっている。（図３－９－１）

図３－９－２　かかりつけの医療機関の有無－性別、年齢別

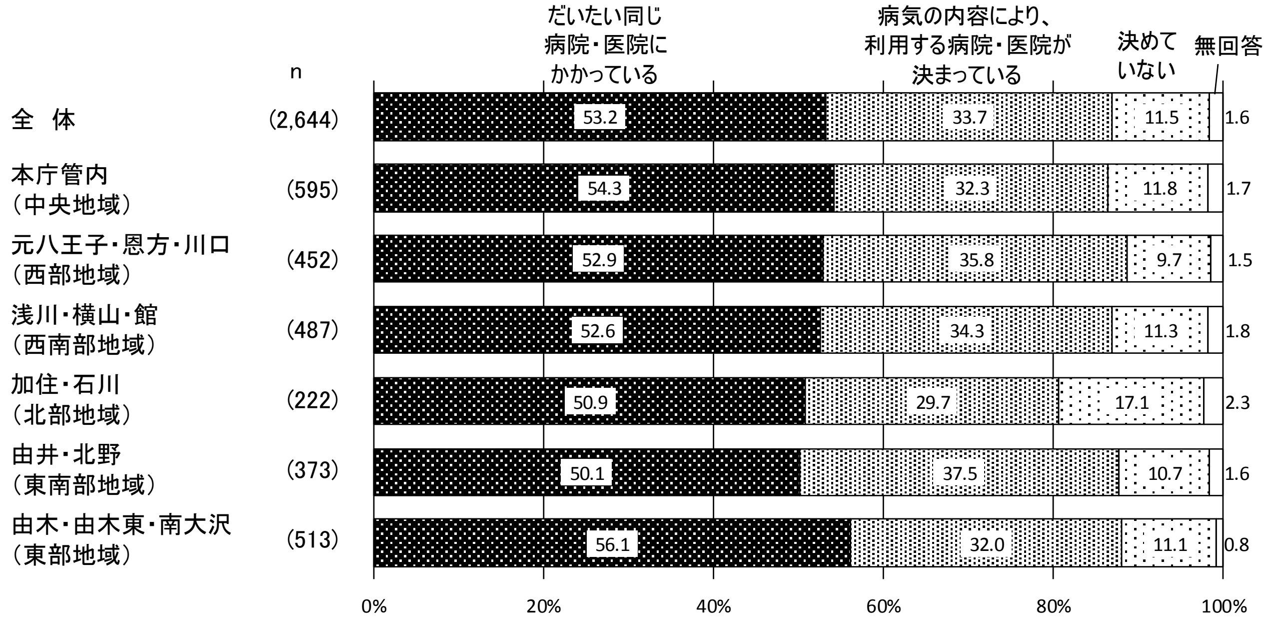



性別にみると、≪かかりつけの医療機関を決めている≫は女性（88.2%）が男性（85.4%）より2.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、≪かかりつけの医療機関を決めている≫は65歳以上（91.9%）で９割強と多くなっている。一方、「決めていない」は18～29歳（20.1%）で約２割と最も多くなっている。

（図３－９－２）

図３－９－３　かかりつけの医療機関の有無－居住地域別




居住地域別にみると、≪かかりつけの医療機関を決めている≫が加住・石川（北部地域）（80.6%）で約８割と少なくなっているのを除くと、大きな傾向の違いはみられない。（図３－９－３）

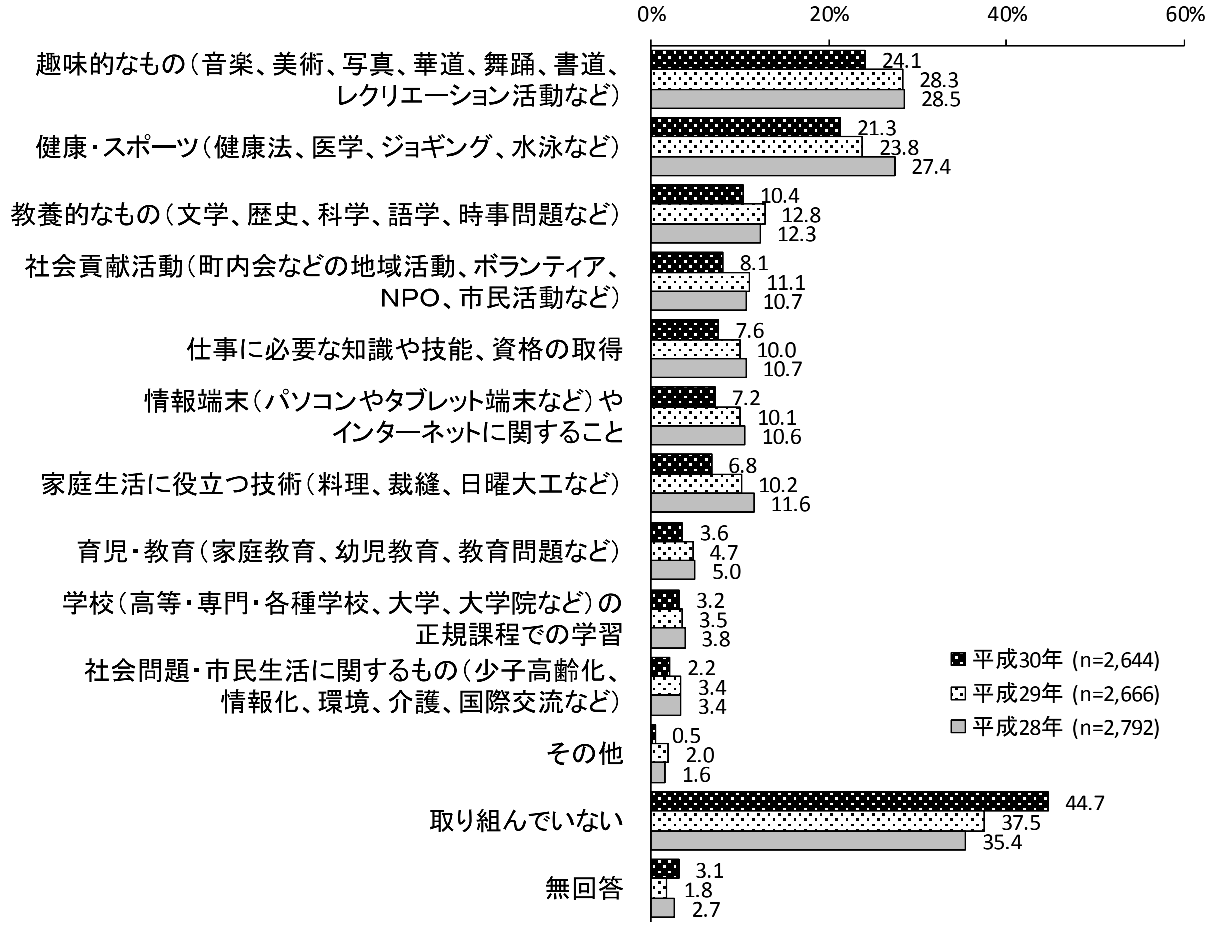
## （10）この１年間に取り組んだ生涯学習活動

***◇「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」が2割台半ば***

問21　あなたはこの１年間に、次のうちどのような生涯学習活動に取り組みましたか。

（〇はいくつでも）

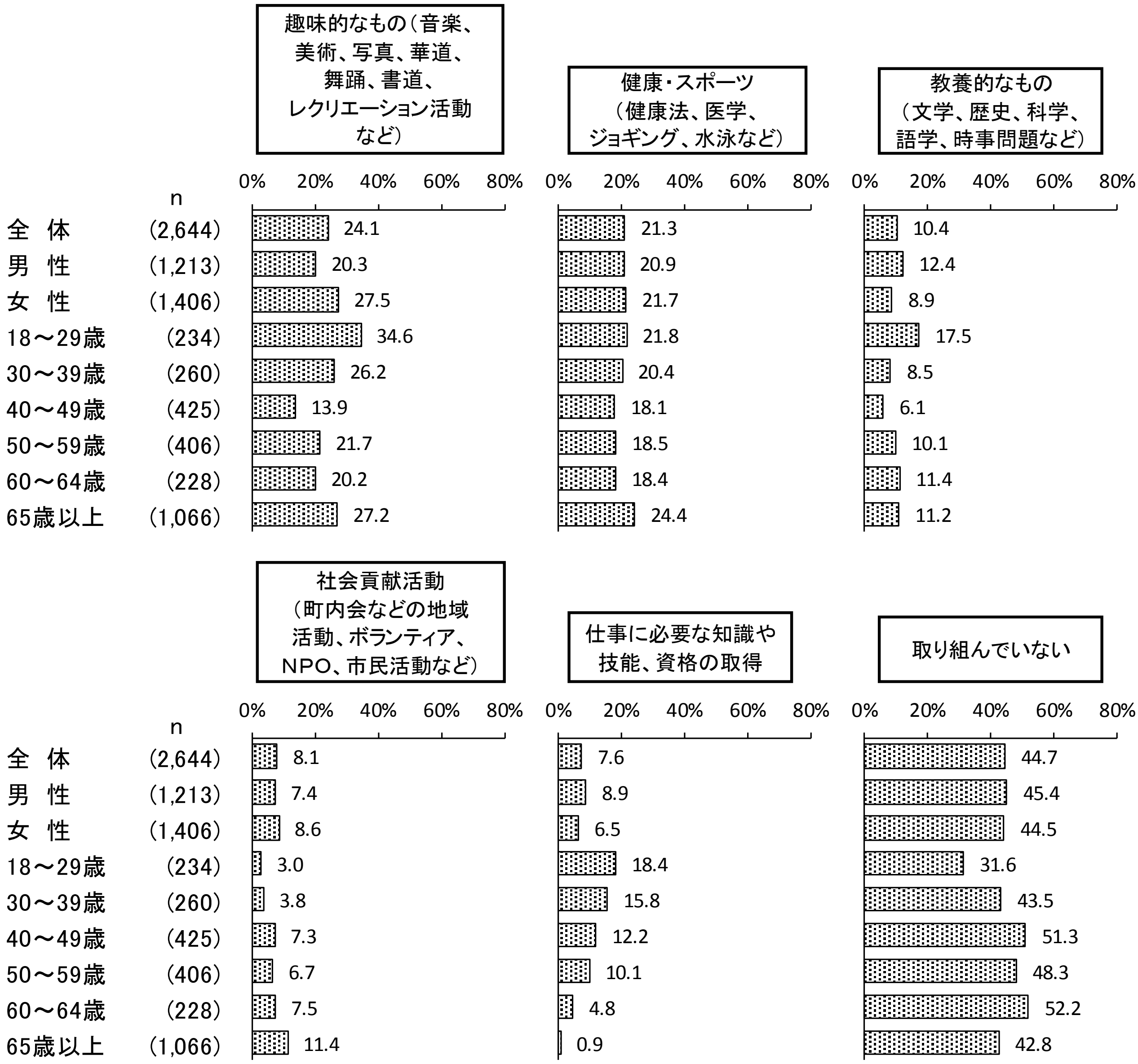
図３－10－１　この１年間に取り組んだ生涯学習活動－全体、経年比較




この１年間に取り組んだ生涯学習活動を聞いたところ、「取り組んでいない」（44.7%）を除くと、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」（24.1%）が最も多く２割台半ばとなっている。次いで「健康・スポーツ（健康法、医学、ジョギング、水泳など）」（21.3%）が２割強で続き、以下「教養的なもの（文学、歴史、科学、語学、時事問題など）」（10.4%）などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「取り組んでいない」（44.7%）が、平成29年（37.5%）より7.2ポイント増加、平成28年（35.4%）より9.3ポイント増加しており、生涯学習活動各項目の回答比率は上位項目を中心に、すべての項目で直近過去２年の比率を下回る結果となっている。ただし、各項目の回答比率の順位に経年変化はほとんどみられない。（図３－10－１）

図３－10－２　この１年間に取り組んだ生涯学習活動－性別、年齢別（上位５位＋「取り組んでいない」）

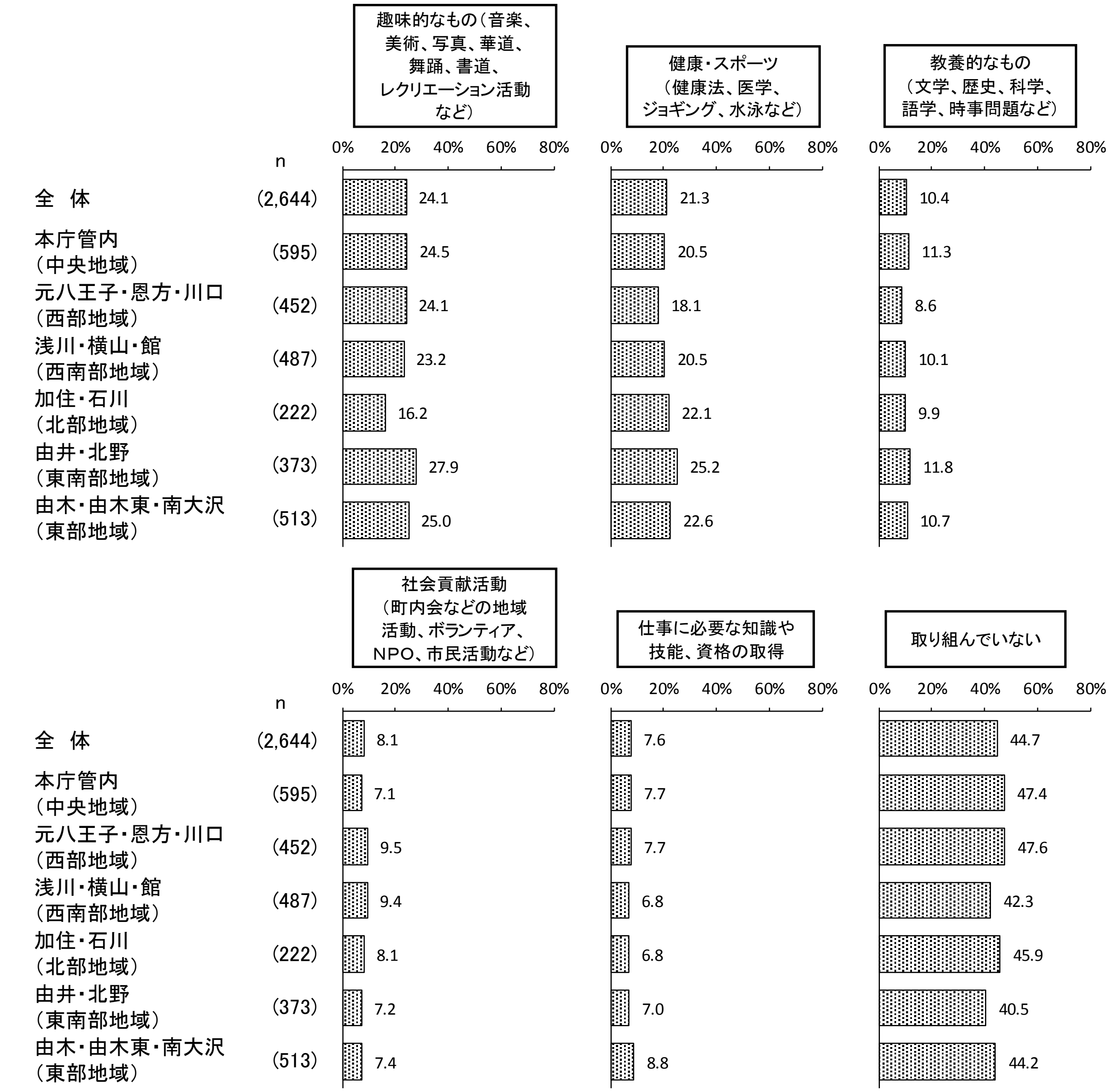



性別にみると、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」は女性（27.5％）が男性（20.3％）より7.2ポイント高くなっているが、「教養的なもの（文学、歴史、科学、語学、時事問題など）」は男性（12.4％）が女性（8.9％）より3.5ポイント高く、「仕事に必要な知識や技能、資格の取得」も男性（8.9％）が女性（6.5％）より2.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」「教養的なもの（文学、歴史、科学、語学、時事問題など）」「仕事に必要な知識や技能、資格の取得」の３項目はいずれも18～29歳で多くなっている。一方、「健康・スポーツ（健康法、医学、ジョギング、水泳など）」は65歳以上（24.4％）で多く、「社会貢献活動（町内会などの地域活動、ボランティア、ＮＰＯ、市民活動など）」も65歳以上（11.4％）で多くなっている。

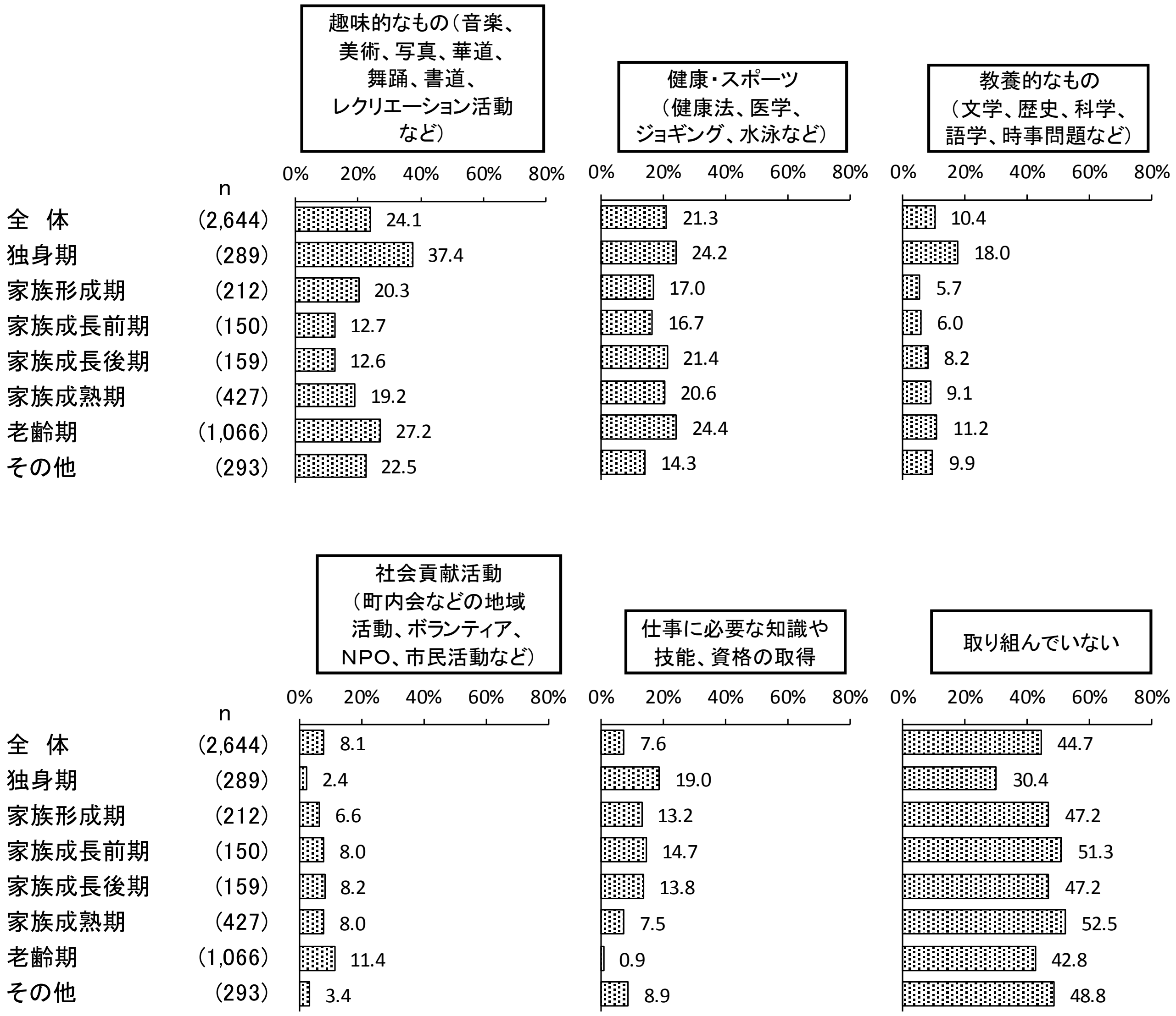
（図３－10－２）

## 図３－10－３　この１年間に取り組んだ生涯学習活動－居住地域別（上位５位＋「取り組んでいない」）




居住地域別にみると、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」が由井・北野（東南部地域）（27.9％）で多く、加住・石川（北部地域）（16.2％）で２割近くと少なくなっている。また、由井・北野（東南部地域）は「健康・スポーツ（健康法、医学、ジョギング、水泳など）」（25.2％）も２割台半ばと多い一方、「取り組んでいない」（40.5％）が約４割と少なくなっている。（図３－10－３）

図３－10－４　この１年間に取り組んだ生涯学習活動－ライフステージ別
（上位５位＋「取り組んでいない」）




ライフステージ別にみると、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」「教養的なもの（文学、歴史、科学、語学、時事問題など）」「仕事に必要な知識や技能、資格の取得」の３項目はいずれも独身期で多くなっている。一方、「取り組んでいない」は家族成熟期（52.5%）と家族成長前期（51.3%）の両層でそれぞれ５割強と多くなっている。

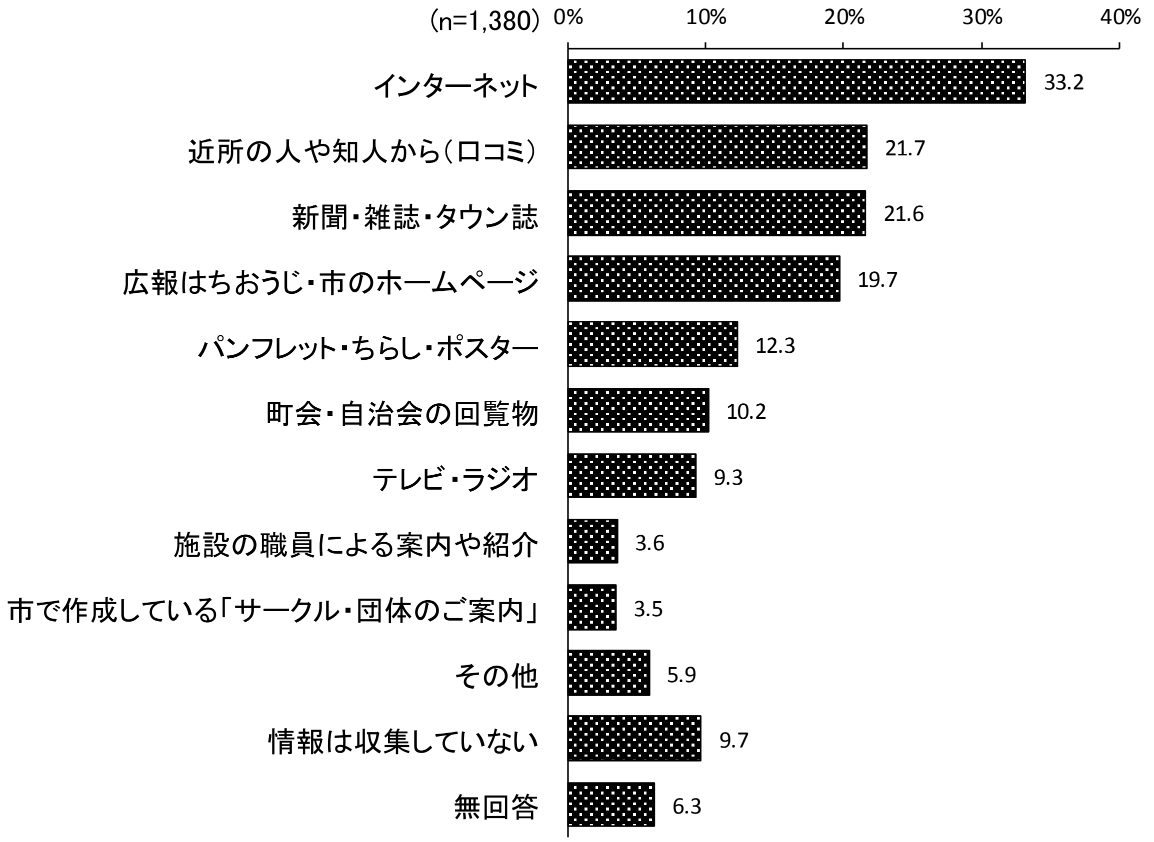
（図３－10－４）

## （11）生涯学習活動の情報入手手段

*◇「インターネット」が３割強*

（問21で「取り組んでいない」以外のいずれかにお答えの方に）
問21－１　あなたが行っている学習や活動に関する情報は何でお知りになりましたか。
（○はいくつでも）

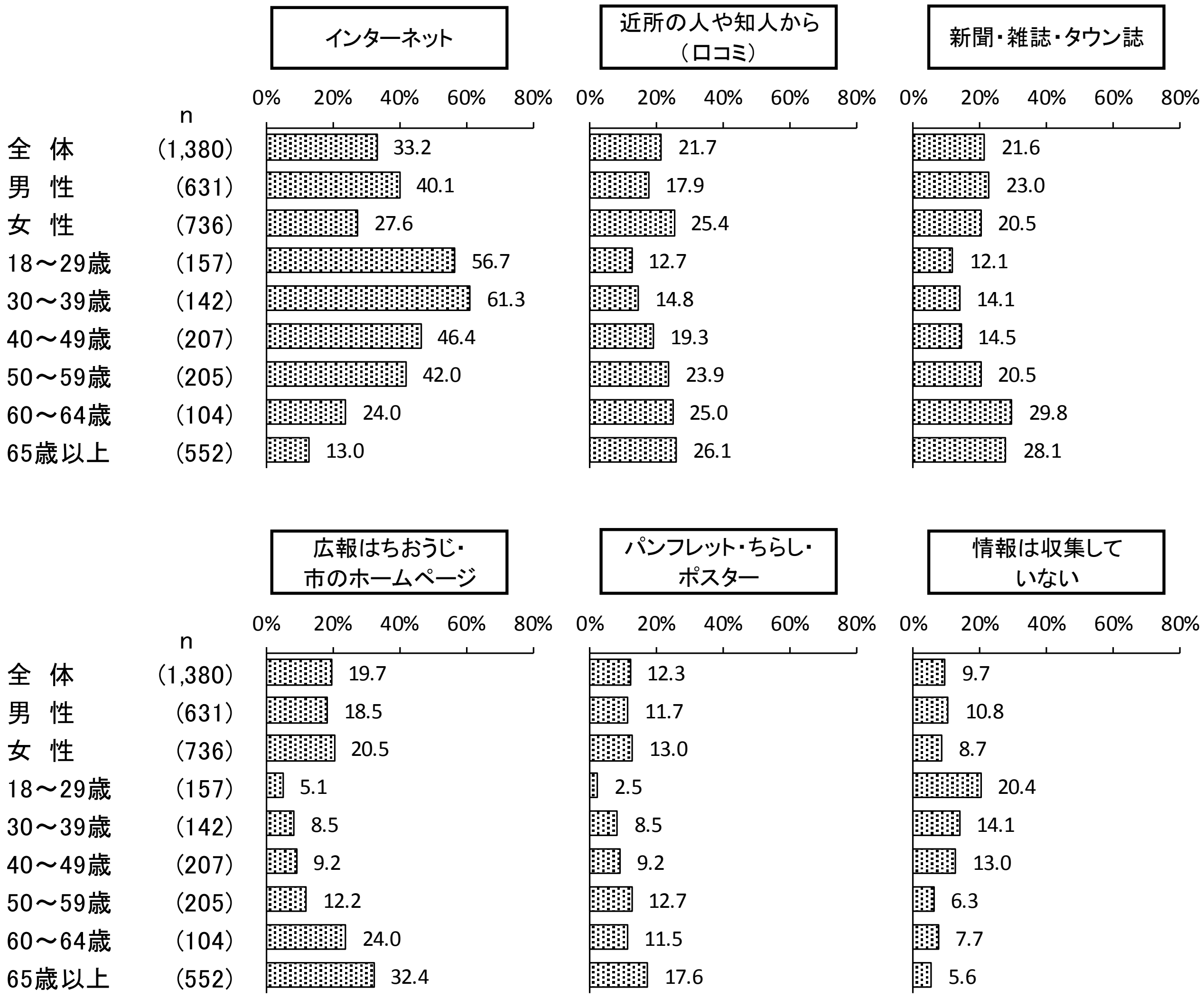
図３－11－１　生涯学習活動の情報入手手段－全体




（注）新規の設問のため、経年比較はない。

この１年間に取り組んだ生涯学習活動があると回答した1,380人に生涯学習活動の情報入手手段を聞いたところ、「インターネット」（33.2％）が最も多く３割強となっている。以下「近所の人や知人から（口コミ）」（21.7％）、「新聞・雑誌・タウン誌」（21.6％）、「広報はちおうじ・市のホームページ」（19.7％）などの順となっている。（図３－11－１）

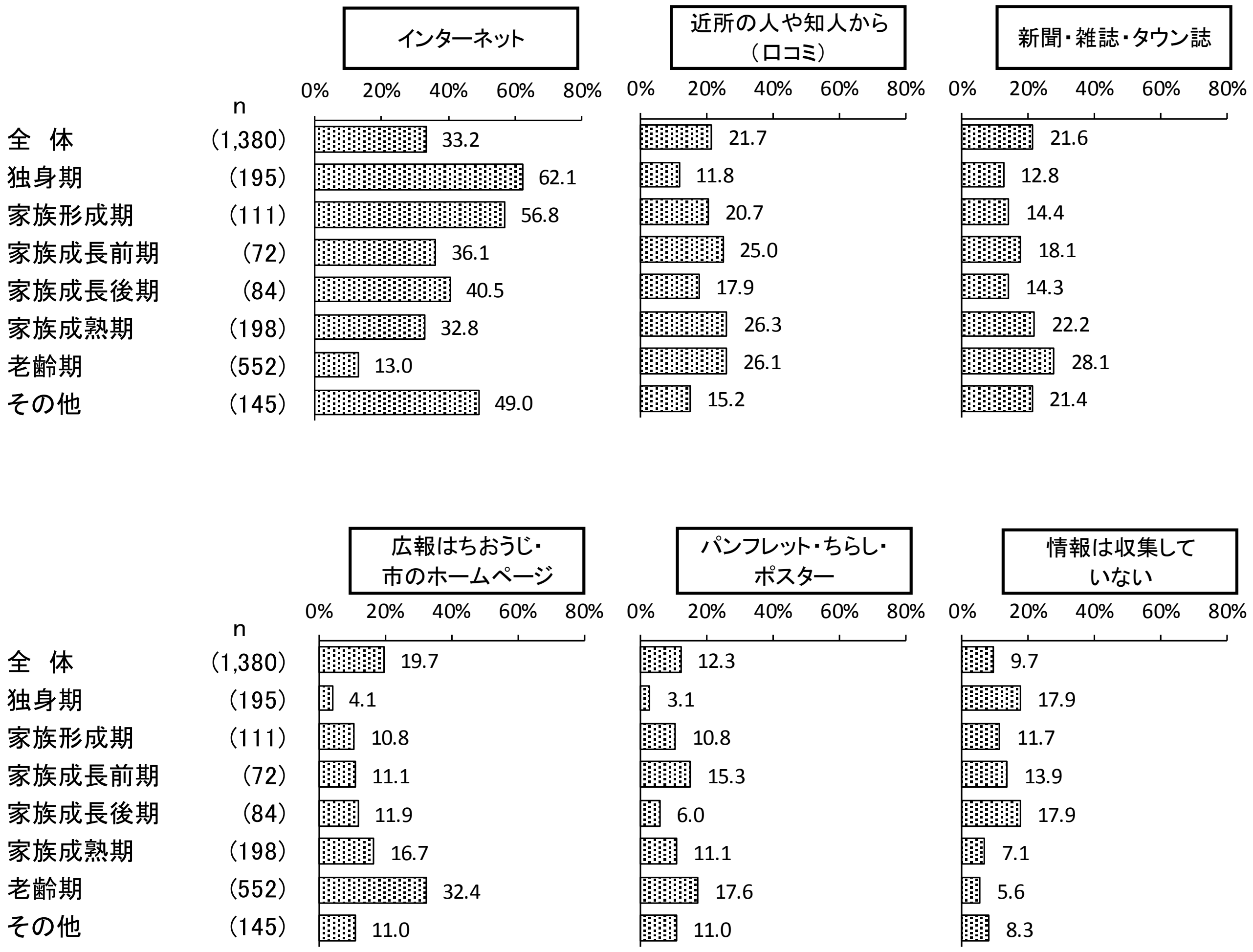
図３－11－２　生涯学習活動の情報入手手段－性別、年齢別（上位５位＋「情報は収集していない」）




性別にみると、「インターネット」は男性（40.1％）が女性（27.6％）より12.5ポイント高く、「近所の人や知人から（口コミ）」は女性（25.4％）が男性（17.9％）より7.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「インターネット」は50歳代以下で４割台以上と多く、中でも30～39歳（61.3％）で６割強と最も多くなっている。「近所の人や知人から」は高い年代ほど割合が高くなっており、18～29歳（12.7％）と30～39歳（14.8％）は１割強から１割台半ばと少なくなっている。「新聞・雑誌・タウン誌」は60歳代以上で多く、中でも60～64歳（29.8％）で３割弱と多くなっている。「広報はちおうじ・市のホームページ」は高い年代ほど割合が高く、年代差も大きくなっており、65歳以上（32.4％）で３割強と多くなっている。「パンフレット・ちらし・ポスター」も65歳以上（17.6％）で２割近くと多くなっている。一方、「情報は収集していない」は18～29歳（20.4％）で約２割と多くなっている。（図３－11－２）

## 図３－11－３　生涯学習活動の情報入手手段－ライフステージ別
## （上位５位＋「情報は収集していない」）




ライフステージ別にみると、「インターネット」は独身期（62.1％）で６割強、家族形成期（56.8％）で６割近くと両層で多くなっており、「広報はちおうじ・市のホームページ」は老齢期（32.4％）で３割強と多くなっている。一方、「情報は収集していない」は独身期（17.9％）と家族成長後期（17.9％）の両層がともに２割近くで並んで多くなっている。（図３－11－３）

## （12）生涯学習活動に取り組む方法

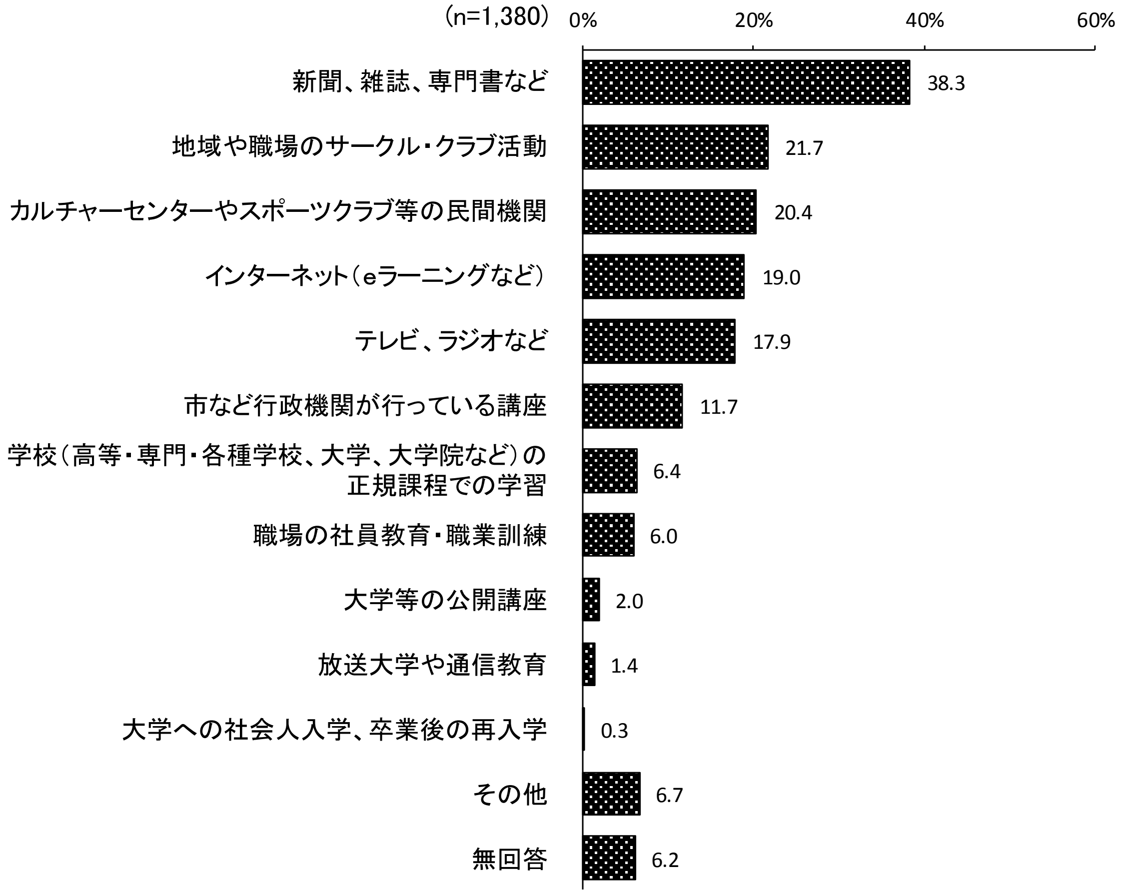
### ◇「新聞、雑誌、専門書など」が４割近く

（問21で「取り組んでいない」以外のいずれかにお答えの方に）

問21－２　あなたは、どのような方法で、学んだり、活動したりしていますか。

（○はいくつでも）

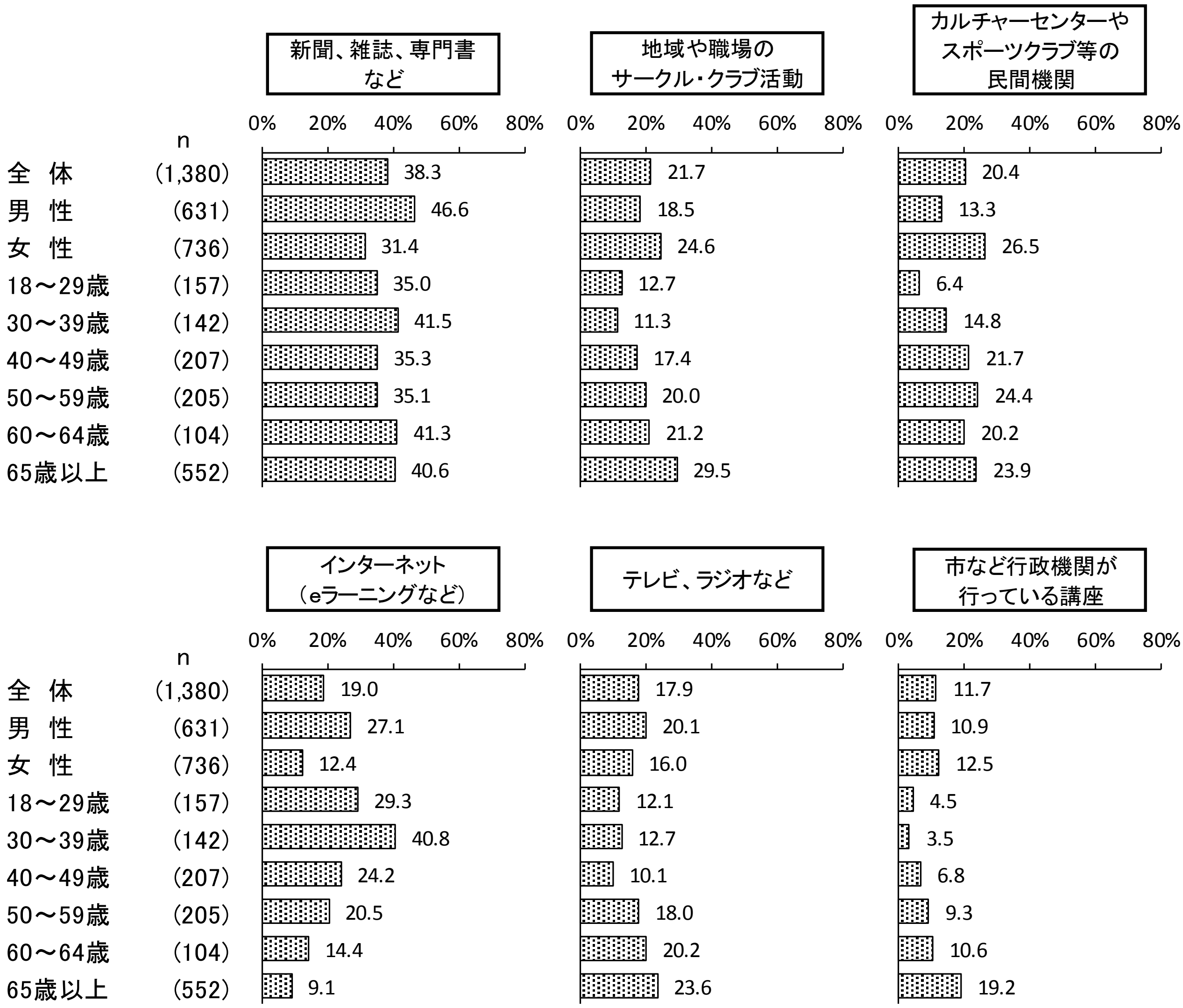
図３－12－１　生涯学習活動に取り組む方法－全体




（注）新規の設問のため、経年比較はない。

この１年間に取り組んだ生涯学習活動があると回答した1,380人に生涯学習活動に取り組む方法を聞いたところ、「新聞、雑誌、専門書など」（38.3％）が４割近くで最も多くなっている。以下「地域や職場のサークル・クラブ活動」（21.7％）、「カルチャーセンターやスポーツクラブ等の民間機関」（20.4％）、「インターネット（eラーニングなど）」（19.0％）、「テレビ、ラジオなど」（17.9％）などの順となっている。（図３－12－１）

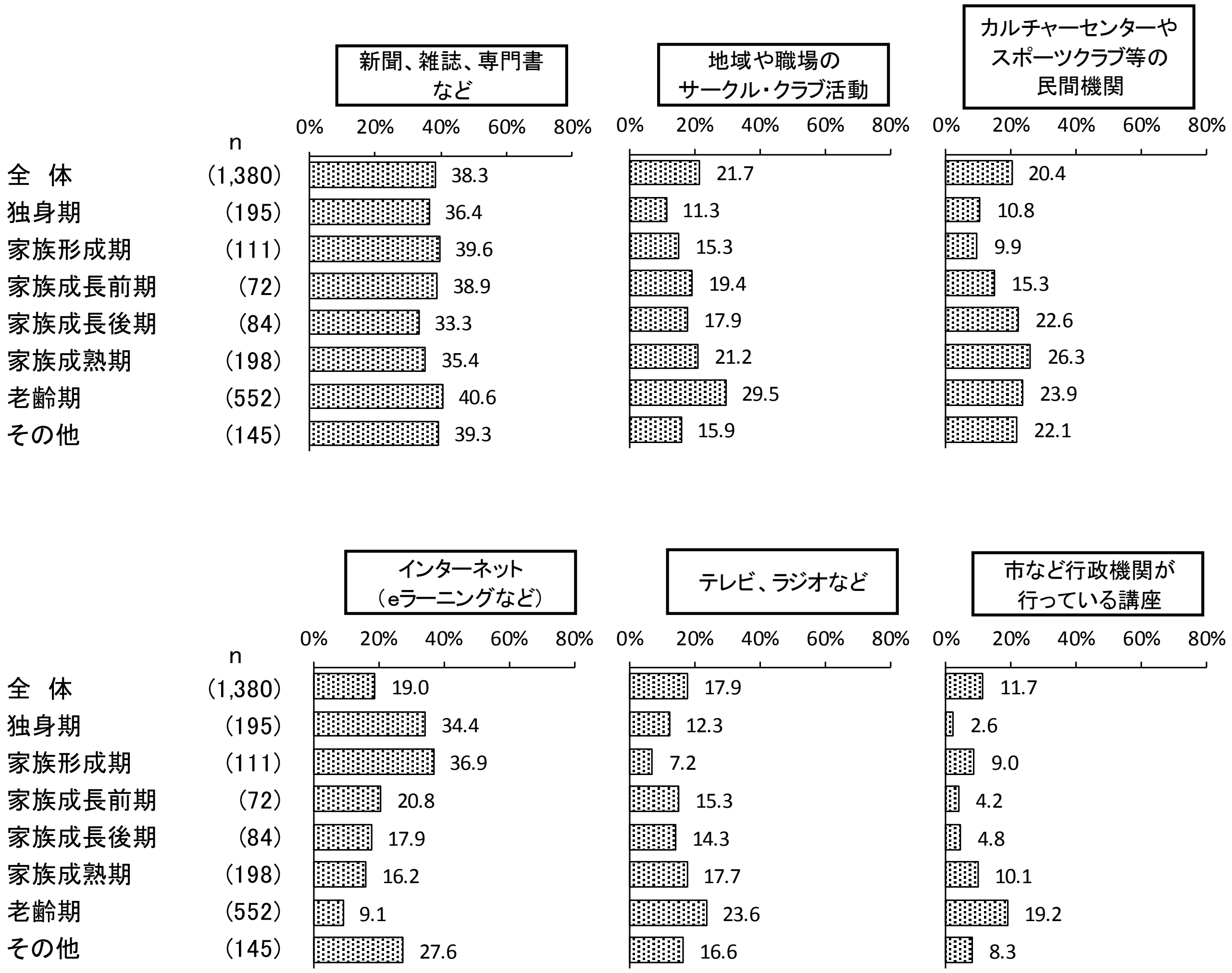
図３－12－２　生涯学習活動に取り組む方法－性別、年齢別（上位６位）




性別にみると、「新聞、雑誌、専門書など」は男性（46.6％）が女性（31.4％）より15.2ポイント高く、「インターネット（eラーニングなど）」も男性（27.1％）が女性（12.4％）より14.7ポイント高くなっている。一方、「カルチャーセンターやスポーツクラブ等の民間機関」は女性（26.5％）が男性（13.3％）より13.2ポイント高く、「地域や職場のサークル・クラブ活動」も女性（24.6％）が男性（18.5％）より6.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「地域や職場のサークル・クラブ活動」は65歳以上（29.5％）で３割弱と多くなっている。「カルチャーセンターやスポーツクラブ等の民間機関」は18～29歳（6.4％）で１割に満たず少なくなっている。「インターネット（eラーニングなど）」は30～39歳（40.8％）が約４割と多く、この30～39歳をピークに年代差が大きくなっている。「市など行政機関が行っている講座」は高い年代ほど割合が高く、65歳以上（19.2％）で２割弱と多くなっている。（図３－12－２）

図３－12－３　生涯学習活動に取り組む方法－ライフステージ別（上位６位）



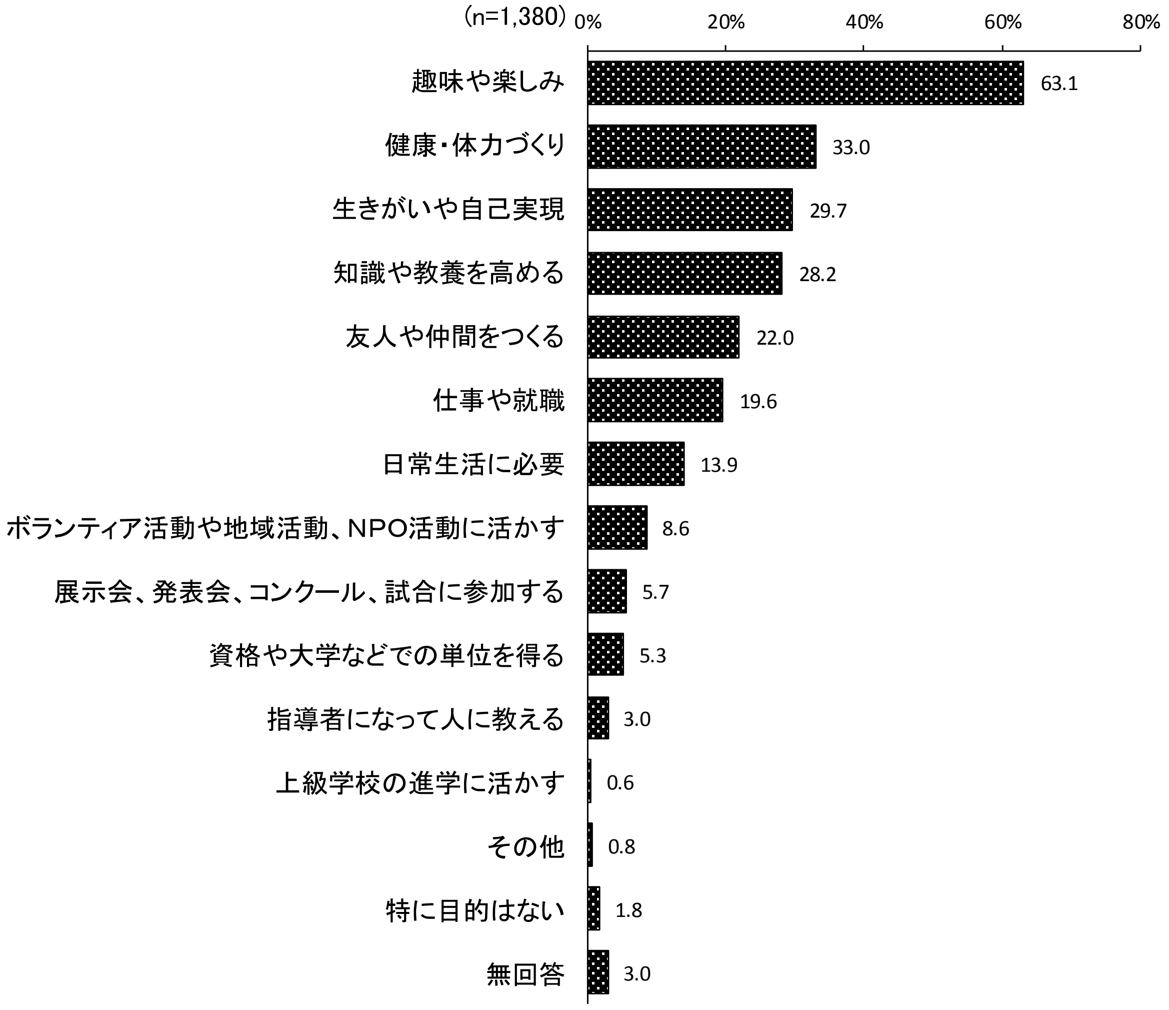

ライフステージ別にみると、「地域や職場のサークル・クラブ活動」は老齢期（29.5％）で３割弱と多く、「カルチャーセンターやスポーツクラブ等の民間機関」は家族成熟期（26.3％）で３割近くと多くなっている。「インターネット（eラーニングなど）」は家族形成期（36.9％）と独身期（34.4％）で３割台半ばから４割近くと多くなっている。「テレビ、ラジオなど」は老齢期（23.6％）で２割強と多く、「市など行政機関が行っている講座」も老齢期（19.2％）で２割弱と多くなっている。（図３－12－３）

## （13）生涯学習活動に取り組む目的

### ◇「趣味や楽しみ」が６割強

（問21で「取り組んでいない」以外のいずれかにお答えの方に）
問21－３　あなたは、どのような目的で、学んだり、活動したりしていますか。
（○はいくつでも）

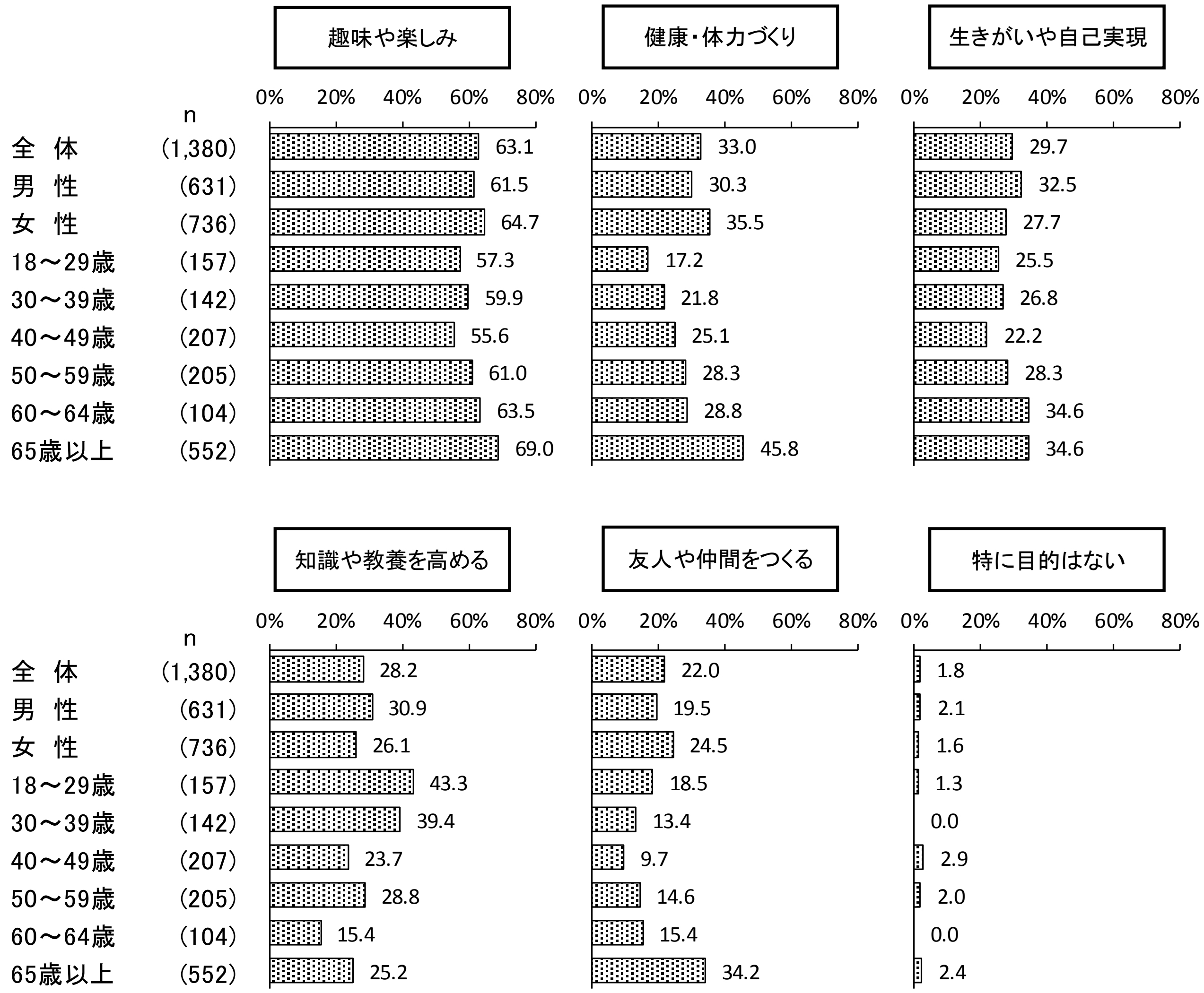
図３－13－１　生涯学習活動に取り組む目的－全体




（注）新規の設問のため、経年比較はない。

この１年間に取り組んだ生涯学習活動があると回答した1,380人に生涯学習活動に取り組む目的を聞いたところ、「趣味や楽しみ」（63.1％）が最も多く６割強となっている。２位以下は「健康・体力づくり」（33.0％）、「生きがいや自己実現」（29.7％）、「知識や教養を高める」（28.2％）、「友人や仲間をつくる」（22.0％）などの順となっている。（図３－13－１）

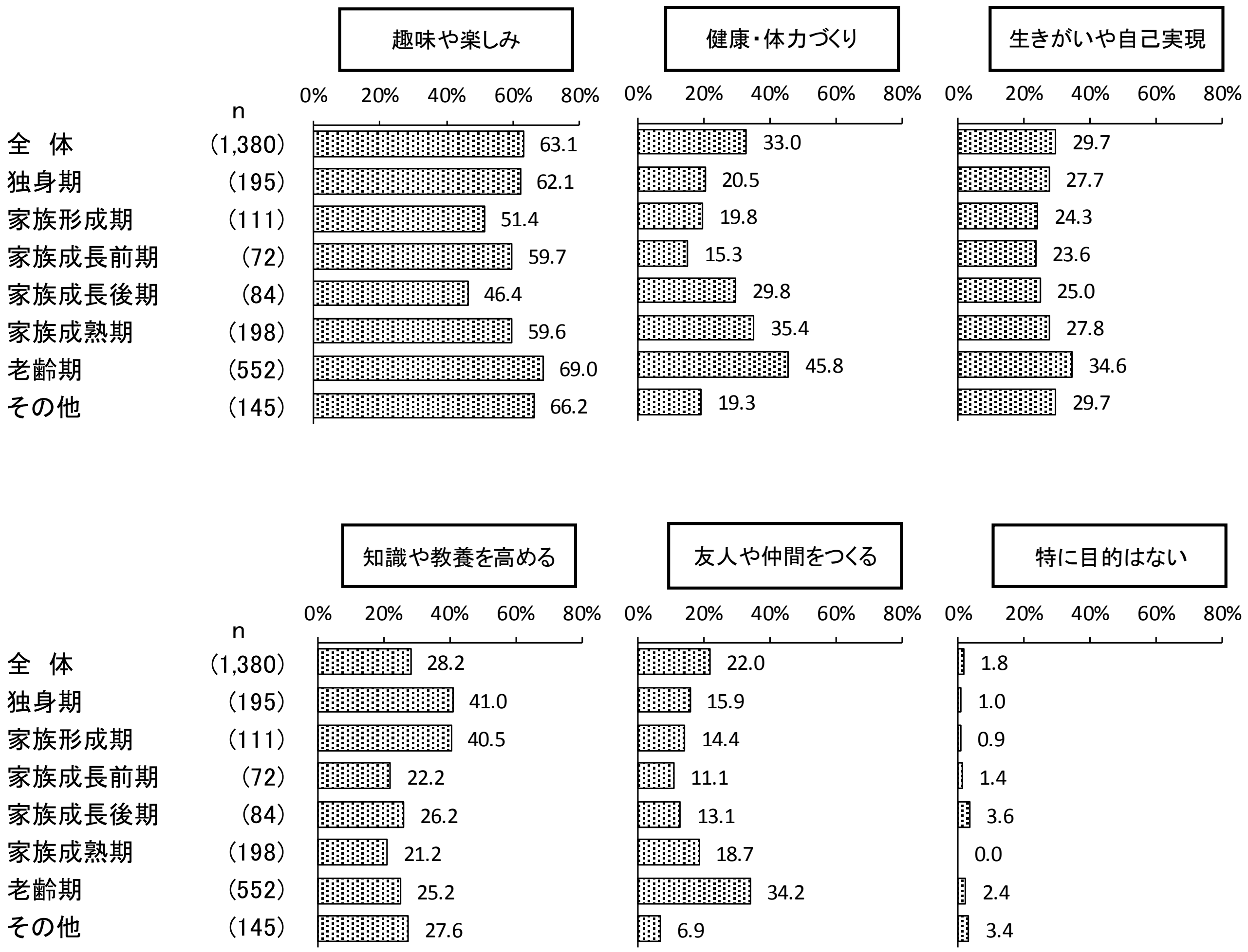
図３－13－２　生涯学習活動に取り組む目的－性別、年齢別（上位５位＋「特に目的はない」）




性別にみると、「健康・体力づくり」は女性（35.5％）が男性（30.3％）より5.2ポイント高く、「友人や仲間をつくる」も女性（24.5％）が男性（19.5％）より5.0ポイント高くなっている。一方、「生きがいや自己実現」は男性（32.5％）が女性（27.7％）より4.8ポイント高く、「知識や教養を高める」も男性（30.9％）が女性（26.1％）より4.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「健康・体力づくり」は高い年代ほど割合が高く、65歳以上（45.8％）で４割台半ばと多くなっており、「友人や仲間をつくる」も65歳以上（34.2％）で３割台半ばと多くなっている。「知識や教養を高める」は18～29歳（43.3％）と30～39歳（39.4％）で４割弱から４割強と多くなっている。（図３－13－２）

図３－13－３　生涯学習活動に取り組む目的－ライフステージ別（上位５位＋「特に目的はない」）




ライフステージ別にみると、「健康・体力づくり」は老齢期（45.8%）で４割台半ばと多く、老齢期は「趣味や楽しみ」(69.0%)と「生きがいや自己実現」(34.6%)、「友人や仲間をつくる」(34.2%)でも他のライフステージ層を上回って最も多くなっている。一方、「知識や教養を高める」は独身期（41.0%）と家族形成期（40.5%）の両層で約４割から４割強と多くなっている。

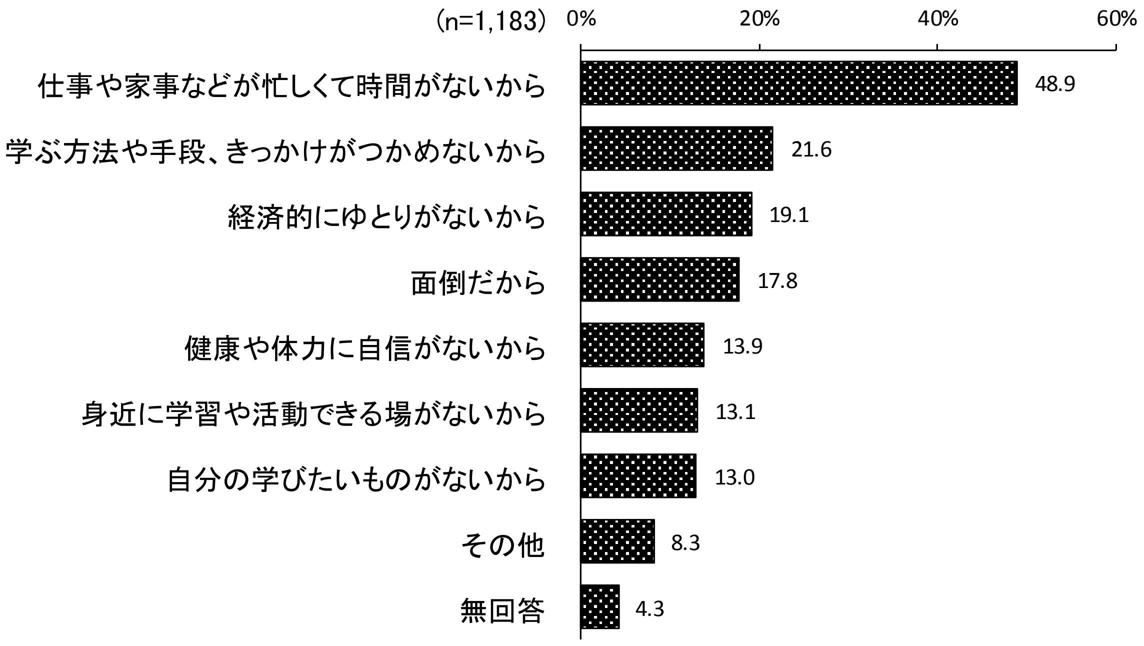
（図３－13－３）

## （14）生涯学習活動に取り組んでいない理由

*◇「仕事や家事などが忙しくて時間がないから」が５割近く*

（問21で「取り組んでいない」とお答えの方に
問21－4　あなたが学んだり、活動したりしていない（できない）主な理由は何ですか。
（○はいくつでも）

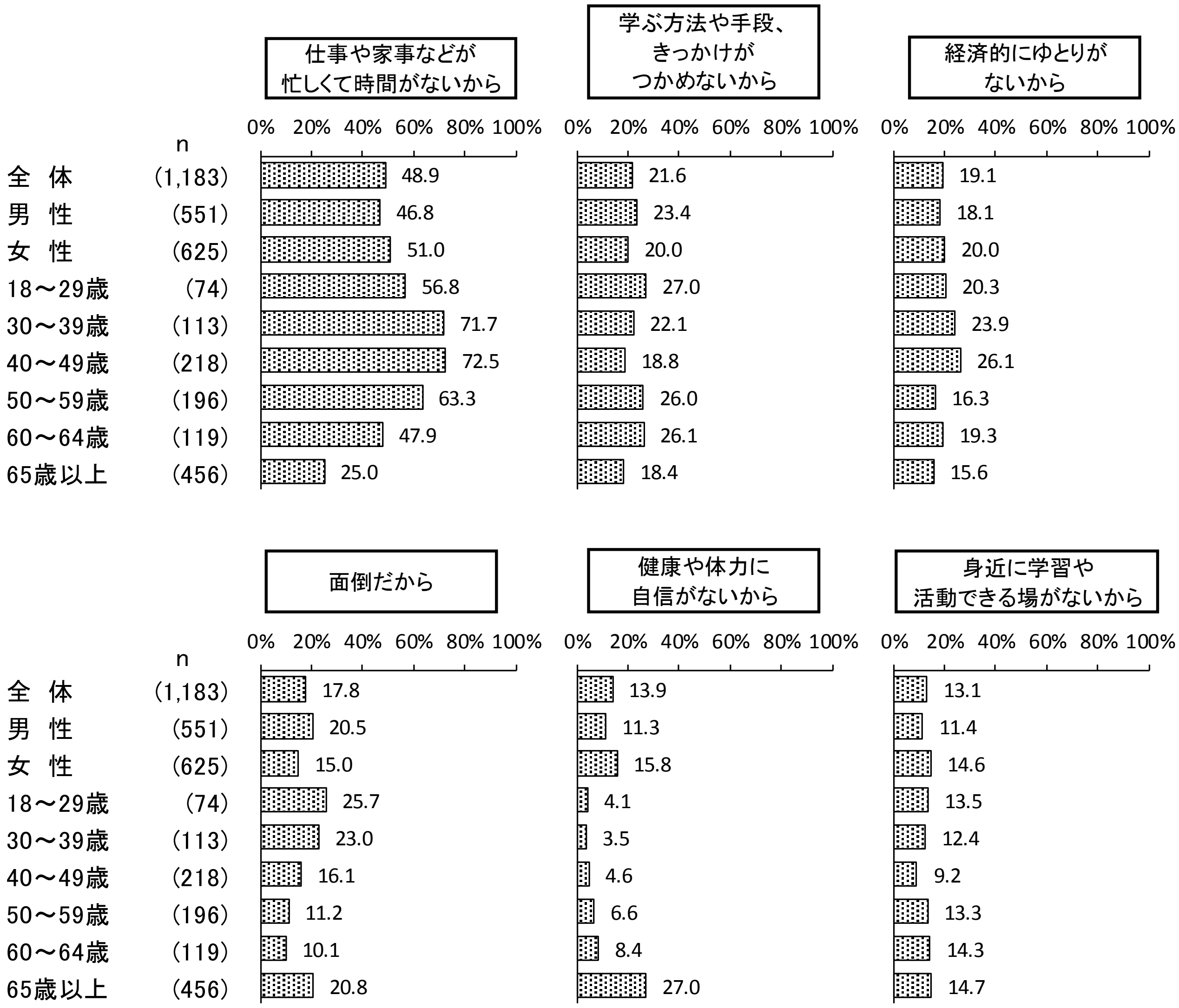
図３－14－１　生涯学習活動に取り組んでいない理由－全体




（注）新規の設問のため、経年比較はない。

この１年間に生涯学習に取り組んでいないと回答した1,183人に、生涯学習活動に取り組んでいない理由を聞いたところ、「仕事や家事などが忙しくて時間がないから」（48.9％）が最も多く５割近くとなっている。２位以下は「学ぶ方法や手段、きっかけがつかめないから」（21.6％）、「経済的にゆとりがないから」（19.1％）、「面倒だから」（17.8％）などの順となっている。（図３－14－１）

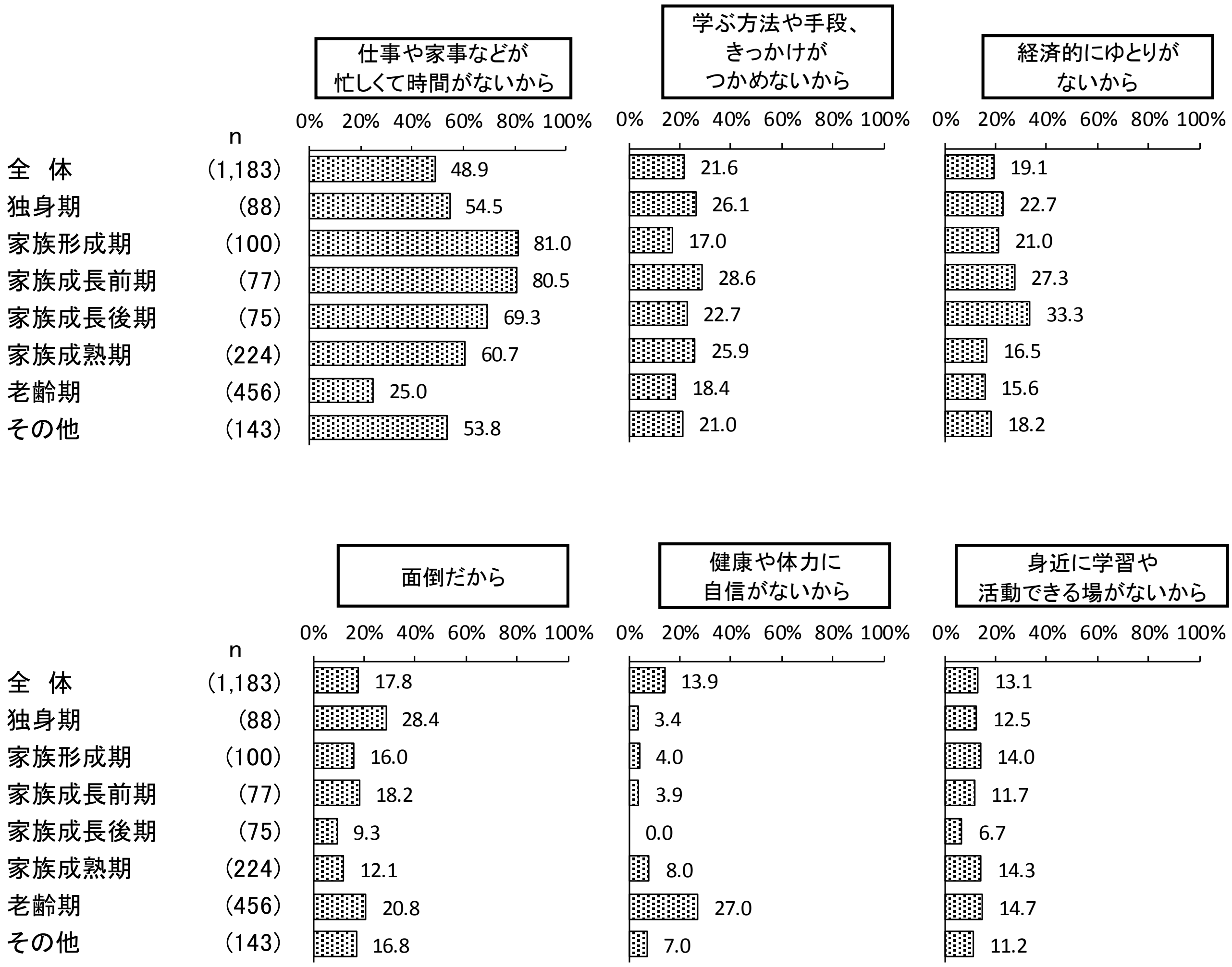
図３－14－２　生涯学習活動に取り組んでいない理由－性別、年齢別（上位６位）




性別にみると、「面倒だから」は男性（20.5％）が女性（15.0％）より5.5ポイント高く、「学ぶ方法や手段、きっかけがつかめないから」も男性（23.4％）が女性（20.0％）より3.4ポイント高くなっている。一方、「健康や体力に自信がないから」は女性（15.8％）が男性（11.3％）より4.5ポイント高く、「仕事や家事などが忙しくて時間がないから」も女性（51.0％）が男性（46.8％）より4.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「仕事や家事などが忙しくて時間がないから」は30歳代から50歳代で６割台以上と多く、中でも40～49歳（72.5％）と30～39歳（71.7％）で７割強と多くなっている。「面倒だから」は18～29歳（25.7％）で２割台半ばと多くなっており、「健康や体力に自信がないから」は65歳以上（27.0％）で３割近くと多くなっている。（図３－14－２）

図３－14－３　生涯学習活動に取り組んでいない理由－ライフステージ別（上位６位）



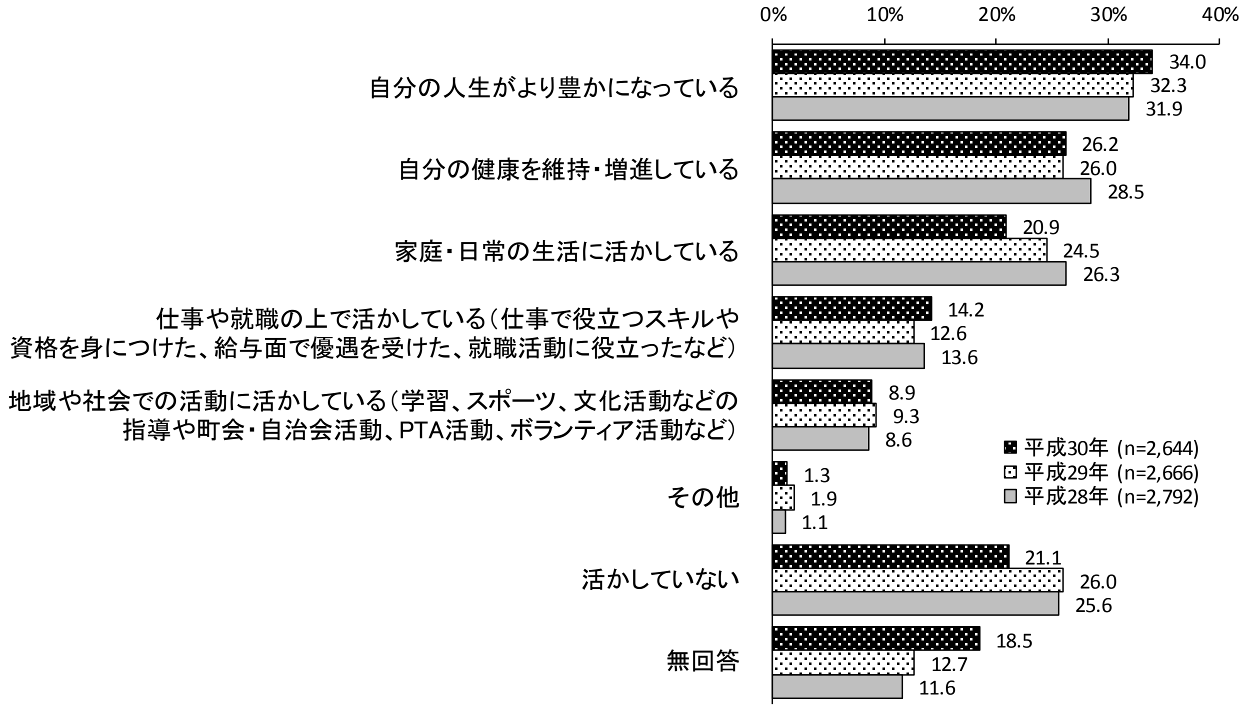

ライフステージ別にみると、「仕事や家事などが忙しくて時間がないから」は老齢期（25.0%）以外の各層で多くなっており、特に家族形成期（81.0%）と家族成長前期（80.5%）で約８割～８割強と多くなっている。「学ぶ方法や手段、きっかけがつかめないから」は家族成長前期（28.6%）で３割近くと最も多く、「経済的にゆとりがないから」は家族成長前期、家族成長後期で多くなっており、中でも家族成長後期（33.3%）で３割強と多くなっている。「面倒だから」は独身期（28.4%）で３割近くと多く、「健康や体力に自信がないから」は老齢期（27.0%）で３割近くと多くなっている。（図３－14－３）

## （15）生涯学習で身につけた知識や技能、経験の活用方法

### ◇「自分の人生がより豊かになっている」が３割台半ば

問22　あなたは、生涯学習を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように活かしていますか。（〇はいくつでも）

図３－15－１　生涯学習で身につけた知識や技能、経験の活用方法－全体、経年比較



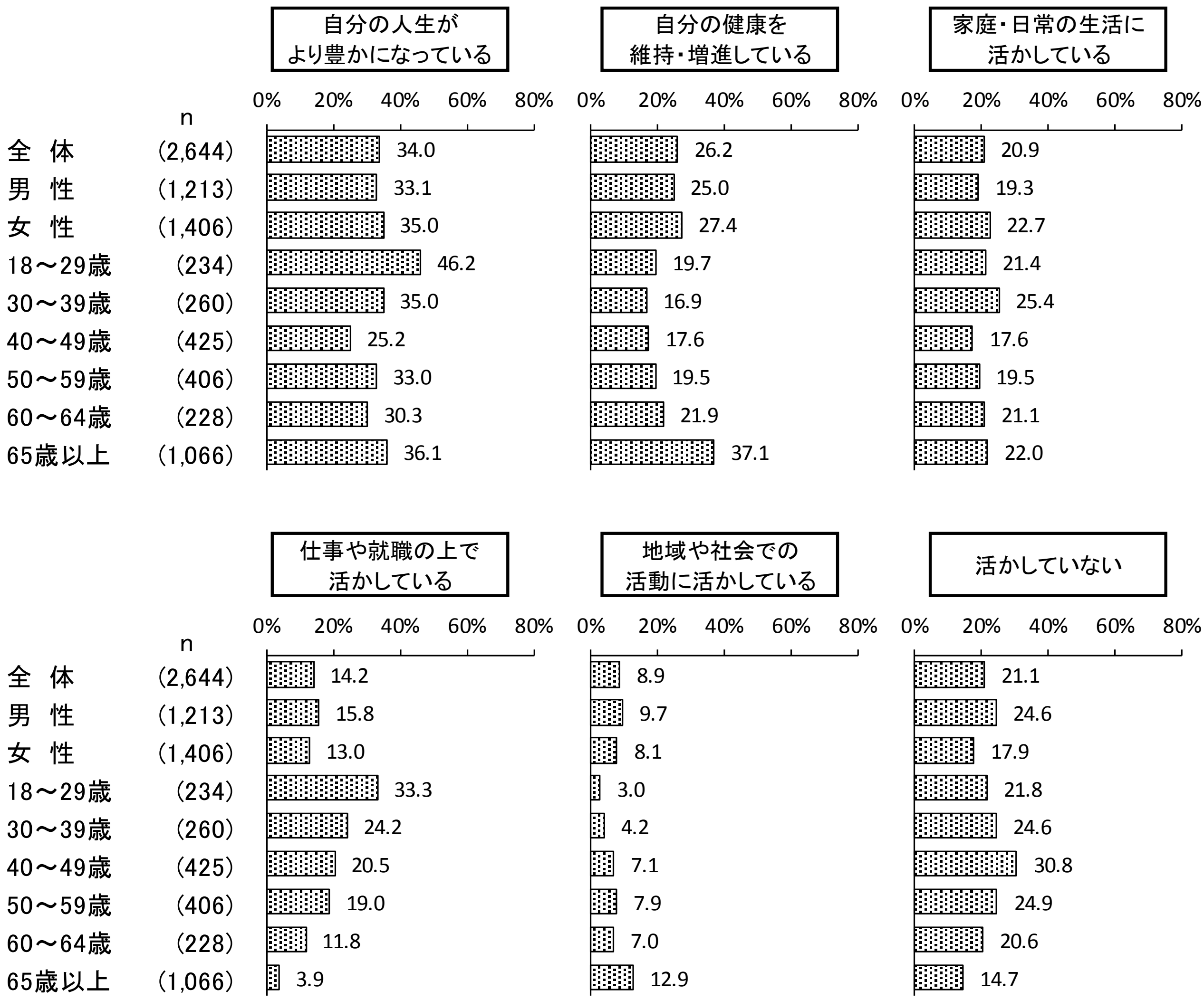

（注１）平成29年のみ、上記の選択肢に加えて「団体や市民間のネットワークづくりに活かしている」（1.7%）が追加されていた。
（注２）「地域や社会での活動に活かしている（学習、スポーツ、文化活動などの指導や町会・自治会活動、ＰＴＡ活動、ボランティア活動など）」は、平成28年では「地域や社会での活動に活かしている（学習、スポーツ、文化活動などの指導やボランティア活動など）」としていた。

生涯学習を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように活かしているか聞いたところ、「自分の人生がより豊かになっている」（34.0%）が最も多く３割台半ばとなっている。以下「自分の健康を維持・増進している」（26.2%）、「家庭・日常の生活に活かしている」（20.9%）、「仕事や就職の上で活かしている」（14.2%）などの順となっている。一方、「活かしていない」（21.1%）も２割強と多めで、「無回答」（18.5%）も２割近くみられる。

前回までの調査と比較すると、「自分の人生がより豊かになっている」は２年続けて微増傾向にあるが、「家庭・日常の生活に活かしている」は２年続けて減少傾向にある。また、「活かしていない」は平成29年（26.0%）より4.9ポイント減少している一方、「無回答」が平成29年（12.7%）より5.8ポイント増加している。（図３－15－１）

図３－15－２　生涯学習で身につけた知識や技能、経験の活用方法

－性別、年齢別（上位５位＋「活かしていない」）

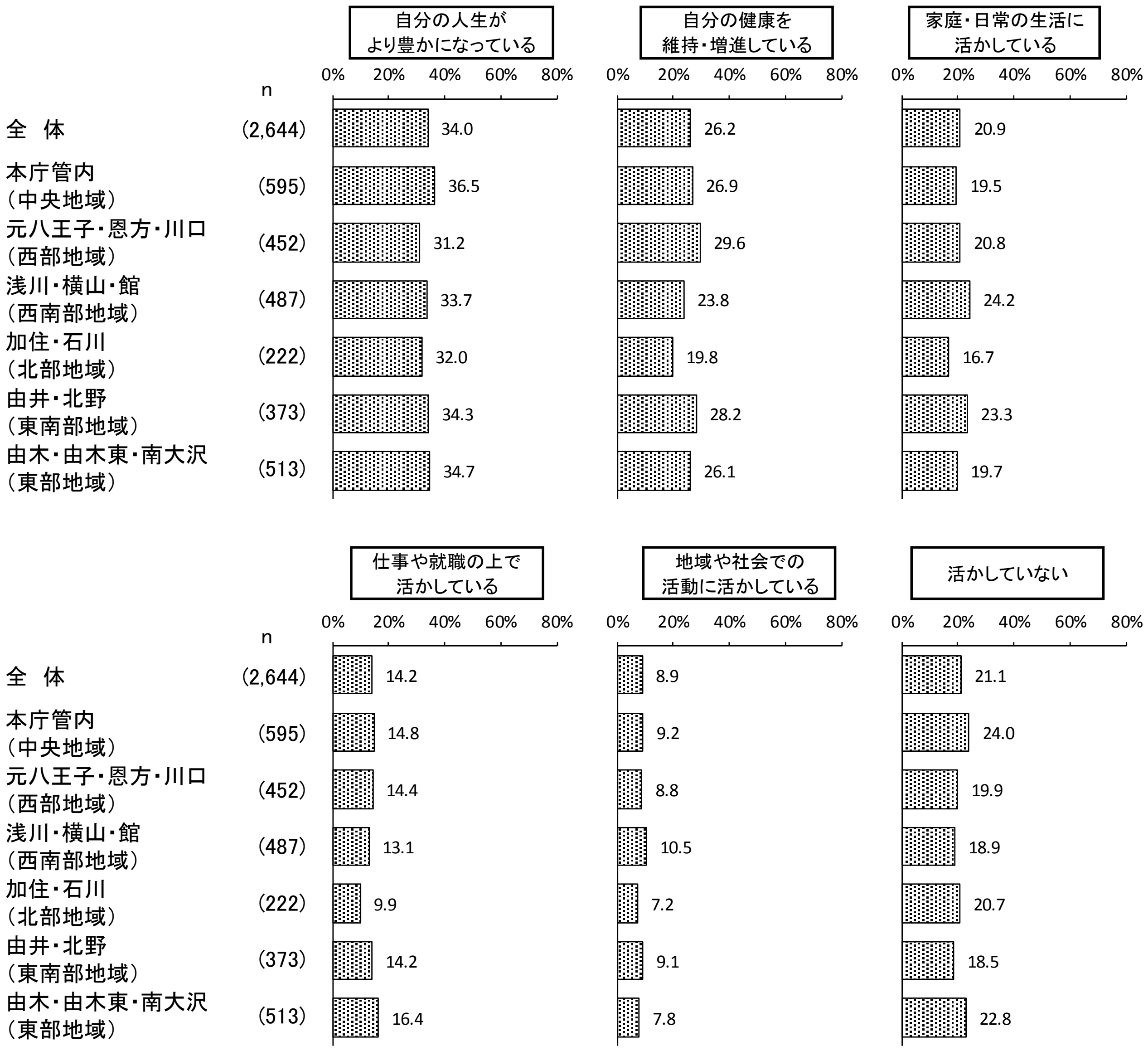



性別にみると、「活かしていない」は男性（24.6％）が女性（17.9％）より6.7ポイント高くなっており、「仕事や就職の上で活かしている」も男性（15.8％）が女性（13.0％）より2.8ポイント高くなっているが、「家庭・日常の生活に活かしている」は女性（22.7％）が男性（19.3％）より3.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「自分の人生がより豊かになっている」は18～29歳（46.2％）で５割近くと多く、「自分の健康を維持・増進している」は65歳以上（37.1％）で４割近くと多くなっている。「仕事や就職の上で活かしている」は低い年代ほど割合が高くなっており、18～29歳（33.3％）で３割強と多くなっている。一方、「活かしていない」は40～49歳（30.8％）で約３割と多くなっている。

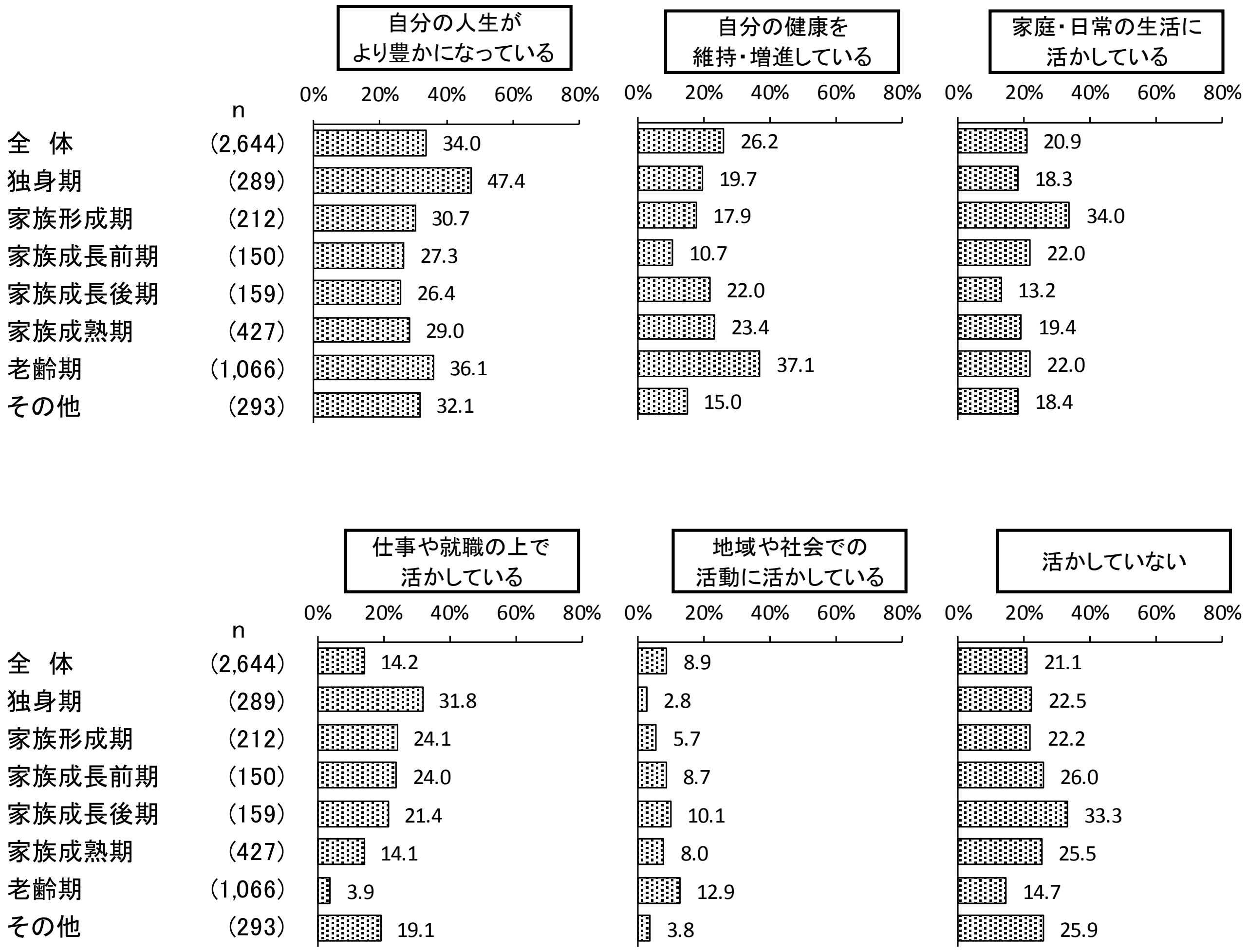
（図３－15－２）

図３－15－３　生涯学習で身につけた知識や技能、経験の活用方法
－居住地域別（上位５位＋「活かしていない」）




居住地域別にみると、「自分の健康を維持・増進している」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（29.6％）で３割弱と多い一方、加住・石川（北部地域）（19.8％）で２割弱と少なくなっており、加住・石川（北部地域）では「家庭・日常の生活に活かしている」（16.7％）と「仕事や就職の上で活かしている」（9.9％）の両項目も少なくなっている。（図３－15－３）

図３－15－４　生涯学習で身につけた知識や技能、経験の活用方法
－ライフステージ別（上位５位＋「活かしていない」）



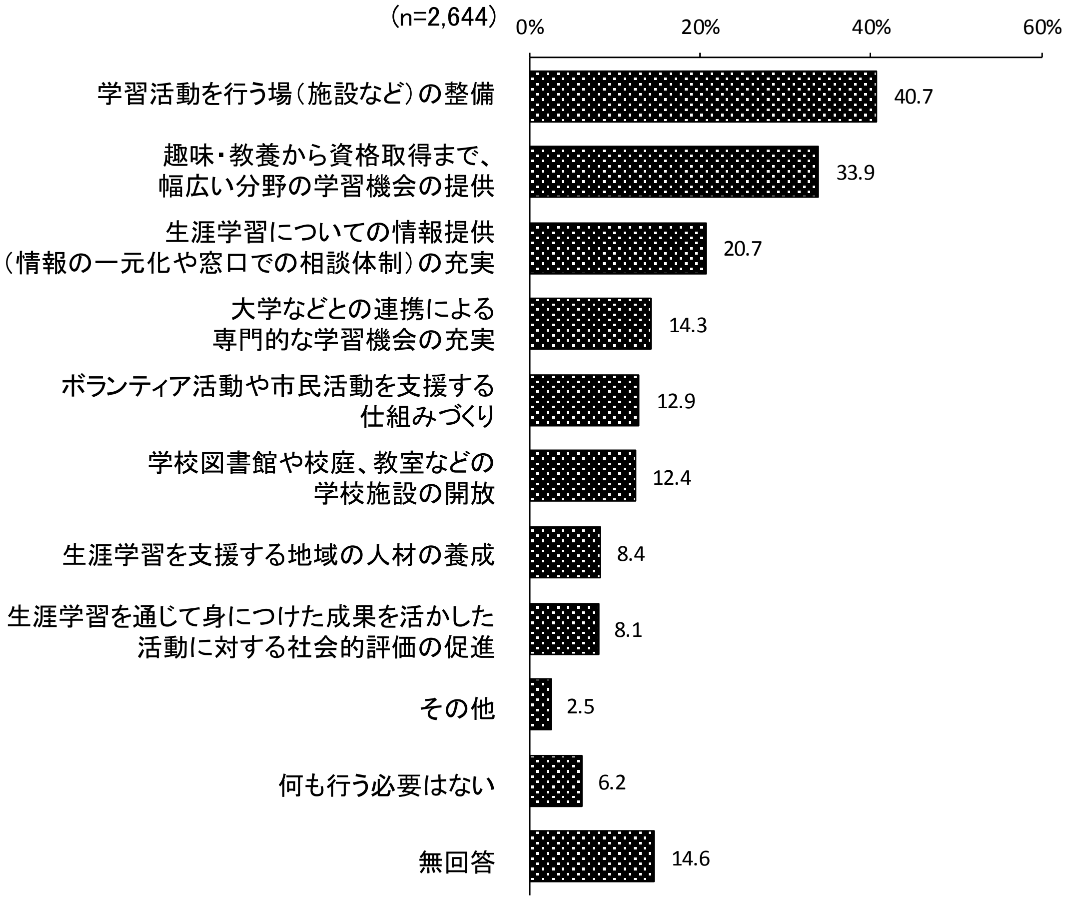

ライフステージ別にみると、「自分の人生がより豊かになっている」は独身期（47.4％）で５割近くと多く、独身期は「仕事や就職の上で活かしている」(31.8％)も３割強と多くなっている。「自分の健康を維持・増進している」は老齢期（37.1％）で４割近くと多く、老齢期は「地域や社会での活動に活かしている」（12.9％）も多い一方で、「活かしていない」（14.7％）は少なくなっている。「家庭・日常の生活に活かしている」は家族形成期（34.0％）で３割台半ばと多くなっている。「活かしていない」は家族成長後期（33.3％）で３割強と多くなっている。(図３－15－４)

## （16）生涯学習活動を支援するために推進すべき施策

### ◇「学習活動を行う場（施設など）の整備」が約４割

問23　今後、市が市民の生涯学習活動を支援していくにあたり、どのような施策を推進すべきだと思いますか。（○は３つまで）

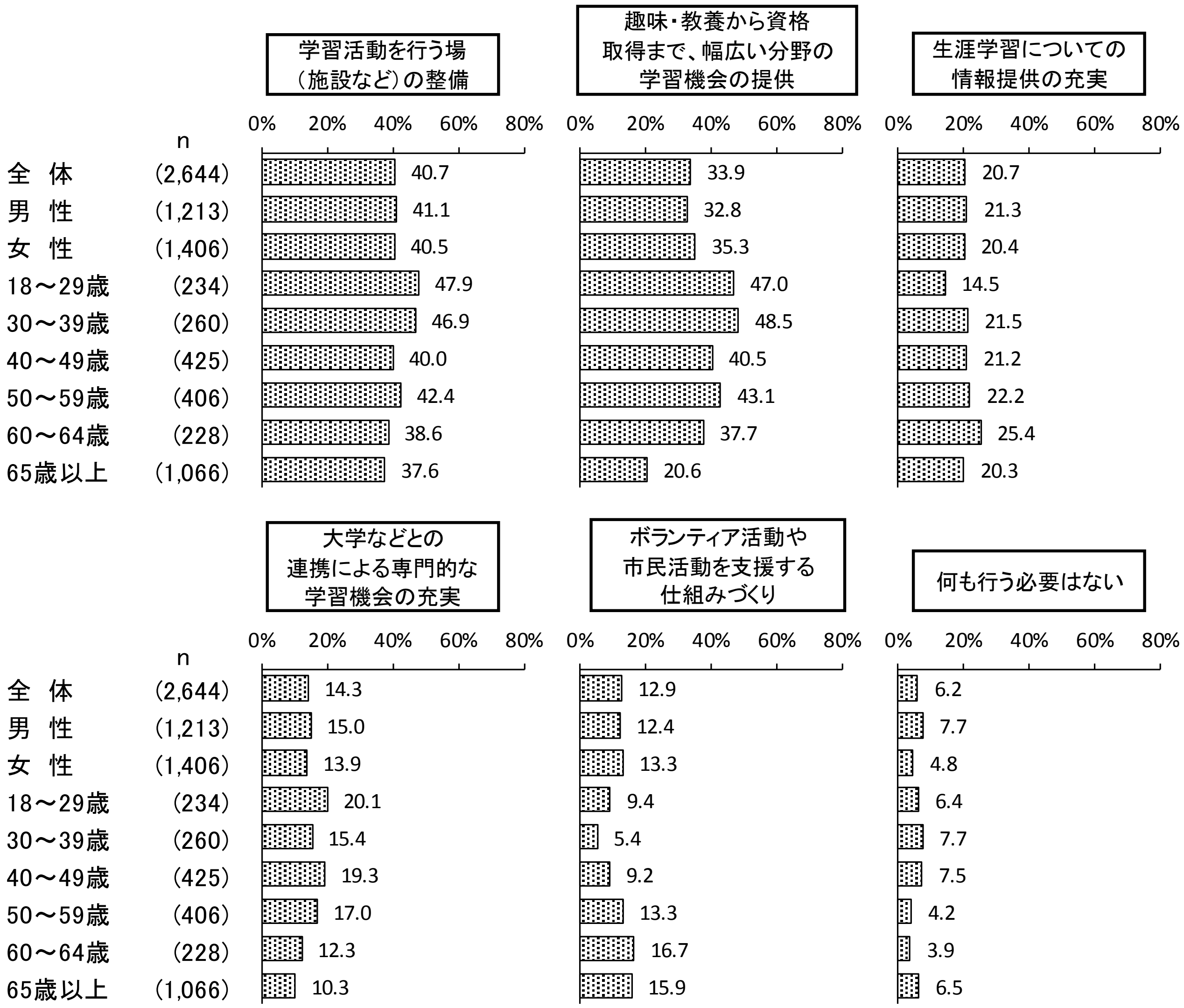
図３－16－１　生涯学習活動を支援するために推進すべき施策－全体




（注）新規の設問のため、経年比較はない。

今後、市が市民の生涯学習活動を支援していくにあたり、どのような施策を推進すべきか聞いたところ、「学習活動を行う場（施設など）の整備」（40.7％）が最も多く約４割となっている。次いで「趣味・教養から資格取得まで、幅広い分野の学習機会の提供」（33.9％）が３割強で続き、以下「生涯学習についての情報提供の充実」（20.7％）、「大学などとの連携による専門的な学習機会の充実」（14.3％）などの順となっている。（図３－16－１）

図３－16－２　生涯学習活動を支援するために推進すべき施策－性別、年齢別
（上位５位＋「何も行う必要はない」）

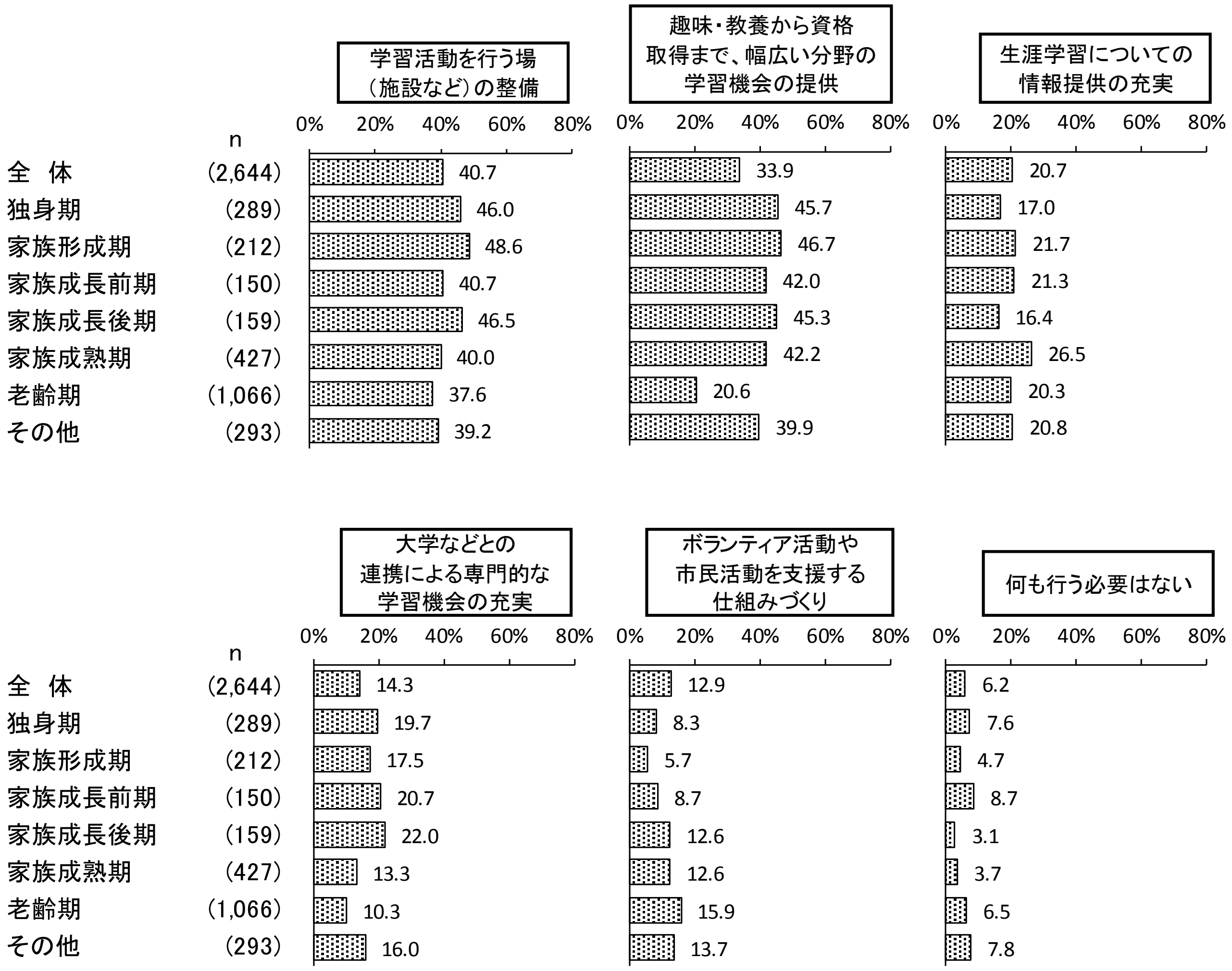



性別にみると、「趣味・教養から資格取得まで、幅広い分野の学習機会の提供」で女性（35.3%）が男性（32.8%）より2.5ポイント高く、「何も行う必要はない」で男性（7.7%）が女性（4.8%）より2.9ポイント高いのを除くと、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「学習活動を行う場（施設など）の整備」は18～29歳（47.9%）と30～39歳（46.9%）の両層でともに５割近くと多くなっており、「趣味・教養から資格取得まで、幅広い分野の学習機会の提供」も30～39歳（48.5%）と18～29歳（47.0%）の両層で５割近くと多くなっている。

（図３－16－２）

図３－16－３　生涯学習活動を支援するために推進すべき施策－ライフステージ別
（上位５位＋「何も行う必要はない」）




ライフステージ別にみると、「学習活動を行う場（施設など）の整備」は家族形成期（48.6％）で５割近くと最も多くなっている。「趣味・教養から資格取得まで、幅広い分野の学習機会の提供」は老齢期（20.6％）以外で多く、中でも家族形成期（46.7％）で５割近くと最も多くなっている。「大学などとの連携による専門的な学習機会の充実」は家族成長後期（22.0％）で２割強と多くなっており、「ボランティア活動や市民活動を支援する仕組みづくり」は老齢期（15.9％）で１割台半ばと多くなっている。（図３－16－３）

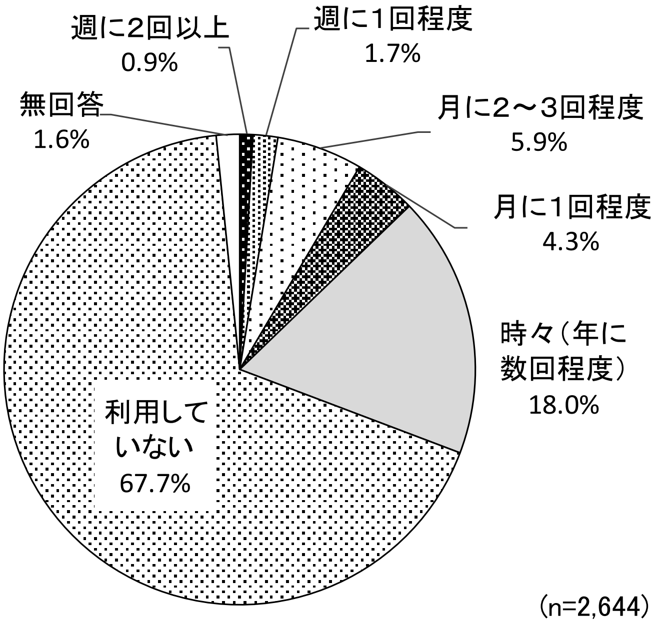
## （17）この１年間の市の図書館の利用頻度

***◇≪月に１回以上≫は１割強。≪利用あり≫は約３割。***

問24　あなたは、この１年間に、八王子市の図書館をどの程度利用していますか。

（○は１つだけ）

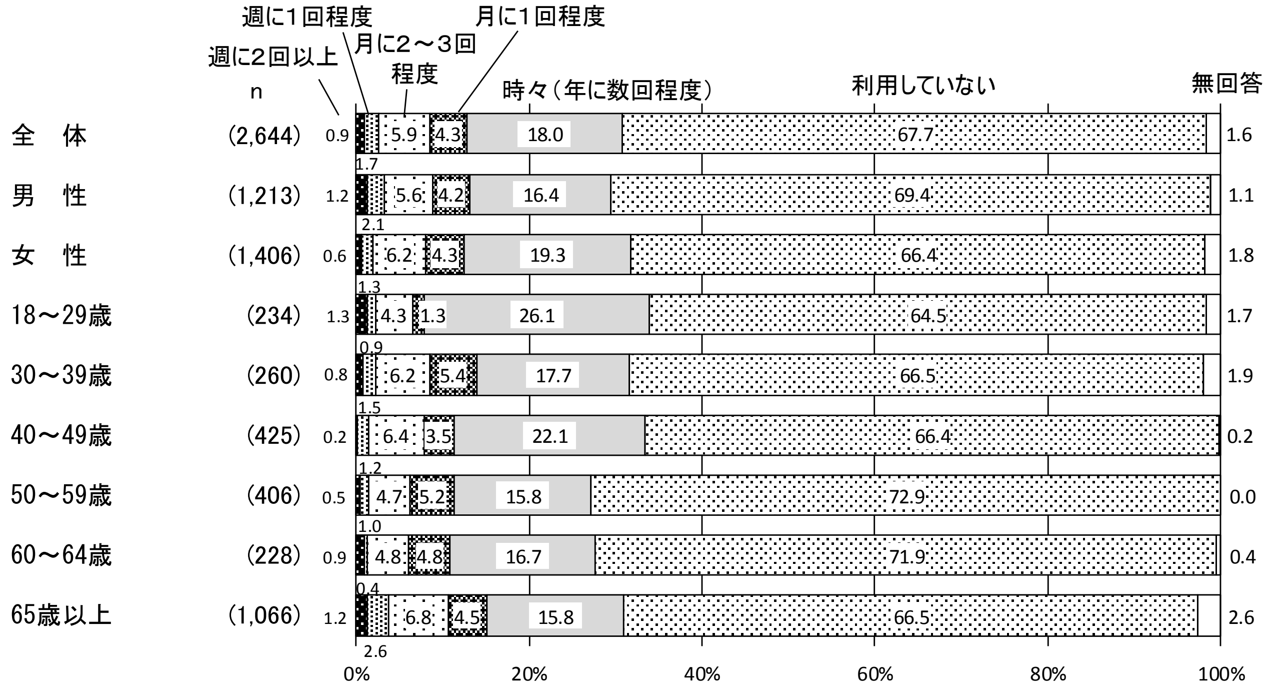
図３－17－１　この１年間の市の図書館の利用頻度－全体




（注）新規の設問のため、経年比較はない。

この１年間に市の図書館を利用した頻度を聞いたところ、「利用していない」（67.7%）が７割近くを占めている。一方、全体で約３割となっている≪利用あり≫（30.8%）の内訳をみると、「時々（年に数回程度）」（18.0%）が２割近くで多く、「週に２回以上」（0.9%）と「週に１回程度」（1.7%）を合わせた≪週に１回以上≫（2.6%）は１割未満のごく少数にとどまり、これに「月に２～３回程度」（5.9%）と「月に１回程度」（4.3%）までを合わせた≪月に１回以上≫（12.8%）は１割強となっている。（図３－17－１）

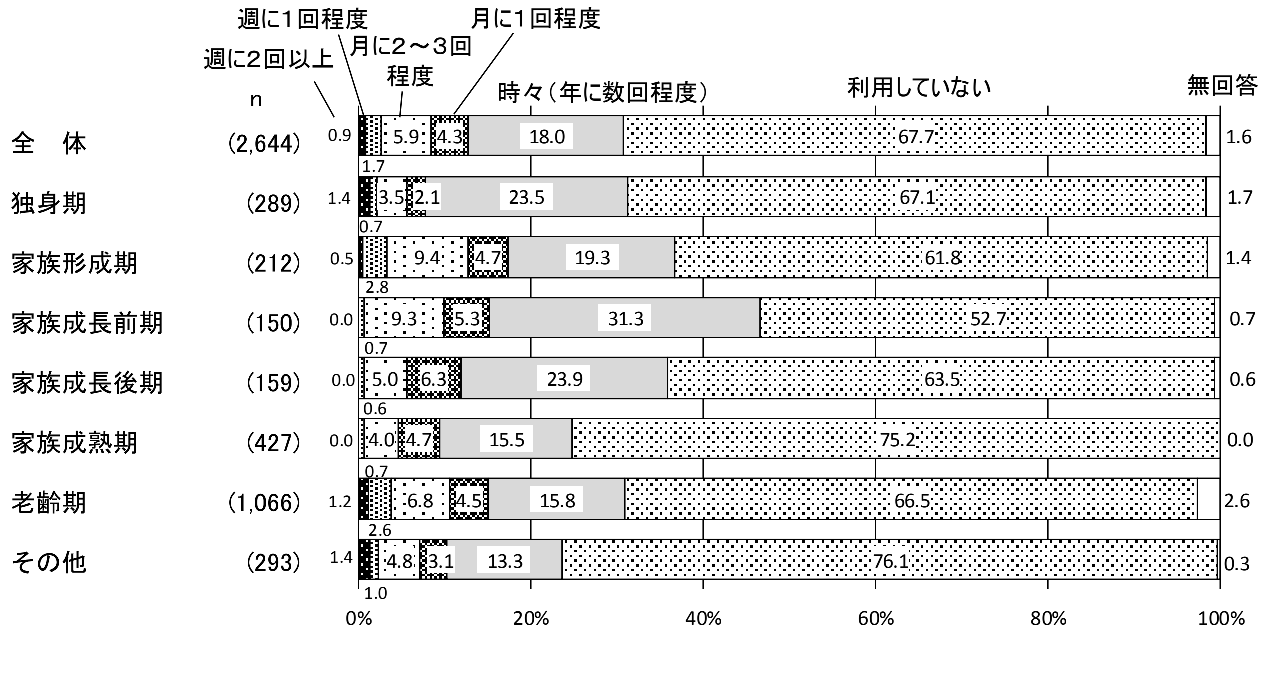
### 図３－17－２　この１年間の市の図書館の利用頻度－性別、年齢別




性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、18～29歳は≪月に１回以上≫（7.8%）が１割近くと少なくなっている一方、≪利用あり≫（33.9%）は３割強と多くなっている。（図３－17－２）

### 図３－17－３　この１年間の市の図書館の利用頻度－ライフステージ別




ライフステージ別にみると、≪利用あり≫は家族成長前期（46.6%）で５割近くと最も多く、家族形成期（36.7%）と家族成長後期（35.8%）の両層も３割台半ばから４割近くと多くなっている。

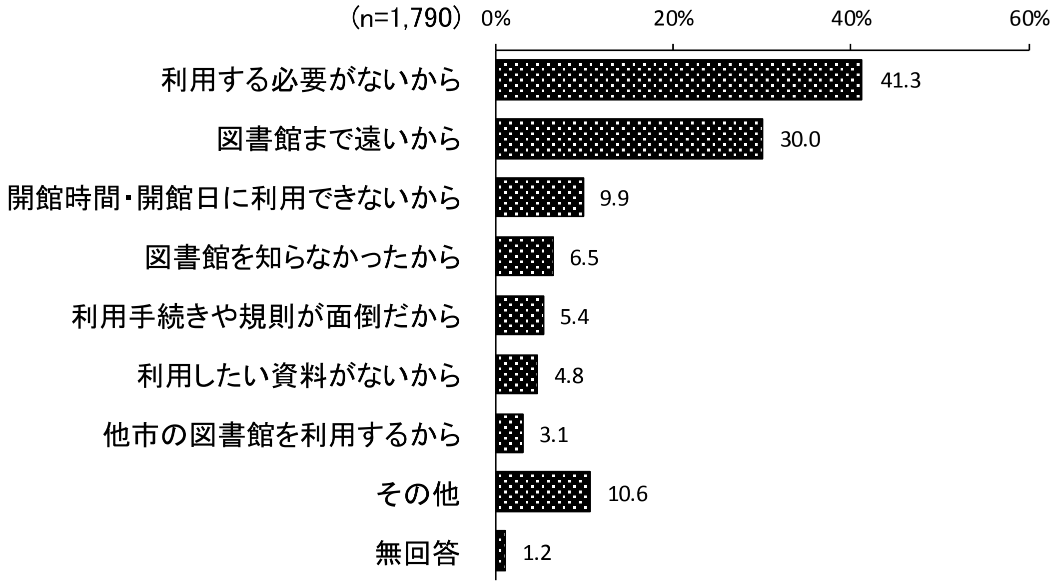
（図３－17－３）

## （18）市の図書館を利用しない理由

*◇「利用する必要がないから」が４割強*

（問24で「利用していない」とお答えの方に）
問24－1　あなたが八王子市の図書館を利用しない理由は何ですか。（○はいくつでも）

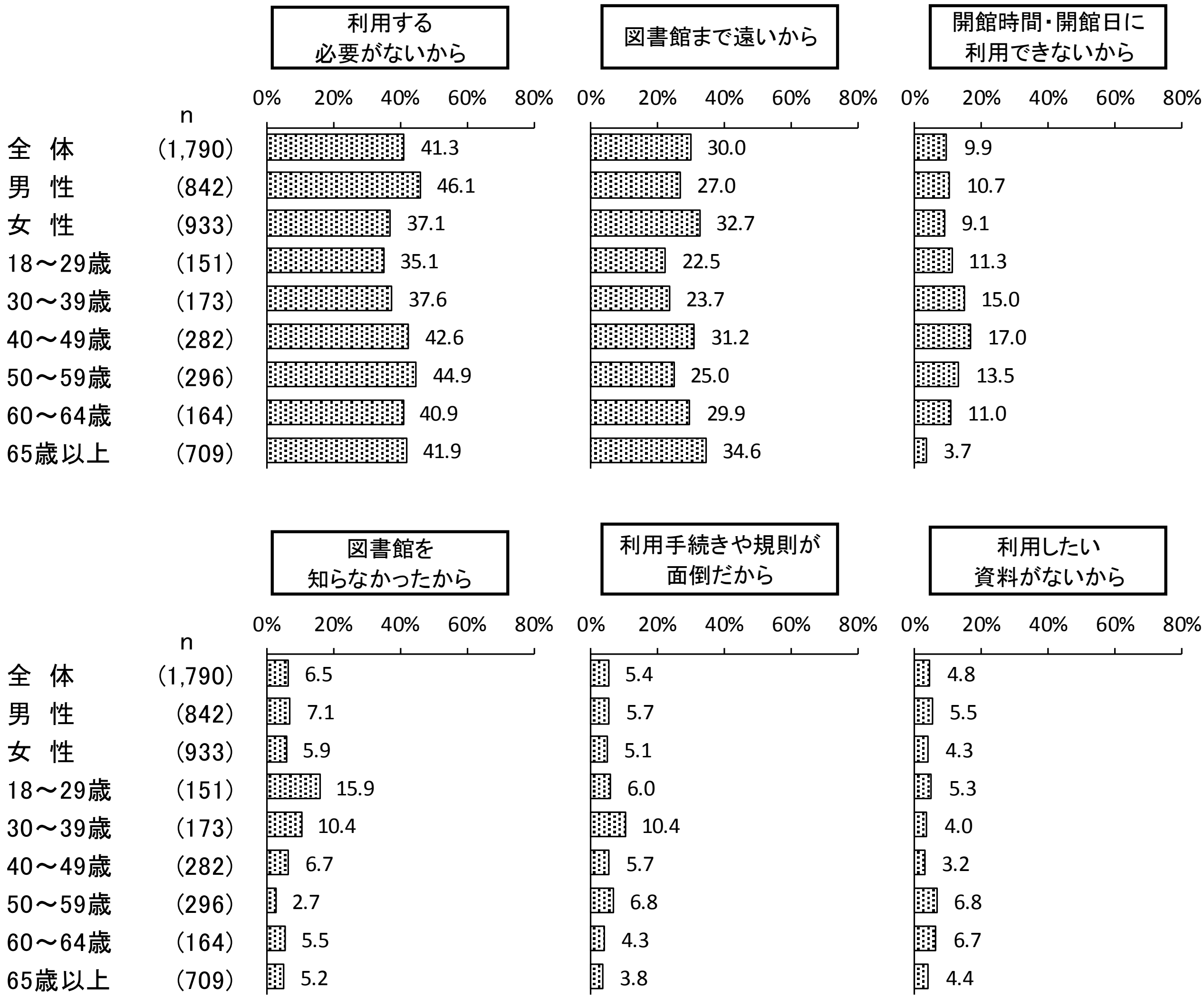
図３－18－１　市の図書館を利用しない理由－全体




（注）新規の設問のため、経年比較はない。

この１年間に市の図書館を利用していないと回答した1,790人にその理由を聞いたところ、「利用する必要がないから」（41.3％）が最も多く４割強となっている。次いで「図書館まで遠いから」（30.0％）が続き、３位以下は「開館時間・開館日に利用できないから」（9.9％）、「図書館を知らなかったから」（6.5％）などの順となっている。（図３－18－１）

図３－18－２　市の図書館を利用しない理由－性別、年齢別（上位６位）

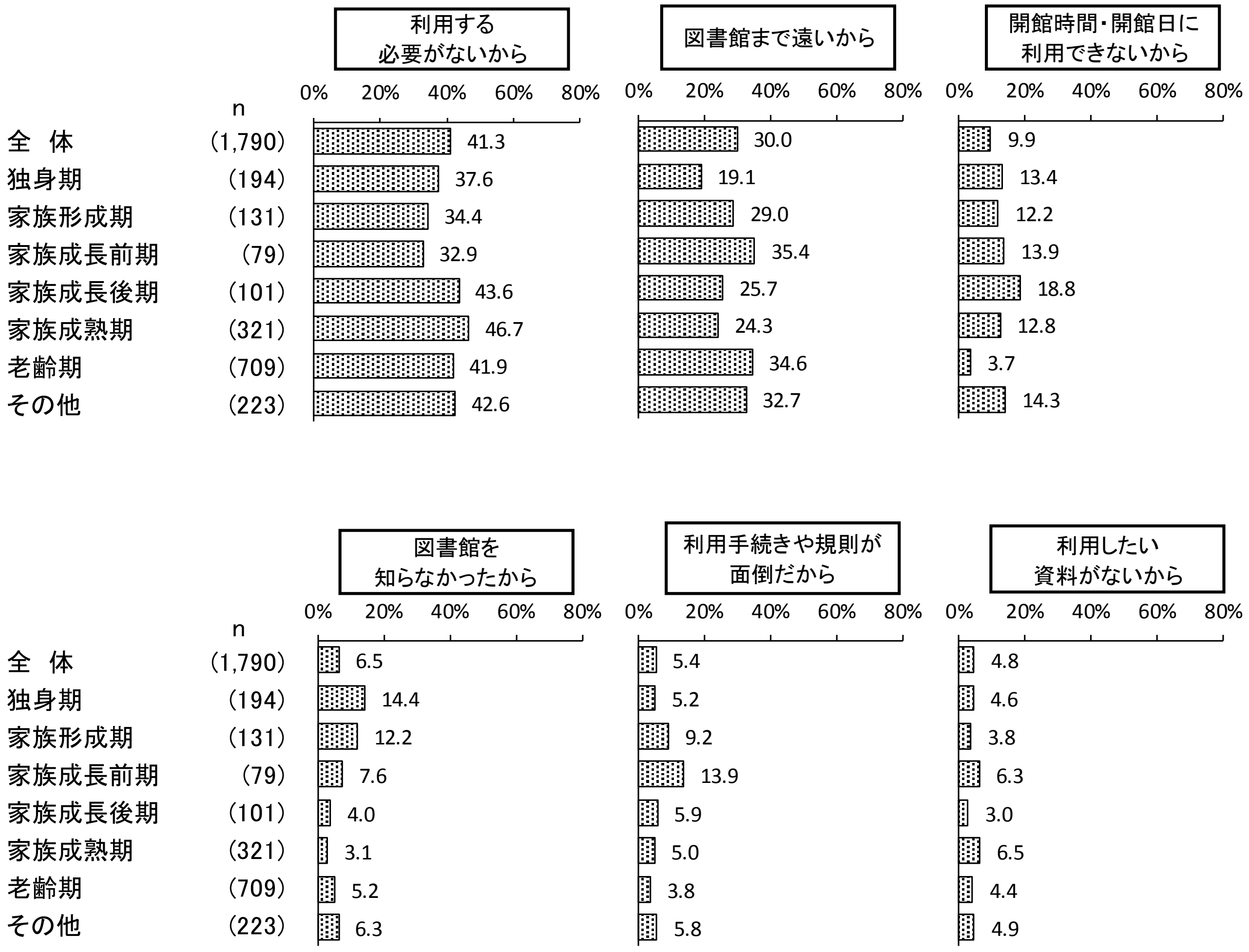



性別にみると、「利用する必要がないから」は男性（46.1%）が女性（37.1%）より9.0ポイント高く、「図書館まで遠いから」は女性（32.7%）が男性（27.0%）より5.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「利用する必要がないから」は50～59歳（44.9%）で多くなっている一方、18～29歳（35.1%）で少なくなっている。「図書館まで遠いから」は65歳以上（34.6%）で多くなっている一方、30～39歳（23.7%）と18～29歳（22.5%）で２割強と少なくなっている。「開館時間・開館日に利用できないから」は40～49歳（17.0%）と30～39歳（15.0%）で１割台半ば～２割近くと多く、「図書館を知らなかったから」は18～29歳（15.9%）で１割台半ばと多くなっている。

（図３－18－２）

図３－18－３　市の図書館を利用しない理由－ライフステージ別（上位６位）



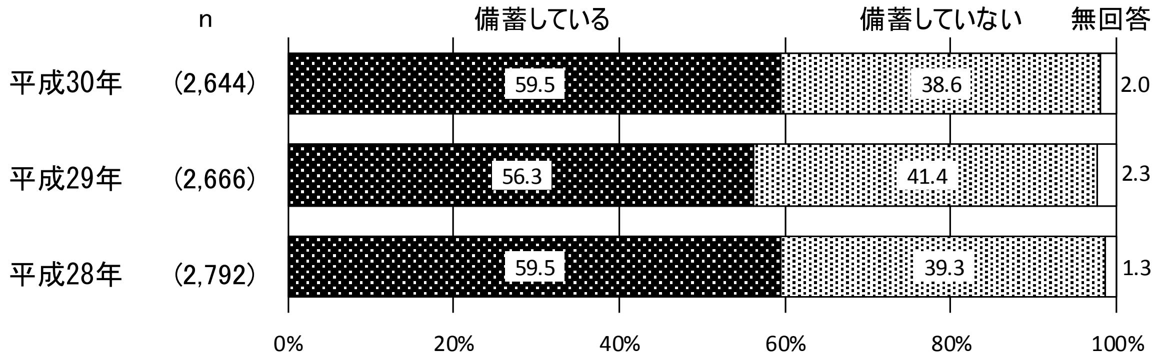

ライフステージ別にみると、「利用する必要がないから」は家族成熟期（46.7％）で５割近くと多い一方、家族成長前期（32.9％）と家族形成期（34.4％）では３割強～３割台半ばと少なくなっている。「図書館まで遠いから」は家族成長前期（35.4％）で３割台半ばと多い一方、独身期（19.1％）では２割弱、家族成熟期（24.3％）と家族成長後期（25.7％）では２割台半ばとともに少なくなっている。「開館時間・開館日に利用できないから」は家族成長後期（18.8％）で２割近くと多い反面、老齢期（3.7％）では１割未満と少なくなっている。「図書館を知らなかったから」は家族形成期（12.2％）と独身期（14.4％）で１割強～１割台半ばと多く、「利用手続きや規則が面倒だから」は家族成長前期（13.9％）で１割強と多くなっている。（図３－18－３）

## （19）食料の備蓄の有無

### ◇「*備蓄している*」*が６割弱*

問25　あなたの家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して食料を備蓄していますか。（〇は１つだけ）

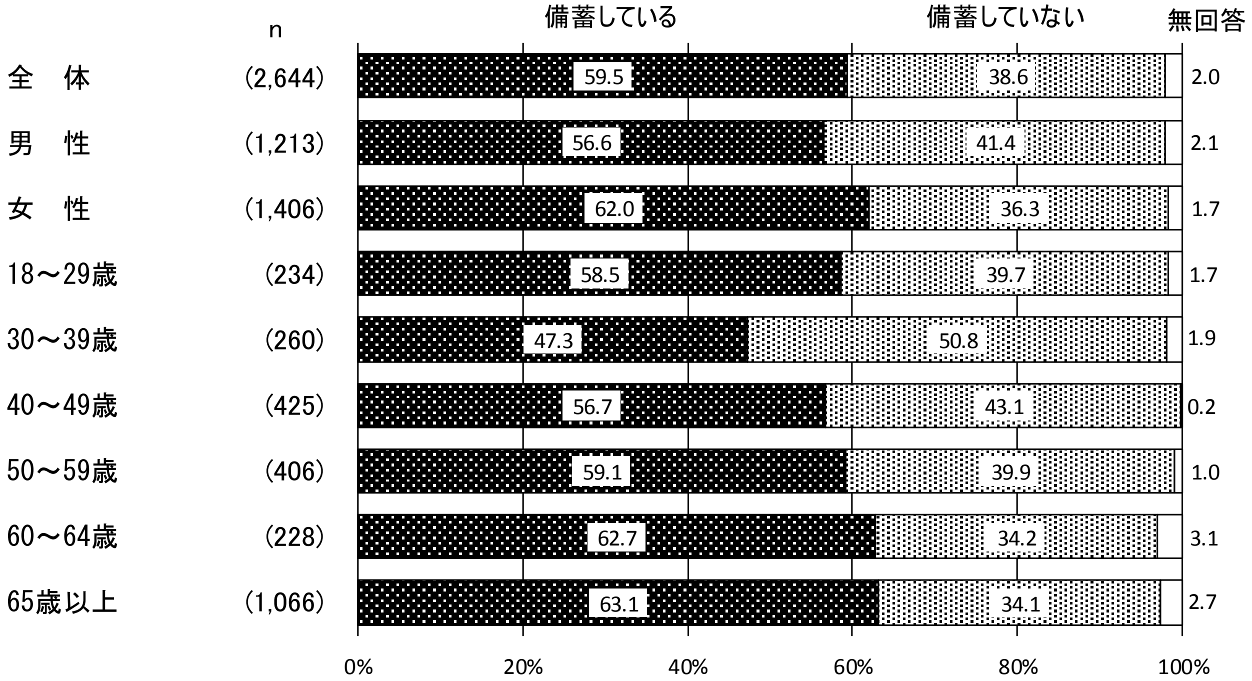
図３－19－１　食料の備蓄の有無－全体、経年比較




災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して食料を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄している」（59.5％）が６割弱となっている。一方、「備蓄していない」（38.6％）は４割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、「備蓄している」は、平成29年（56.3％）より3.2ポイント増加して、平成28年（59.5％）と同率となっている。（図３－19－１）

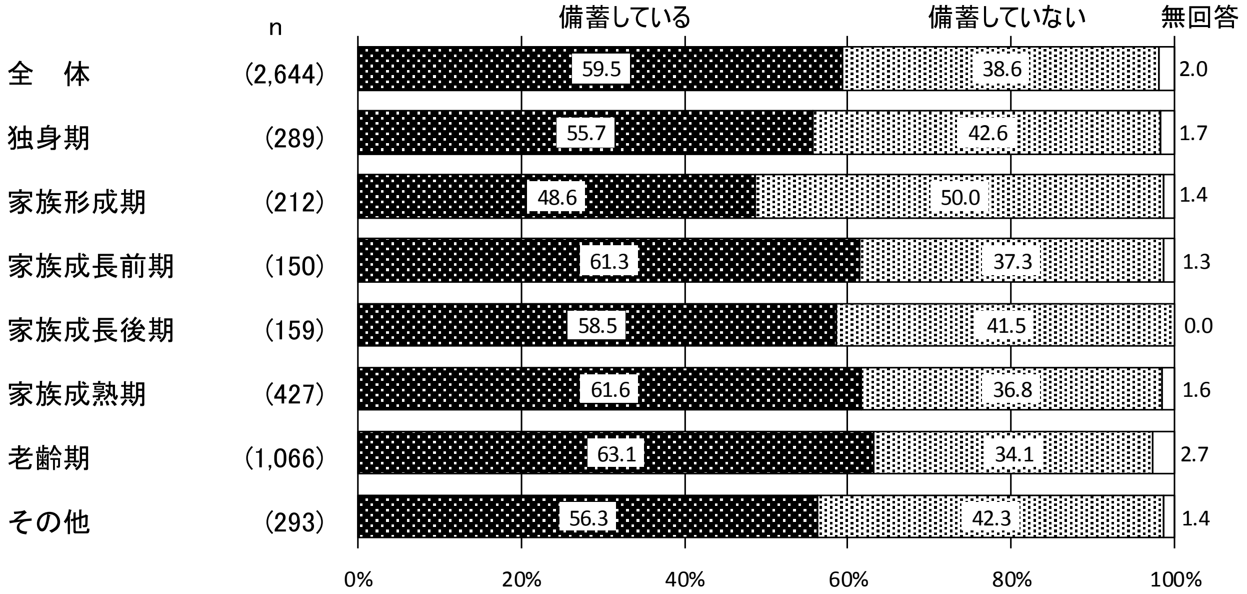
### 図３－19－２　食料の備蓄の有無－性別、年齢別




性別にみると、「備蓄している」は女性（62.0%）が男性（56.6%）より5.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「備蓄している」は30～39歳（47.3%）で５割近くと少なくなっている。
（図３－19－２）

### 図３－19－３　食料の備蓄の有無－ライフステージ別



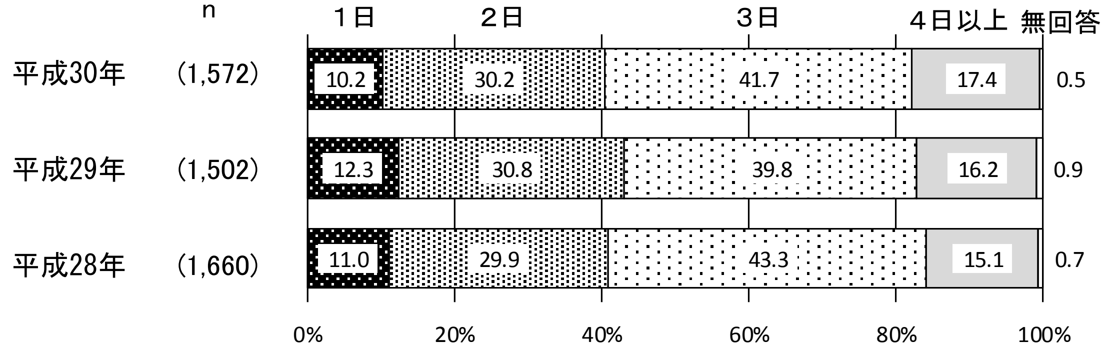

ライフステージ別にみると、「備蓄している」は老齢期（63.1%）で６割強と多く、家族形成期（48.6%）で５割近くと少なくなっている。（図３－19－３）

## （20）食料の備蓄量

### ◇「３日」が４割強

（食料を「備蓄している」とお答えの方に）
問25－１－１　家族が何日間過ごせる分の食料を備蓄していますか。（○は１つだけ）

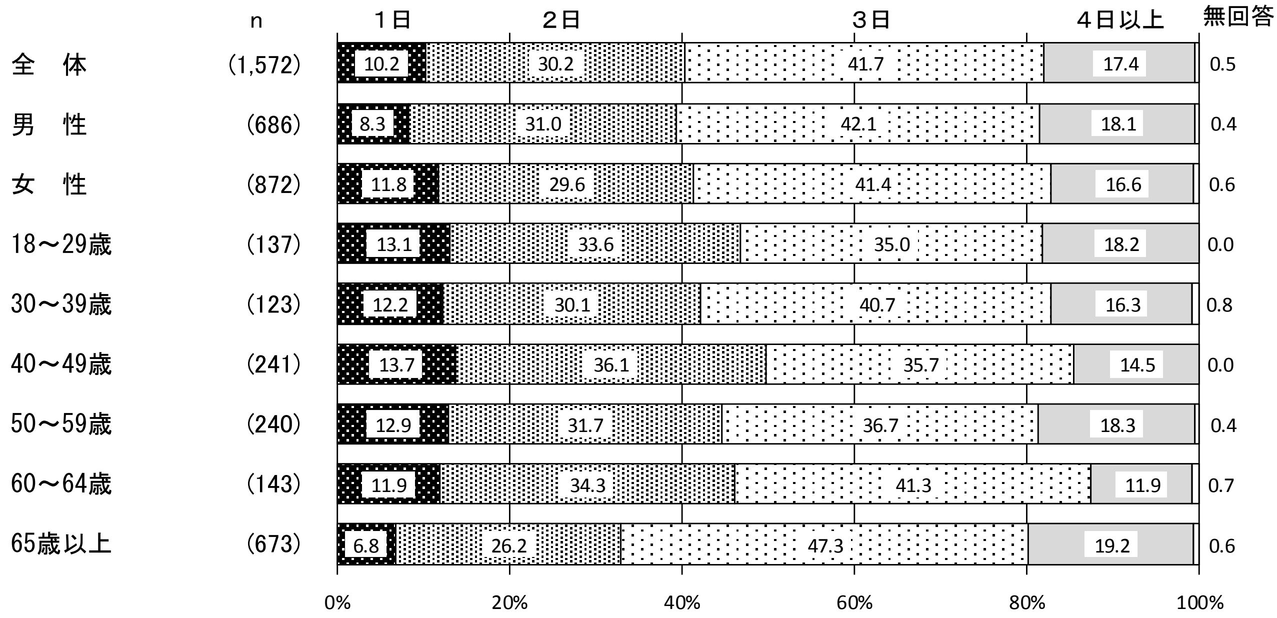
図３－20－１　食料の備蓄量－全体、経年比較




食料を「備蓄している」と回答した1,572人に、家族が何日間過ごせる分の食料を備蓄しているか聞いたところ、「３日」（41.7%）が最も多く４割強となっている。次いで「２日」（30.2%）が約３割で続き、以下「４日以上」（17.4%）が２割近く、「１日」（10.2%）が約１割となっている。

前回までの調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。（図３－20－１）

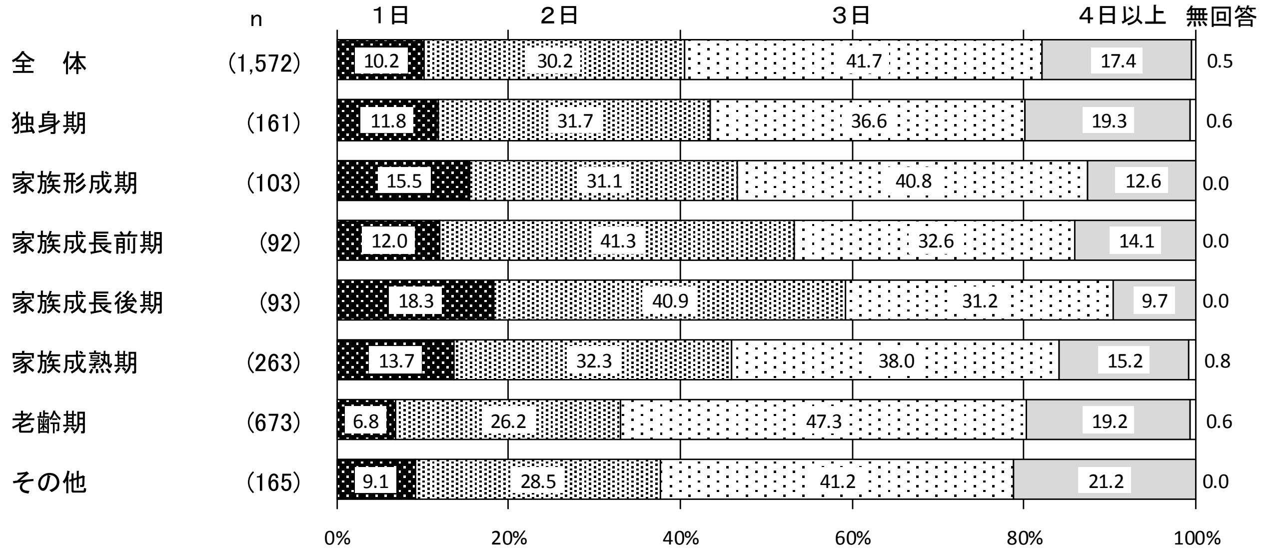
## 図３－20－２　食料の備蓄量－性別、年齢別




性別にみると、「１日」で女性（11.8%）が男性（8.3%）より3.5ポイント高くなっているのを除くと、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「３日」は65歳以上（47.3%）で５割近くと多い一方、18～29歳（35.0%）と40～49歳（35.7%）では３割台半ばと少なくなっている。また、「２日」は40～49歳（36.1%）で４割近くと多くなっている。（図３－20－２）

## 図３－20－３　食料の備蓄量－ライフステージ別




ライフステージ別にみると、「１日」は家族成長後期（18.3%）で２割近くと多く、「２日」も家族成長後期（40.9%）で約４割と多くなっており、「３日」は老齢期（47.3%）で５割近くと多くなっている。（図３－20－３）

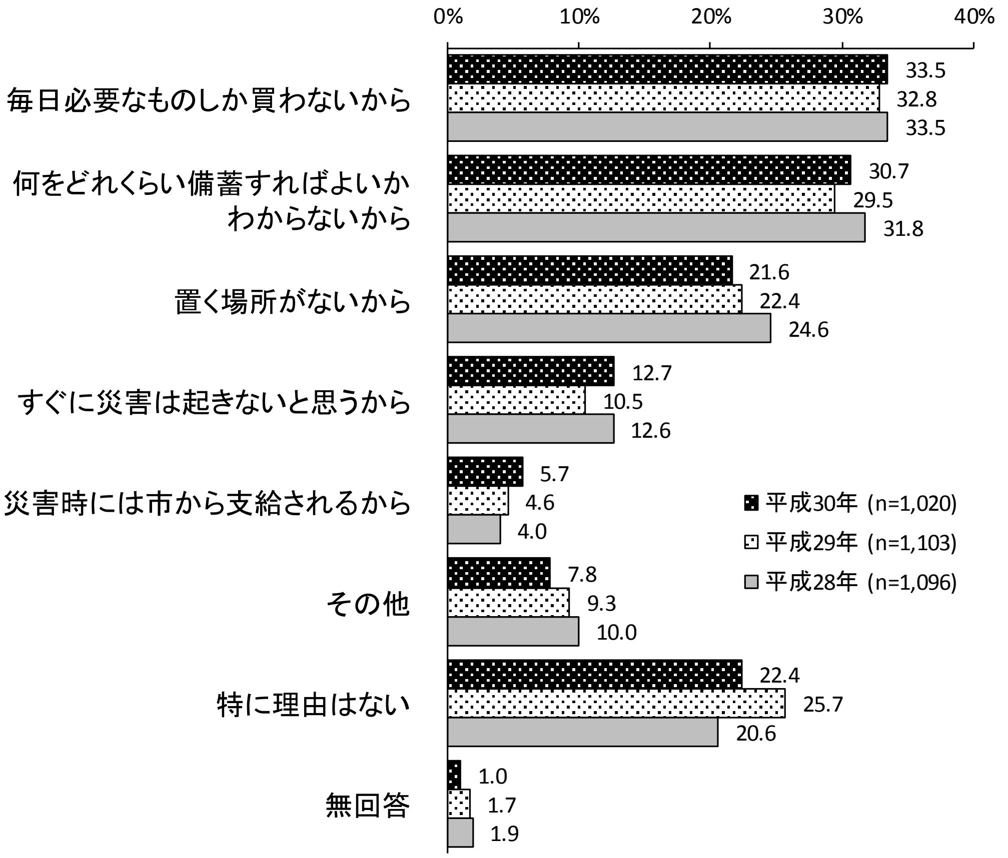
## （21）食料を備蓄していない理由

### ◇「毎日必要なものしか買わないから」が３割強

（食料を「備蓄していない」とお答えの方に）

問25－１－２　食料を備蓄していない理由は何ですか。（○はいくつでも）

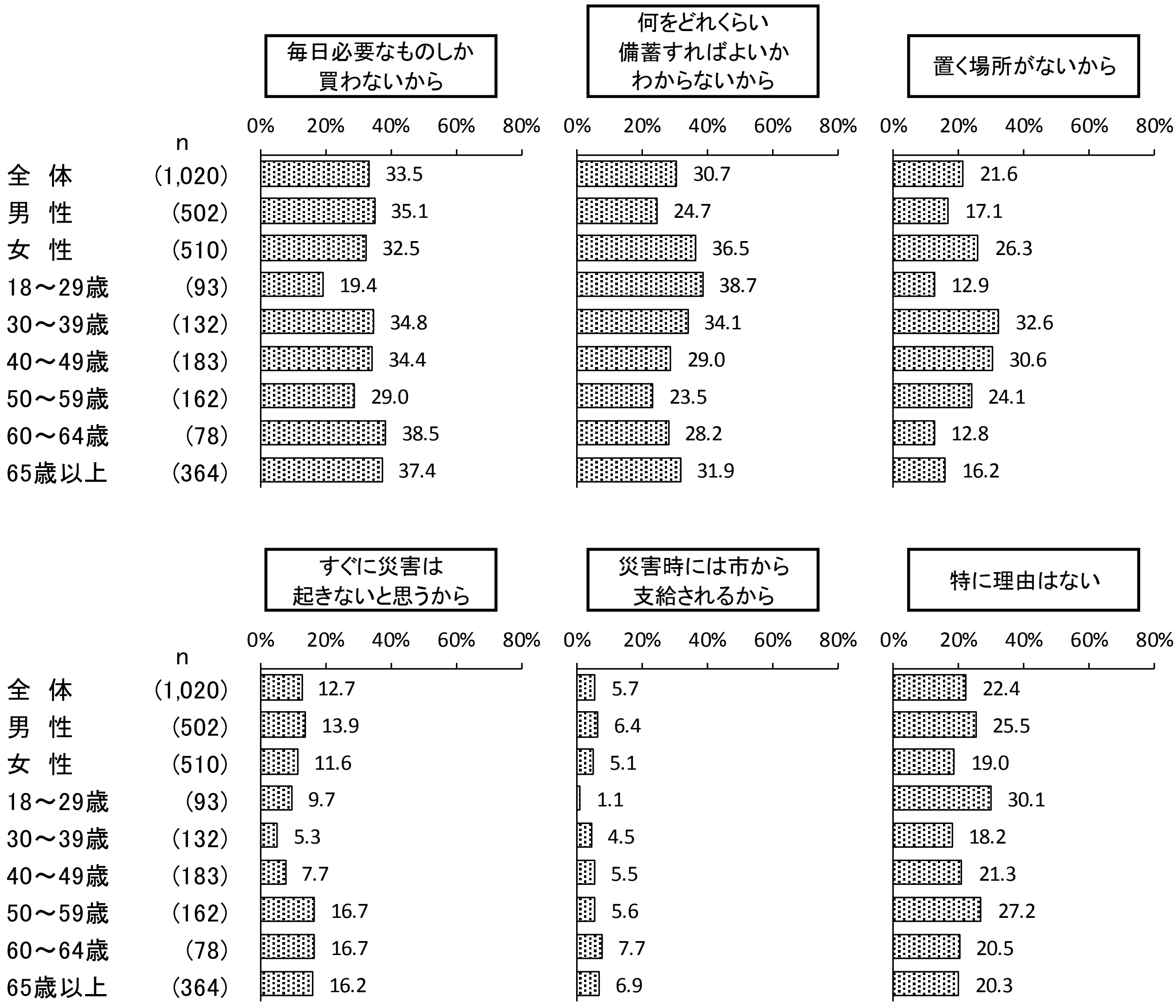
図３－21－１　食料を備蓄していない理由－全体、経年比較




食料を「備蓄していない」と回答した1,020人に、その理由を聞いたところ、「毎日必要なものしか買わないから」（33.5％）が最も多く３割強となっている。次いで「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」（30.7％）が約３割で続き、以下「置く場所がないから」（21.6％）、「すぐに災害は起きないと思うから」（12.7％）などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「災害時には市から支給されるから」は２年連続で微増傾向にある一方、「置く場所がないから」は２年連続で微減傾向となっている。（図３－21－１）

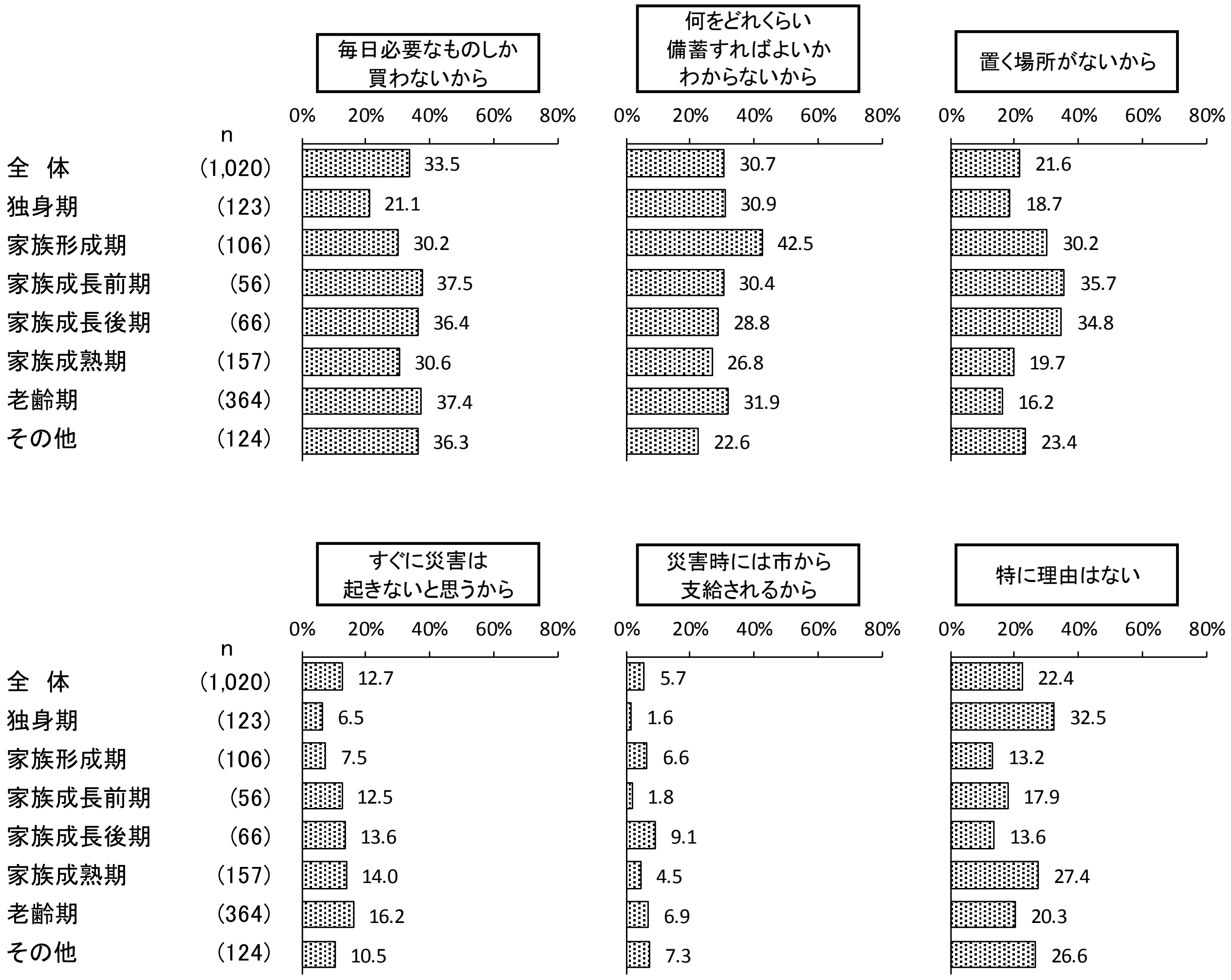
図３－21－２　食料を備蓄していない理由－性別、年齢別（「その他」を除く）




性別にみると、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は女性（36.5％）が男性（24.7％）より11.8ポイント高く、「置く場所がないから」も女性（26.3％）が男性（17.1％）より9.2ポイント高くなっている。一方、「特に理由はない」は男性（25.5％）が女性（19.0％）より6.5ポイント高くなっており、「すぐに災害は起きないと思うから」も男性（13.9％）が女性（11.6％）より2.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は60～64歳（38.5％）と65歳以上（37.4％）の両層で４割近くと多い一方、18～29歳（19.4％）は２割弱と少なくなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は18～29歳（38.7％）で４割近くと多く、「特に理由はない」も18～29歳（30.1％）で約３割と多くなっている。なお「置く場所がないから」は30～39歳（32.6％）で３割強と多くなっている。（図３－21－２）

図３－21－３　食料を備蓄していない理由－ライフステージ別（「その他」を除く）



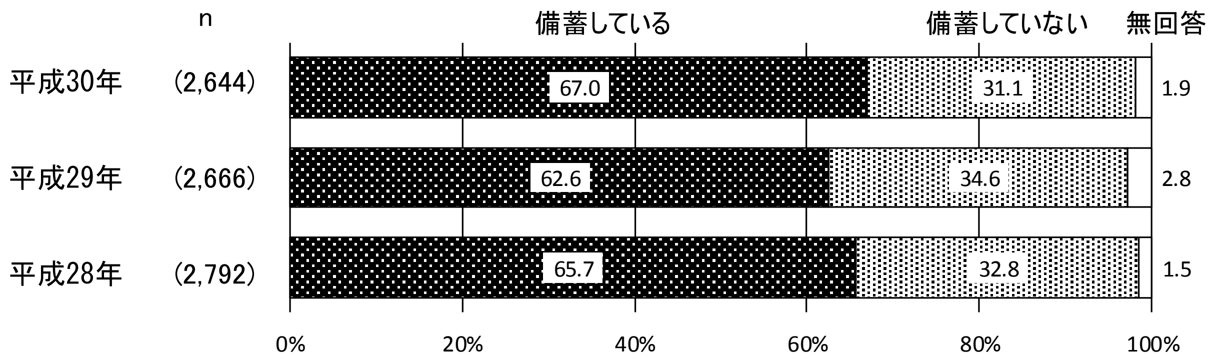

ライフステージ別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は独身期（21.1％）で２割強と少なくなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は家族形成期（42.5％）で４割強と多く、「置く場所がないから」は家族成長前期（35.7％）と家族成長後期（34.8％）で３割台半ばと多くなっている。なお、「特に理由はない」は独身期（32.5％）で３割強と多い一方、家族形成期（13.2％）と家族成長後期（13.6％）では１割強と少なくなっている。（図３－21－３）

## （22）飲料水の備蓄の有無

### ◇「備蓄している」が７割近く

問25　あなたの家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して、飲料水を備蓄していますか。（○は１つだけ）

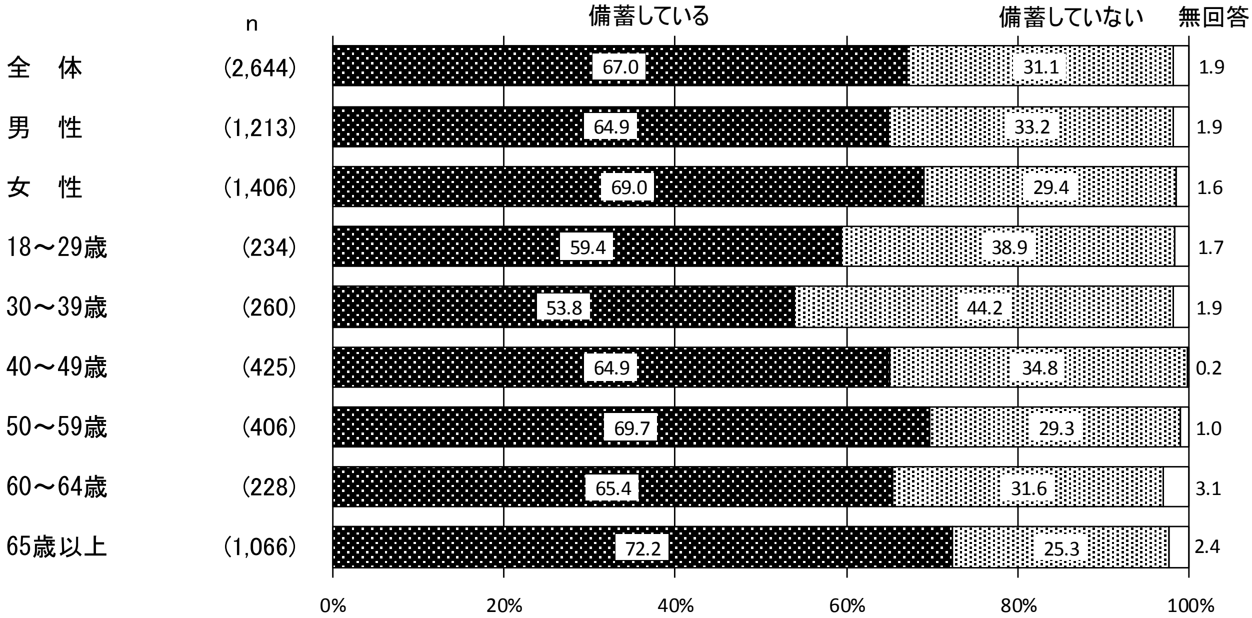
図３－22－１　飲料水の備蓄の有無－全体、経年比較




災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して飲料水を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄している」（67.0％）が７割近くとなっている。一方、「備蓄していない」（31.1％）は３割強となっている。

前回までの調査と比較すると、「備蓄している」は平成29年（62.6％）より4.4ポイント増加して、平成28年（65.7％）も上回って、直近３年間の中で最も多くなっている。（図３－22－１）

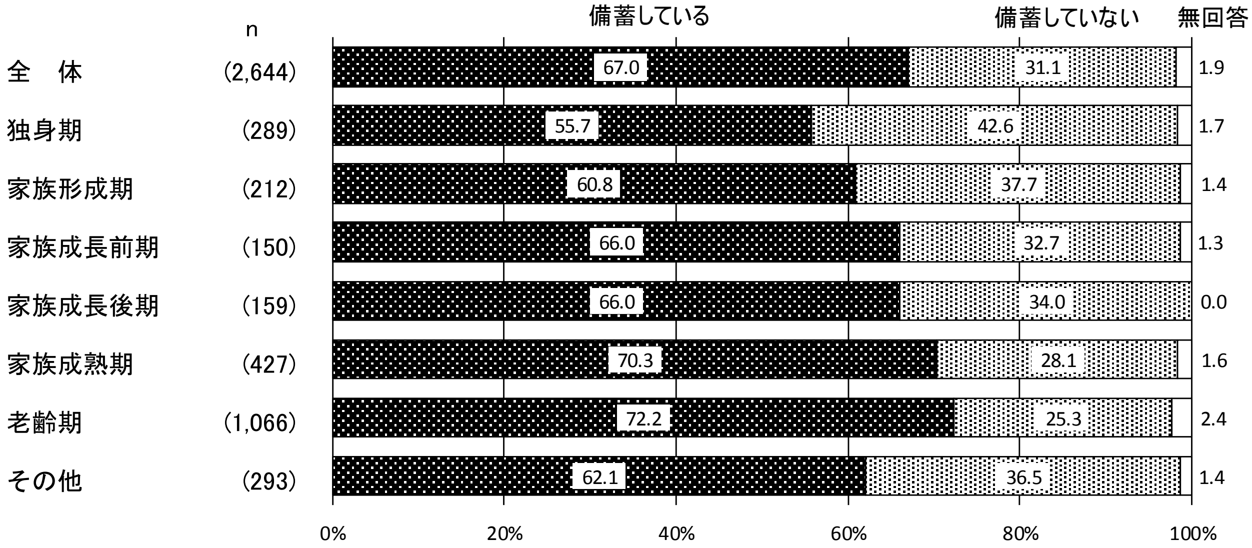
## 図３－22－２　飲料水の備蓄の有無－性別、年齢別




性別にみると、「備蓄している」は女性（69.0％）が男性（64.9％）より4.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「備蓄している」は65歳以上（72.2％）と50～59歳（69.7％）で７割弱～７割強と多い一方、30～39歳（53.8％）と18～29歳（59.4％）ではともに５割台と少なくなっている。（図３－22－２）

## 図３－22－３　飲料水の備蓄の有無－ライフステージ別




ライフステージ別にみると、「備蓄している」はライフステージが上がるごとに割合が高くなっており、老齢期（72.2％）で７割強と多くなっている。（図３－22－３）

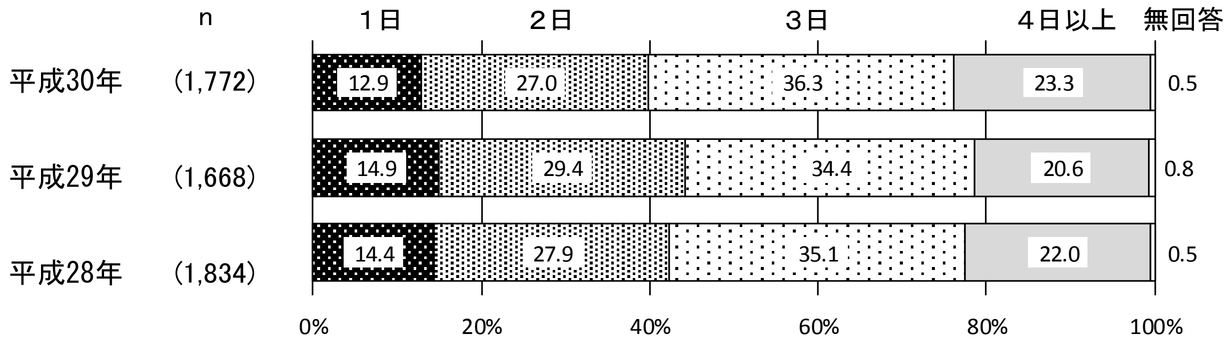
## （23）飲料水の備蓄量

### ◇「３日」が４割近く

（飲料水を「備蓄している」とお答えの方に）

問25－２－１　家族が何日間過ごせる分の飲料水を備蓄していますか。（〇は１つだけ）

図３－23－１　飲料水の備蓄量－全体、経年比較

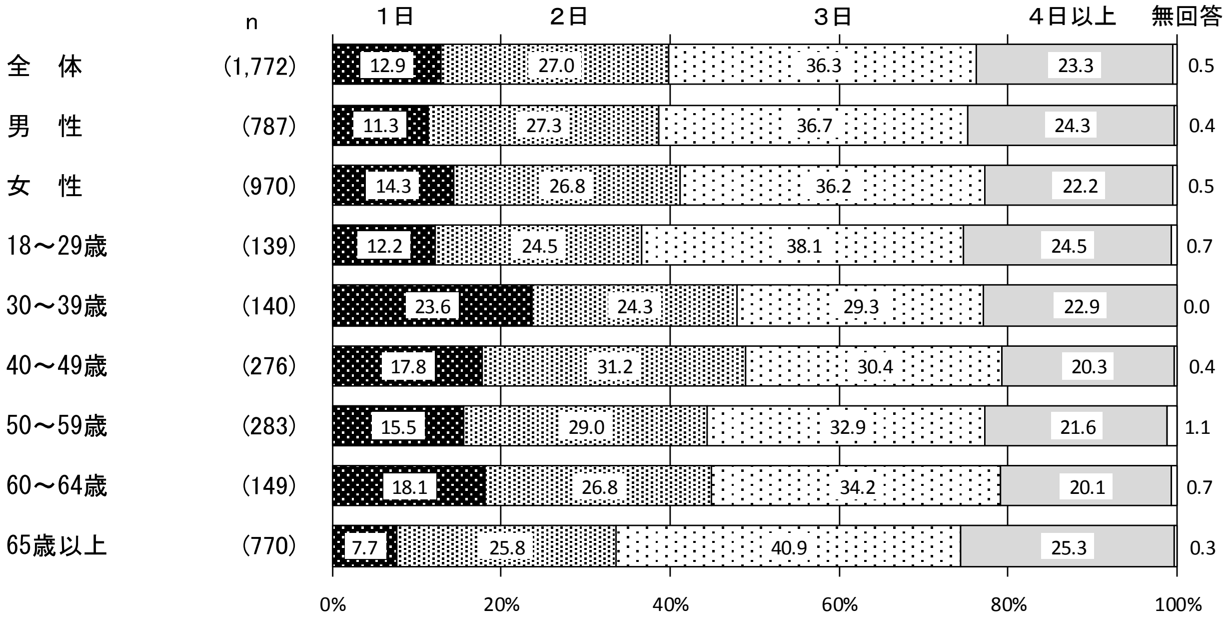



（注）飲料水は大人１人１日３リットルで計算

飲料水を「備蓄している」と回答した1,772人に、家族が何日間過ごせる分の飲料水を備蓄をしているか聞いたところ、「３日」(36.3%) が最も多く４割近くとなっている。以下「２日」(27.0%) は３割近くで、「４日以上」(23.3%) は２割強、「１日」(12.9%) が１割強となっている。

前回までの調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図３－23－１)

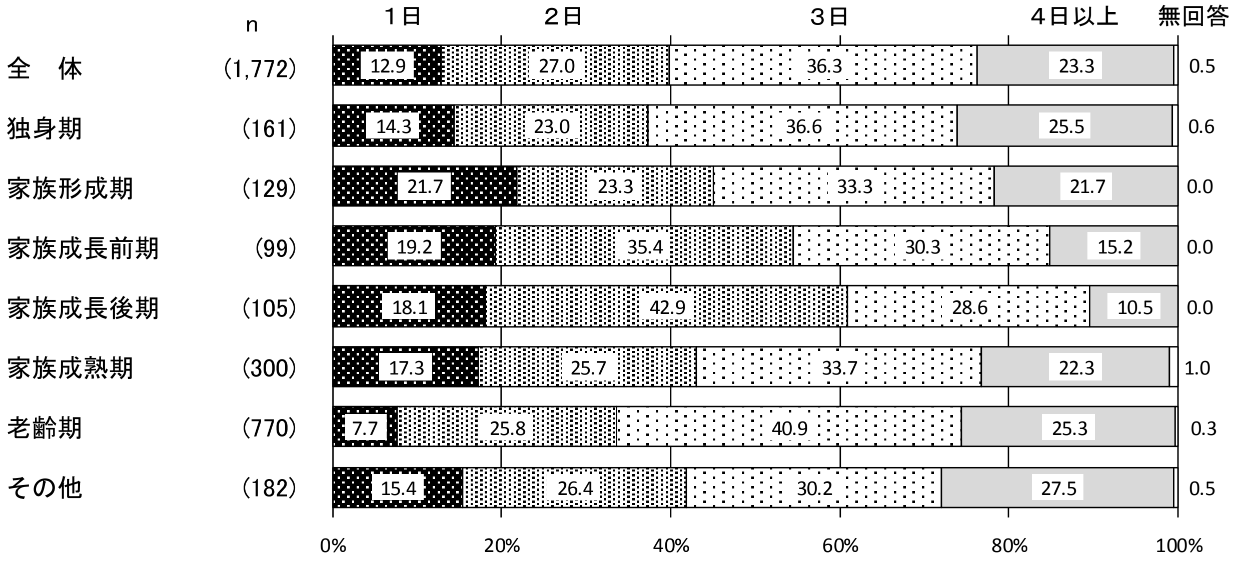
## 図３－23－２　飲料水の備蓄量－性別、年齢別




性別にみると、「１日」は女性（14.3%）が男性（11.3%）より3.0ポイント高い一方、「４日以上」は男性（24.3%）が女性（22.2%）より2.1ポイント高くなっている。

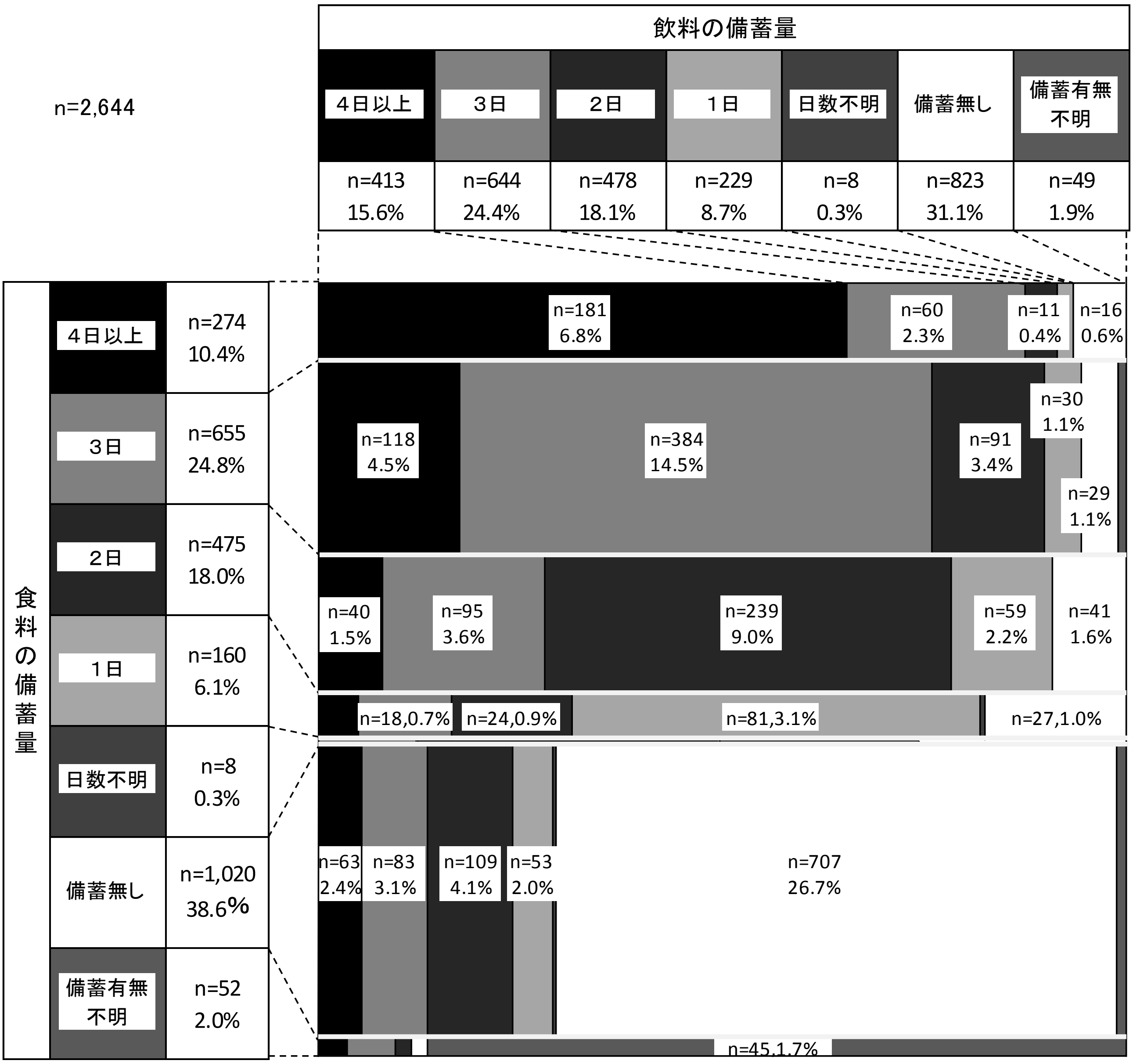
年齢別にみると、「１日」は30～39歳（23.6%）で２割強と多くなっている。（図３－23－２）

## 図３－23－３　飲料水の備蓄量－ライフステージ別




ライフステージ別にみると、「１日」は家族形成期～家族成長後期で多く、中でも家族形成期（21.7%）で２割強と多くなっている。「２日」は家族成長前期（35.4%）が３割台半ば、家族成長後期（42.9%）が４割強と多くなっている。「４日以上」は家族成長後期（10.5%）で約１割と少なくなっている。（図３－23－３）

図３－23－４　飲料水及び食料の備蓄の有無とその備蓄量（量率グラフ）




飲料の備蓄量と食料の備蓄量の関係を捉える上で、飲料水及び食料の備蓄の有無とその備蓄量（量率グラフ）では、横方向で飲料の備蓄量の構成比を、縦方向で食料の備蓄量の構成比を示している（図３－23－４）。なお、面積が小さい箇所は、人数及び構成比をグラフ中に記載することが難しいため割愛し、別途作成した飲料水及び食料の備蓄の有無とその備蓄量（全体に占める人数及び構成比）にて、当該データを記載している（図３－23－５）。

飲料水及び食料の備蓄の有無とその備蓄量（量率グラフ）をみると、「飲料、食料ともに備蓄無し」（n=707、26.7%）が全体の３割近くと最も多くなっている。次いで「飲料、食料ともに３日分」（n=384、14.5%）が１割台半ばで続き、以下「飲料、食料ともに２日分」（n=239、9.0%）、「飲料、食料ともに４日分以上」（n=181、6.8%）などの順となっている。なお、≪飲料と食料の両方をともに３日分以上備蓄≫（n=743、28.1%）している人は全体の３割近くとなっている。

（図３－23－４）

### 図３－23－５　飲料水及び食料の備蓄の有無とその備蓄量（全体に占める人数及び構成比）

| n=2,644 | | | 飲料の備蓄量 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ４日以上 | ３日 | ２日 | １日 | 日数不明 | 備蓄無し | 備蓄有無不明 |
| | | | n=413<br>15.6% | n=644<br>24.4% | n=478<br>18.1% | n=229<br>8.7% | n=8<br>0.3% | n=823<br>31.1% | n=49<br>1.9% |
| 食料の備蓄量 | ４日以上 | n=274<br>10.4% | n=181<br>6.8% | n=60<br>2.3% | n=11<br>0.4% | n=6<br>0.2% | n=0<br>0.0% | n=16<br>0.6% | n=0<br>0.0% |
| | ３日 | n=655<br>24.8% | n=118<br>4.5% | n=384<br>14.5% | n=91<br>3.4% | n=30<br>1.1% | n=1<br>0.0% | n=29<br>1.1% | n=2<br>0.1% |
| | ２日 | n=475<br>18.0% | n=40<br>1.5% | n=95<br>3.6% | n=239<br>9.0% | n=59<br>2.2% | n=1<br>0.0% | n=41<br>1.6% | n=0<br>0.0% |
| | １日 | n=160<br>6.1% | n=9<br>0.3% | n=18<br>0.7% | n=24<br>0.9% | n=81<br>3.1% | n=1<br>0.0% | n=27<br>1.0% | n=0<br>0.0% |
| | 日数不明 | n=8<br>0.3% | n=0<br>0.0% | n=1<br>0.0% | n=3<br>0.1% | n=0<br>0.0% | n=2<br>0.1% | n=2<br>0.1% | n=0<br>0.0% |
| | 備蓄無し | n=1,020<br>38.6% | n=63<br>2.4% | n=83<br>3.1% | n=109<br>4.1% | n=53<br>2.0% | n=3<br>0.1% | n=707<br>26.7% | n=2<br>0.1% |
| | 備蓄有無不明 | n=52<br>2.0% | n=2<br>0.1% | n=3<br>0.1% | n=1<br>0.0% | n=0<br>0.0% | n=0<br>0.0% | n=1<br>0.0% | n=45<br>1.7% |

注）グレー網掛け内は、≪飲料と食料両方をともに３日分以上備蓄≫している人（計 n=743、28.1%）

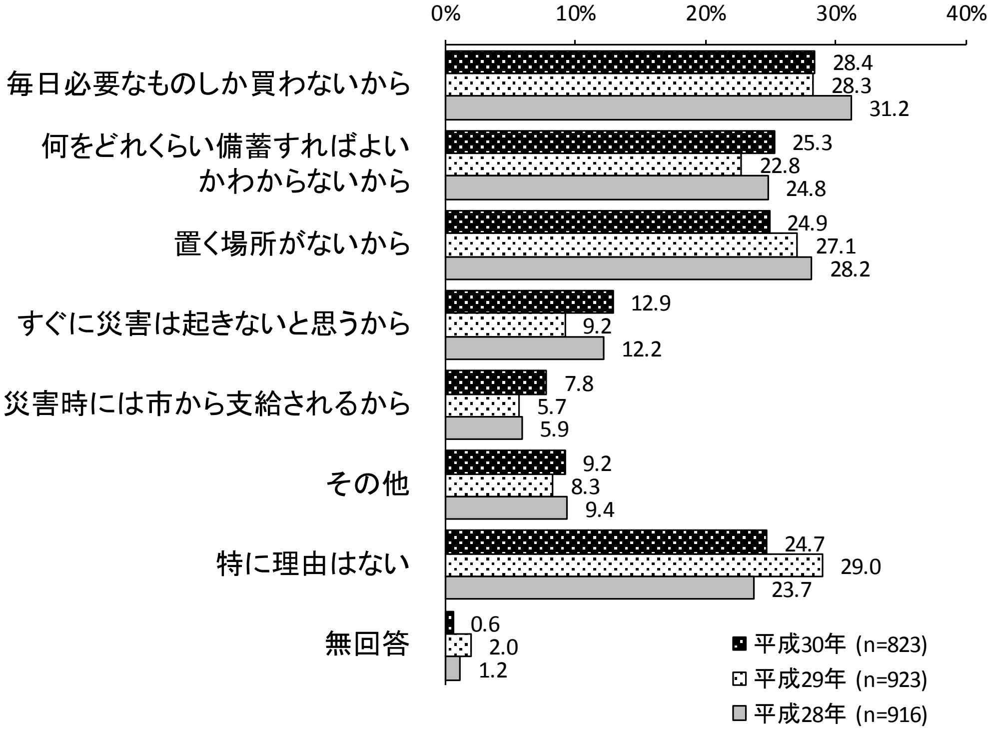
## （24）飲料水を備蓄していない理由

### ◇「毎日必要なものしか買わないから」が３割近く

（飲料水を「備蓄していない」とお答えの方に）

問25－２－２　飲料水を備蓄していない理由は何ですか。（〇はいくつでも）

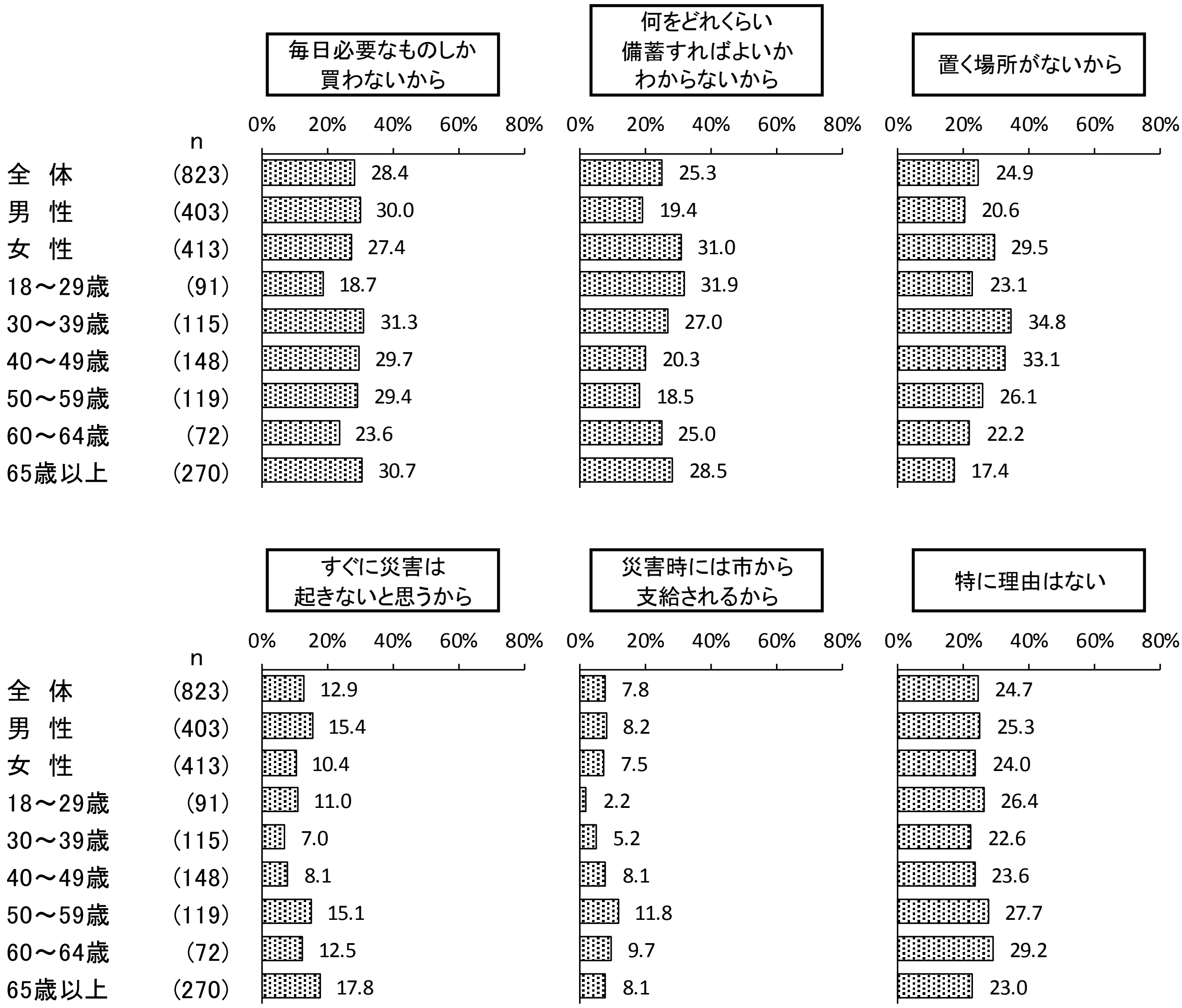
図３－24－１　飲料水を備蓄していない理由－全体、経年比較




飲料水を「備蓄していない」と回答した823人に、その理由を聞いたところ、「毎日必要なものしか買わないから」（28.4％）が最も多く３割近くとなっている。以下「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」（25.3％）、「置く場所がないから」（24.9％）、「すぐに災害は起きないと思うから」（12.9％）などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「置く場所がないから」は２年連続で微減傾向にある一方、平成29年に比べると「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」（2.5ポイント増）、「すぐに災害は起きないと思うから」（3.0ポイント増）、「災害時には市から支給されるから」（2.0ポイント増）の３項目はそれぞれ平成29年より多くなっている上に、直近３年間の中で最も多くなっている。
（図３－24－１）

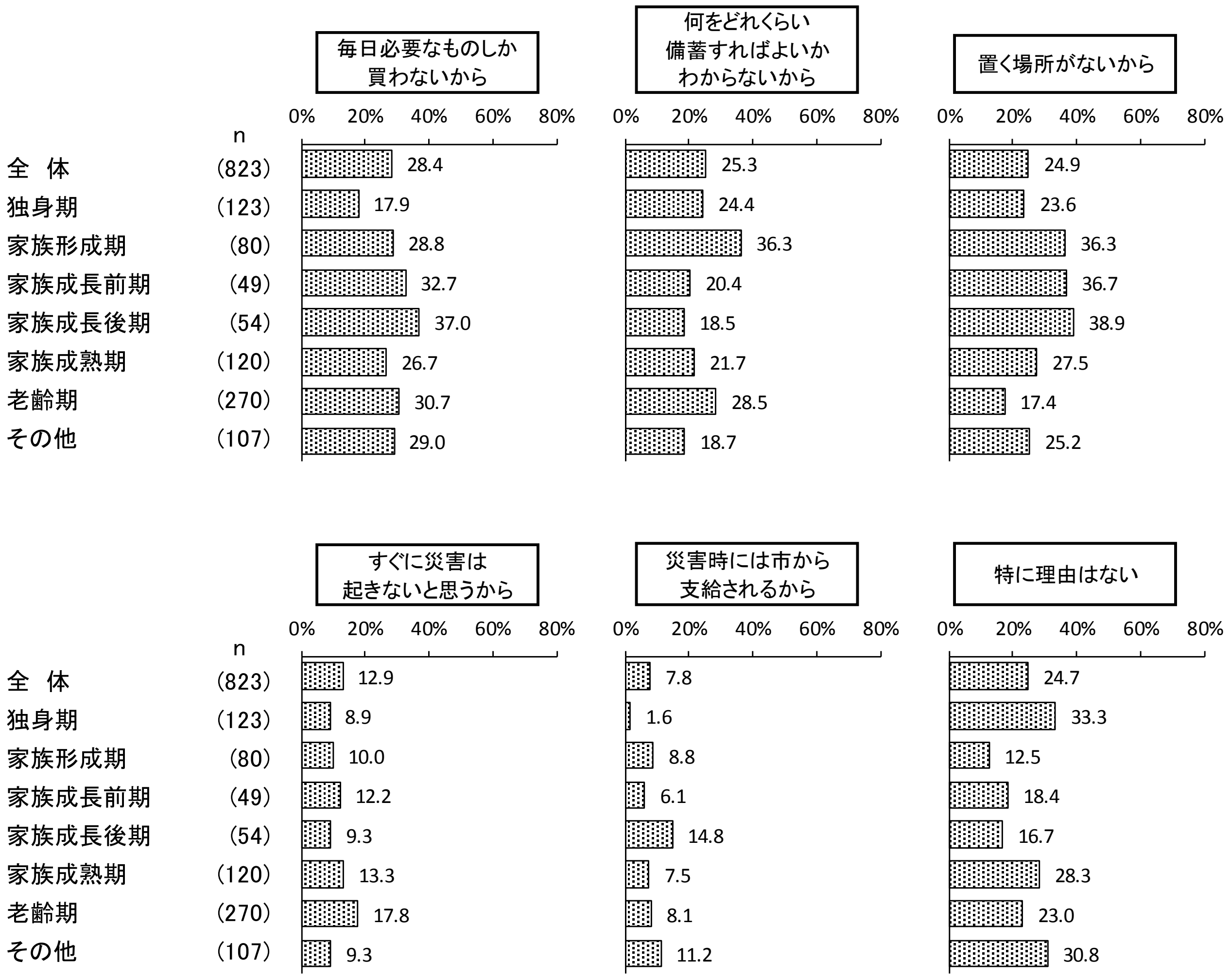
図３－24－２　飲料水を備蓄していない理由（「その他」を除く）－性別、年齢別




性別にみると、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は女性（31.0%）が男性（19.4%）より11.6ポイント高く、「置く場所がないから」も女性（29.5%）が男性（20.6%）より8.9ポイント高くなっている。逆に「すぐに災害は起きないと思うから」は男性（15.4%）が女性（10.4%）より5.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、18～29歳は「毎日必要なものしか買わないから」（18.7%）で２割近くと少ない一方、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」（31.9%）で３割強と最も多くなっている。「置く場所がないから」は30歳代～40歳代で多くなっており、中でも30～39歳（34.8%）で３割台半ばと多いが、65歳以上（17.4%）では２割近くと少なくなっている。（図３－24－２）

## 図３－24－３　飲料水を備蓄していない理由（「その他」を除く）－ライフステージ別




ライフステージ別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は家族成長後期（37.0％）で４割近くと多い一方、独身期（17.9％）では２割近くと少なくなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は家族形成期（36.3％）で４割近くと多く、「置く場所がないから」は家族形成期から家族成長後期で多くなっており、中でも家族成長後期（38.9％）で４割近くと最も多くなっている。「災害時には市から支給されるから」は家族成長後期（14.8％）で１割台半ばと多くなっており、「特に理由はない」は独身期（33.3％）で３割強と多くなっている。

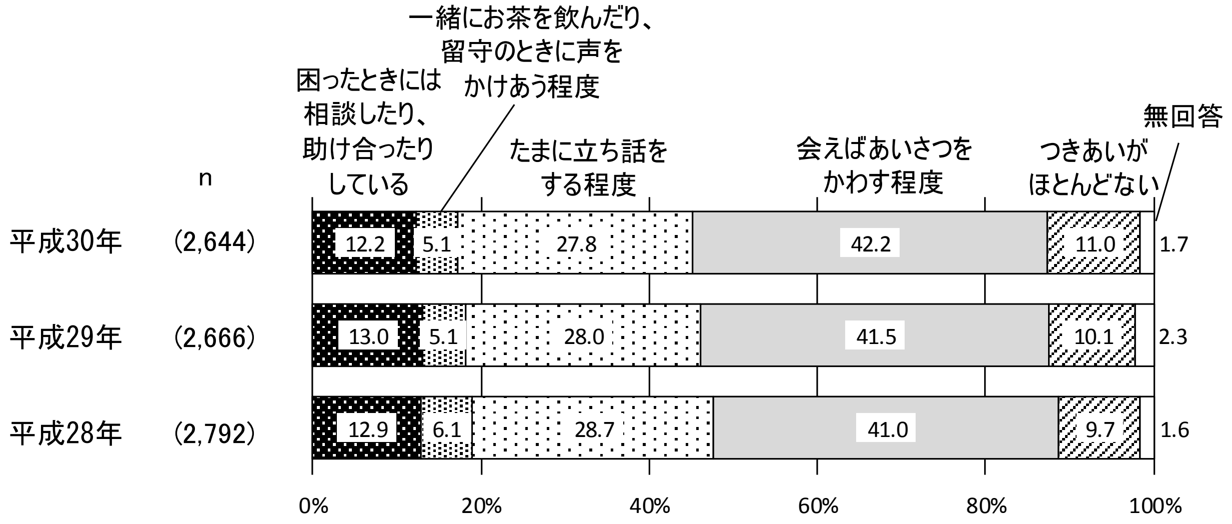
（図３－24－３）

## （25）隣近所とのつきあい方

### ◇「会えばあいさつをかわす程度」が４割強

問26　あなたは、日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしていますか。（○は１つだけ）

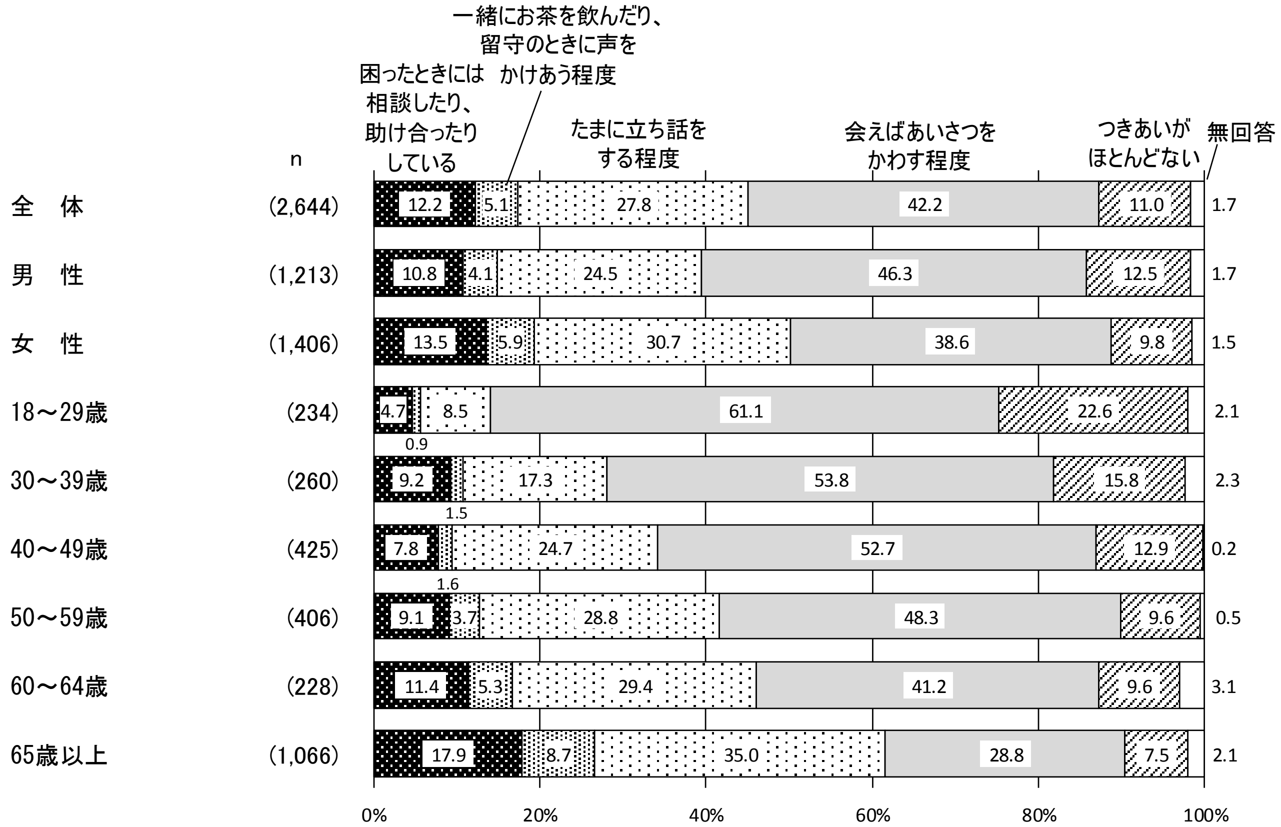
図３－25－１　隣近所とのつきあい方－全体、経年比較




日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしているか聞いたところ、「会えばあいさつをかわす程度」（42.2%）が最も多く４割強となっている。以下「たまに立ち話をする程度」（27.8%）は３割近くで、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」（12.2%）と「つきあいがほとんどない」（11.0）が１割強となっている。

前回までの調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。（図３－25－１）

図３－25－２　隣近所とのつきあい方－性別、年齢別

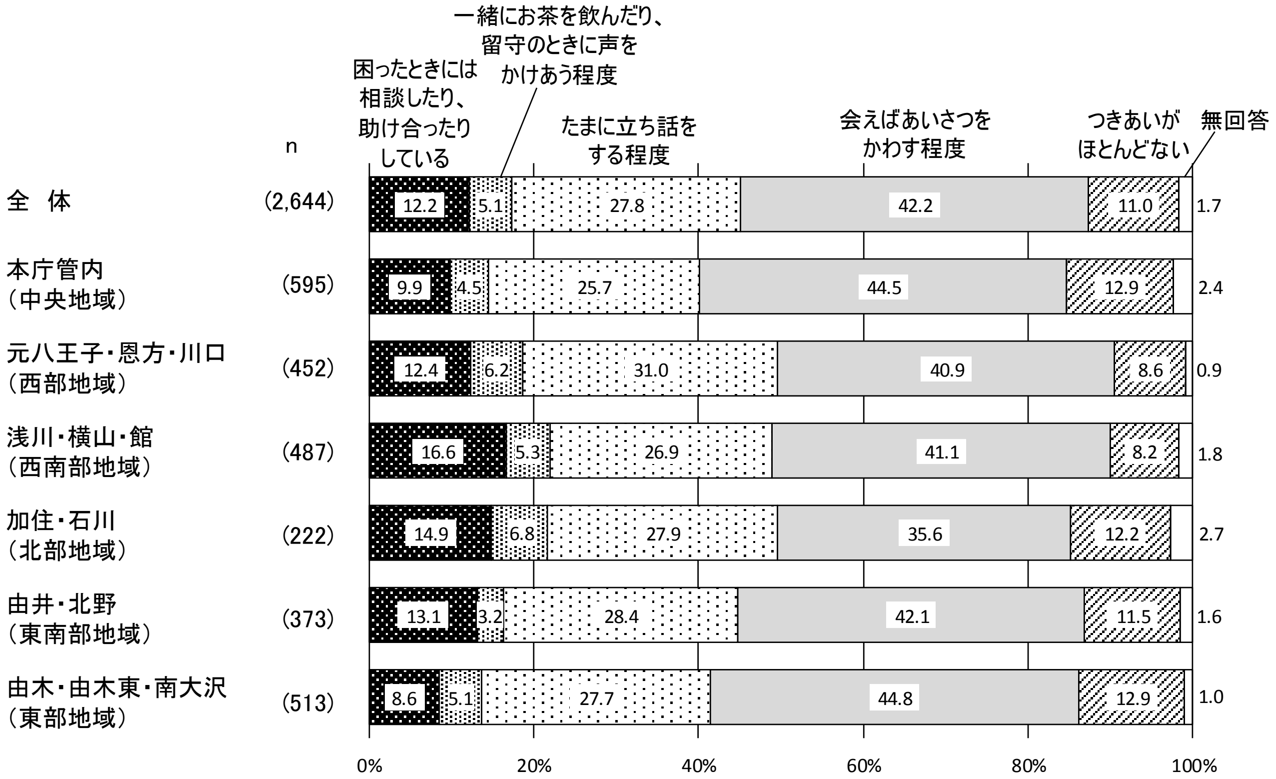



性別にみると、「たまに立ち話をする程度」は女性（30.7％）が男性（24.5％）より6.2ポイント高い一方、「会えばあいさつをかわす程度」は男性（46.3％）が女性（38.6％）より7.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」は65歳以上（17.9％）で２割近くと多くなっている。「たまに立ち話をする程度」は高い年代ほど割合が高くなっており、65歳以上（35.0％）で３割台半ばと多くなっている。逆に「会えばあいさつをかわす程度」は低い年代ほど割合が高くなっており、18～29歳（61.1％）で６割強と多くなっている。また、「つきあいがほとんどない」も低い年代ほど割合が高く、18～29歳（22.6％）で２割強と多くなっている。

（図３－25－２）

図３－25－３　隣近所とのつきあい方－居住地域別



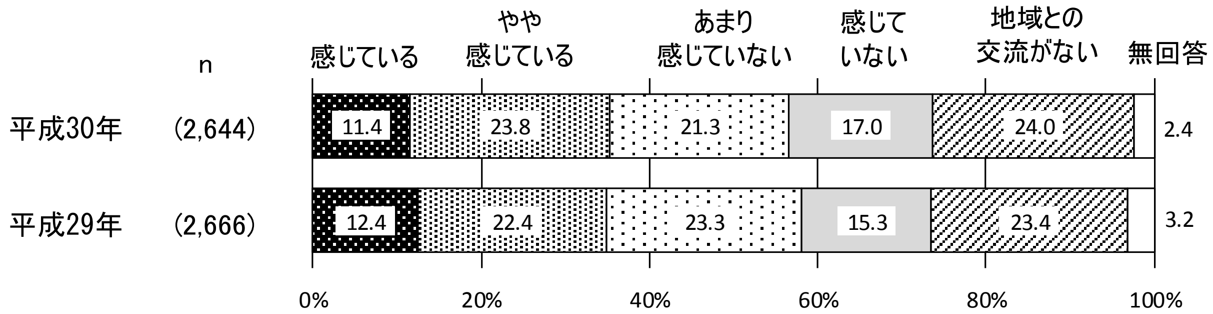

居住地域別にみると、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」は浅川・横山・館（西南部地域）（16.6％）と加住・石川（北部地域）（14.9％）の両地域で１割台半ば～２割近くと多くなっている。「会えばあいさつをかわす程度」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（44.8％）と本庁管内（中央地域）（44.5％）の両地域で多くなっている一方、加住・石川（北部地域）（35.6％）で３割台半ばと少なくなっている。（図３－25－３）

## （26）地域での交流や活動による充実感や生きがい

***◇≪感じている≫が３割台半ば***

問27　あなたは、地域の人と交流したり、地域の活動に参加したりすることで、充実感や生きがいを感じていますか。（○は１つだけ）

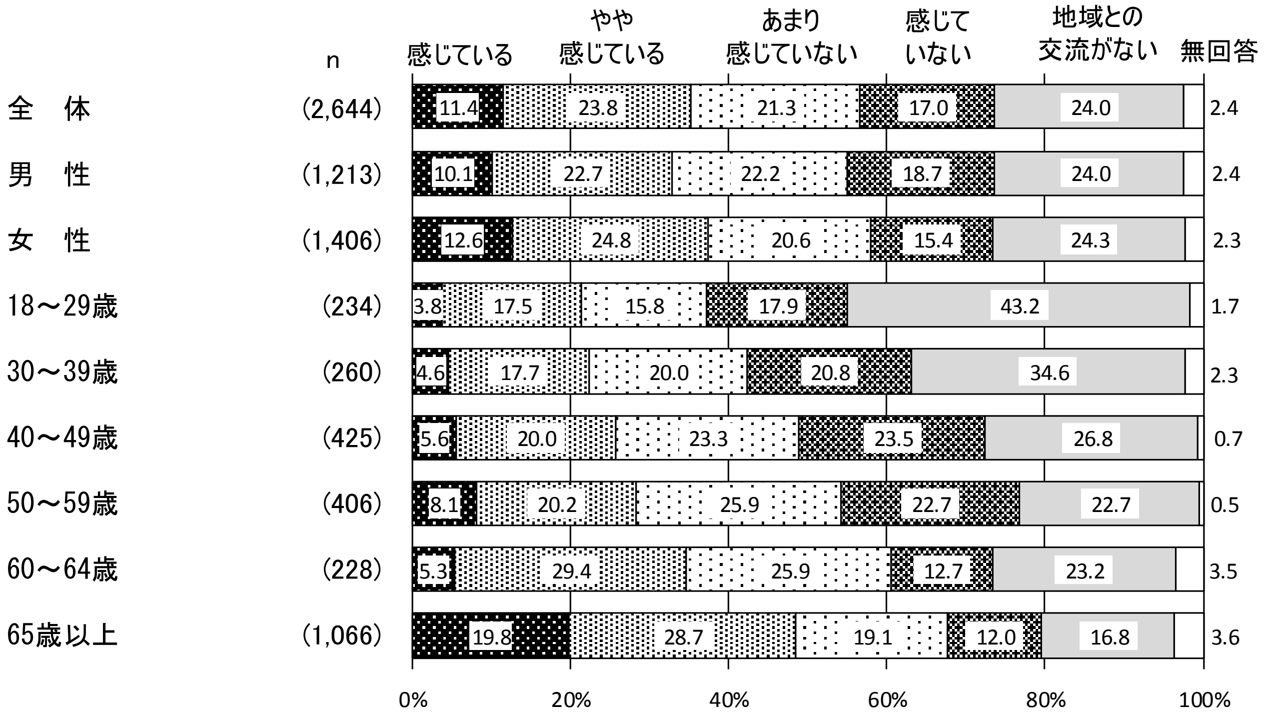
図３－26－１　地域での交流や活動による充実感や生きがい－全体、経年比較




地域の人と交流したり、地域の活動に参加したりすることで充実感や生きがいを感じているか聞いたところ、「地域との交流がない」（24.0％）が２割台半ばで最も多いものの、「感じている」（11.4％）と「やや感じている」（23.8％）を合わせた≪感じている≫（35.2％）が３割台半ばとなっている。一方、「あまり感じていない」（21.3％）と「感じていない」（17.0％）を合わせた≪感じていない≫（38.3％）は４割近くとなっている。

前回調査と比較すると、平成30年と平成29年はともに似た回答分布で、大きな傾向の違いはみられない。（図３－26－１）

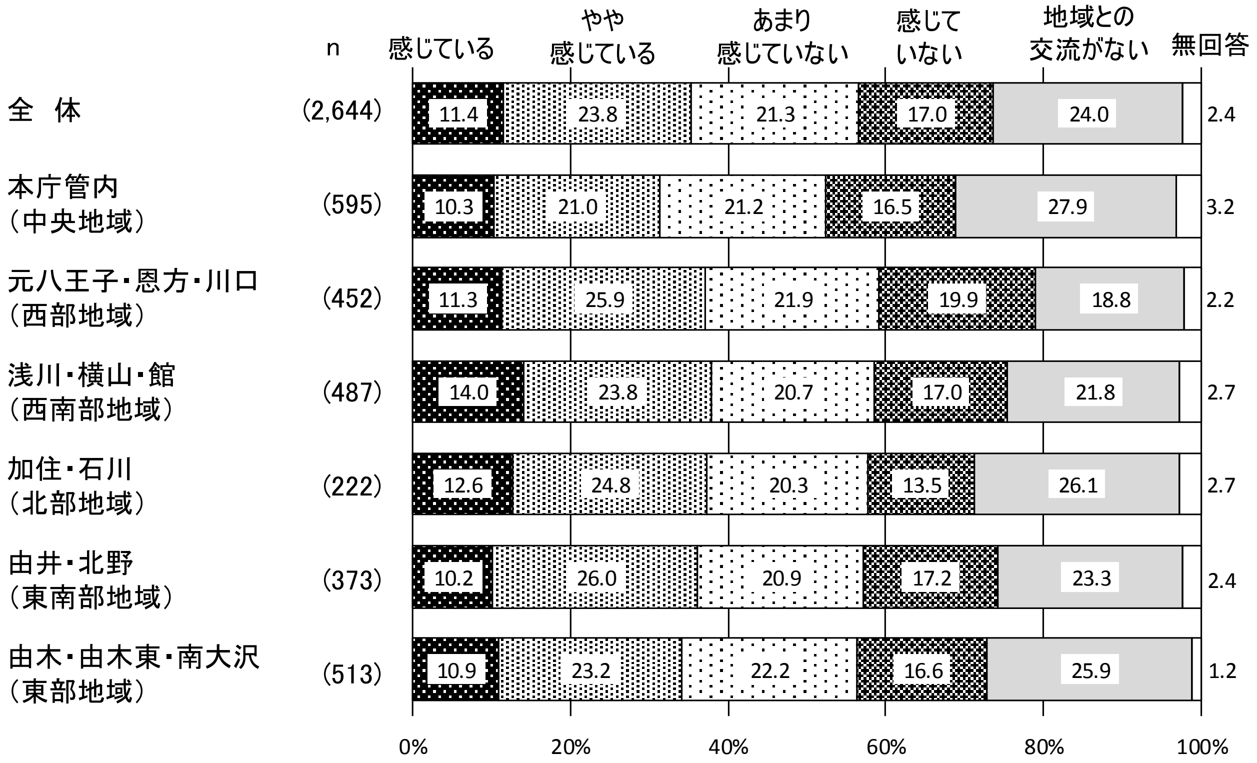
図３－26－２　地域での交流や活動による充実感や生きがい－性別、年齢別




性別にみると、≪感じている≫は女性（37.4%）が男性（32.8%）より4.6ポイント高くなっており、逆に≪感じていない≫は男性（40.9%）が女性（36.0%）より4.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、≪感じている≫は年代が高くなるにつれて割合も高まり、65歳以上（48.5%）で５割近くと多くなっているのに対し、18～29歳（21.3%）と30～39歳（22.3%）の両層でともに２割強と少なくなっている。（図３－26－２）

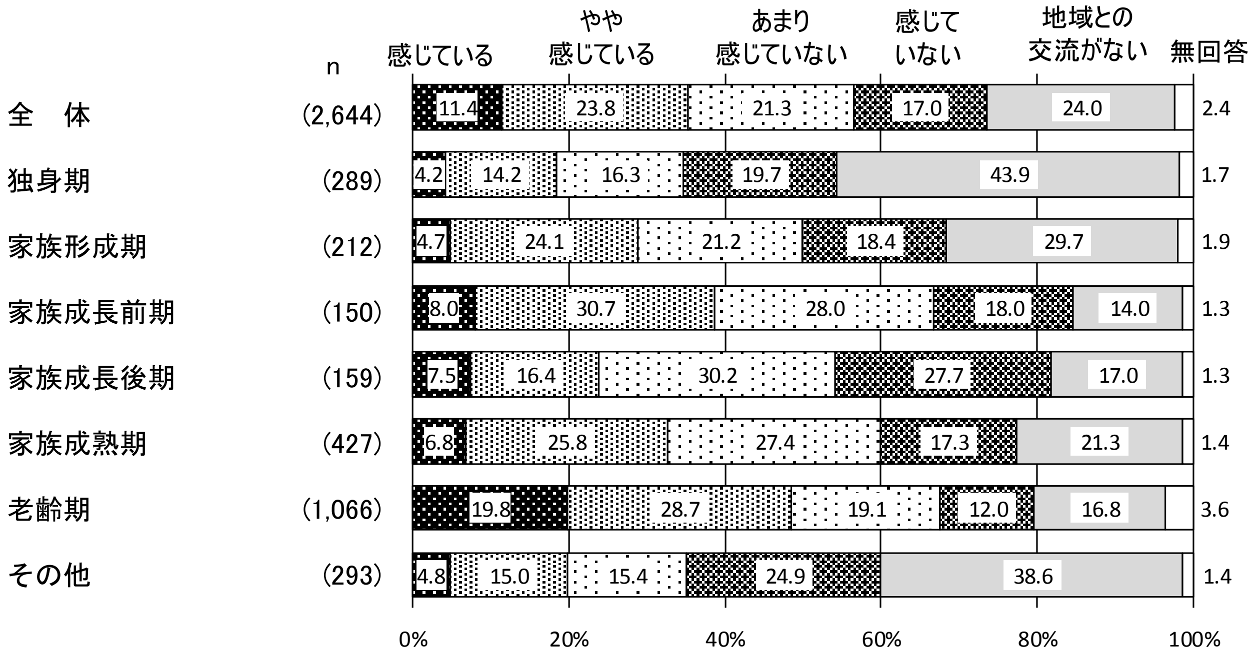
図３－26－３　地域での交流や活動による充実感や生きがいー居住地域別




居住地域別にみると、本庁管内（中央地域）は≪感じている≫（31.3%）が少ない一方で、「地域との交流がない」（27.9%）が多くなっている。一方、元八王子・恩方・川口（西部地域）は「地域との交流がない」（18.8%）が少ない一方で、≪感じていない≫（41.8%）が多くなっている。

（図３－26－３）

図３－26－４　地域での交流や活動による充実感や生きがいーライフステージ別



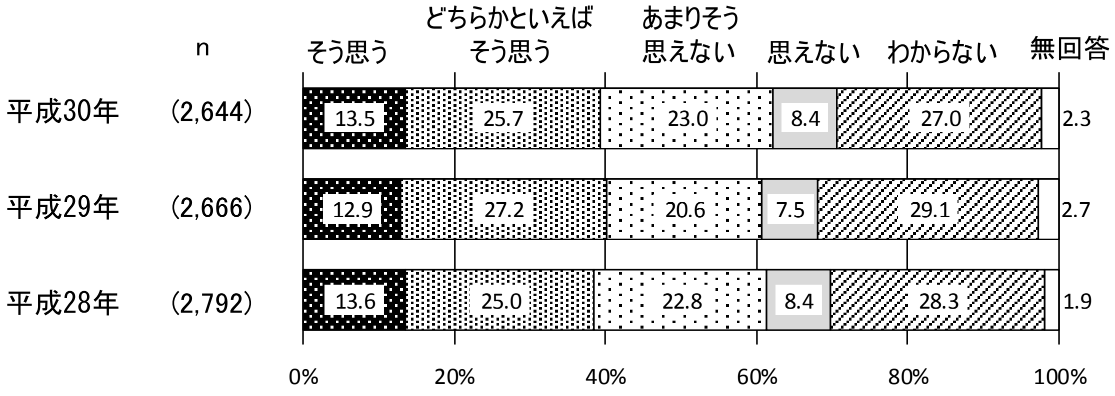

ライフステージ別にみると、≪感じている≫は老齢期（48.5%）で５割近くと多い一方、独身期（18.4%）は２割近くと少なくなっている。「地域との交流がない」は独身期と家族形成期でともに多くなっており、中でも独身期（43.9%）が４割強と特に多くなっている。（図３－26－４）

## （27）地域と子どもたちとのかかわりあい

### *◇≪そう思う≫が４割弱*

問28　あなたのお住まいの地域では、子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思いますか。（○は１つだけ）

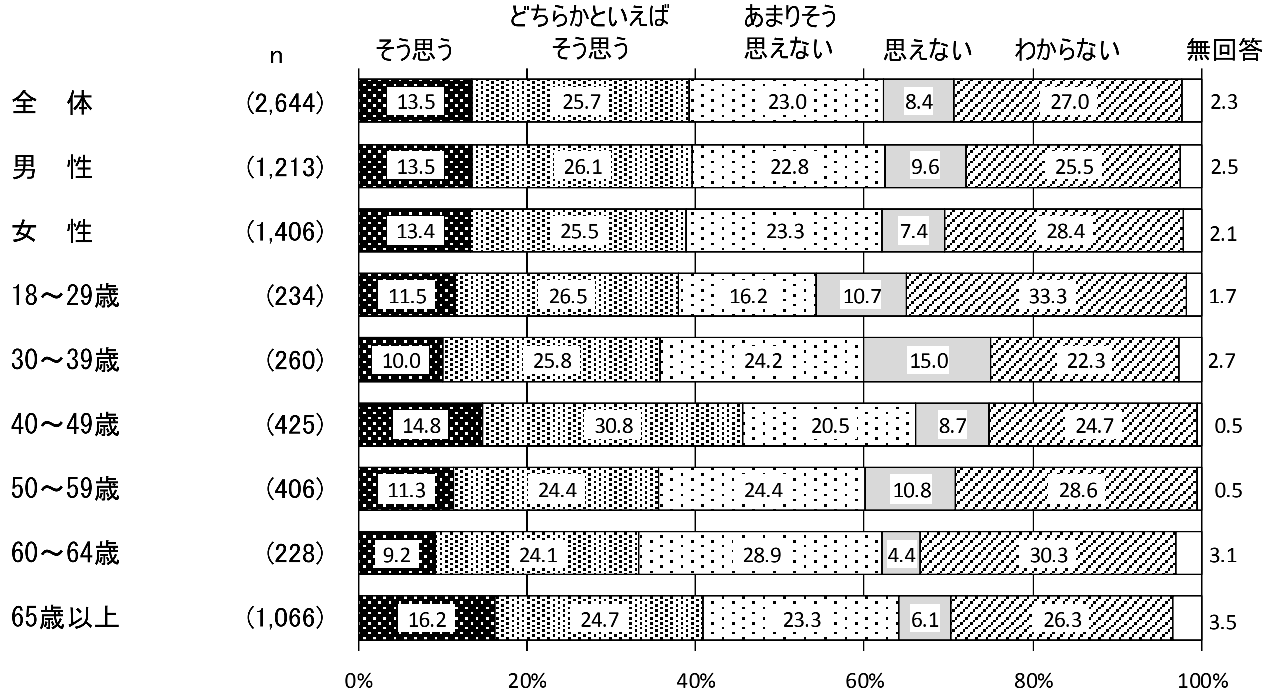
図３－27－１　地域と子どもたちとのかかわりあい－全体、経年比較




子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思うか聞いたところ、「そう思う」（13.5％）と「どちらかといえばそう思う」（25.7％）を合わせた≪そう思う≫（39.2％）が４割弱となっている。一方、「あまりそう思えない」（23.0％）と「思えない」（8.4％）を合わせた≪そう思えない≫（31.4％）は３割強となっている。

前回までの調査と比較すると、≪そう思えない≫が平成29年（28.1％）より3.3ポイント減少しているが、それを除くとこの３年間の回答分布に大きな傾向の違いはみられない。（図３－27－１）

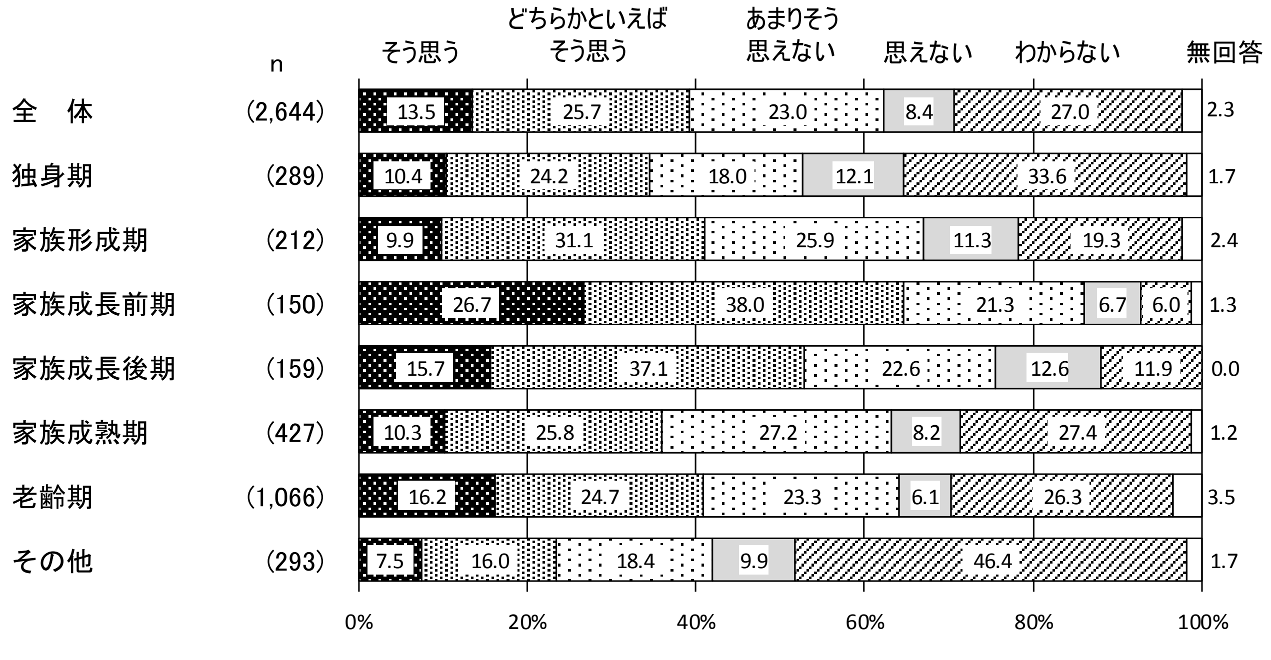
図３－27－２　地域と子どもたちとのかかわりあい－性別、年齢別




性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、≪そう思う≫は40～49歳（45.6％）で４割台半ばと多くなっており、60～64歳（33.3％）で３割強と少なくなっている。（図３－27－２）

図３－27－３　地域と子どもたちとのかかわりあい－ライフステージ別




ライフステージ別にみると、≪そう思う≫は家族成長期（前期・後期）の両層で５割台以上と多くなっているが、特に家族成長前期（64.7％）で６割台半ばとかなり多くなっている。

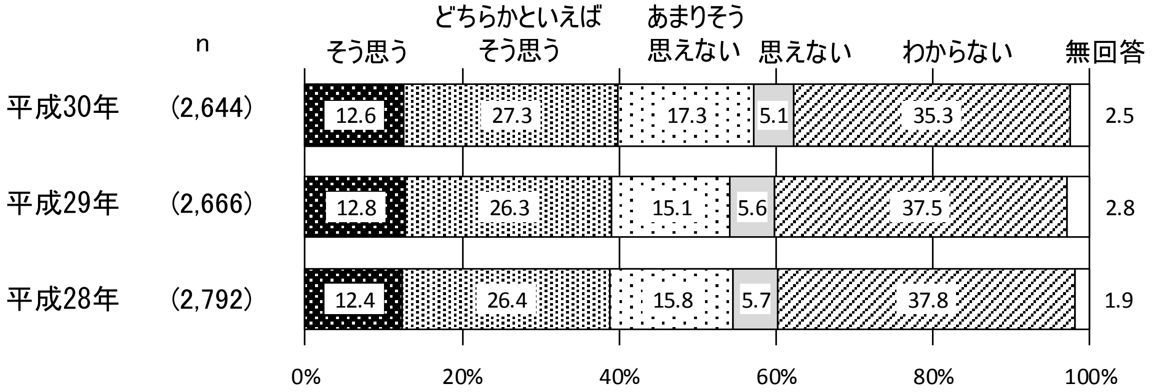
（図３－27－３）

## （28）地域と学校の協力による子どもたちの育み

### ◇≪そう思う≫が４割弱

問29　あなたのお住まいの地域では、地域と学校が、ともに協力し合って子どもたちを育んでいると思いますか。（○は１つだけ）

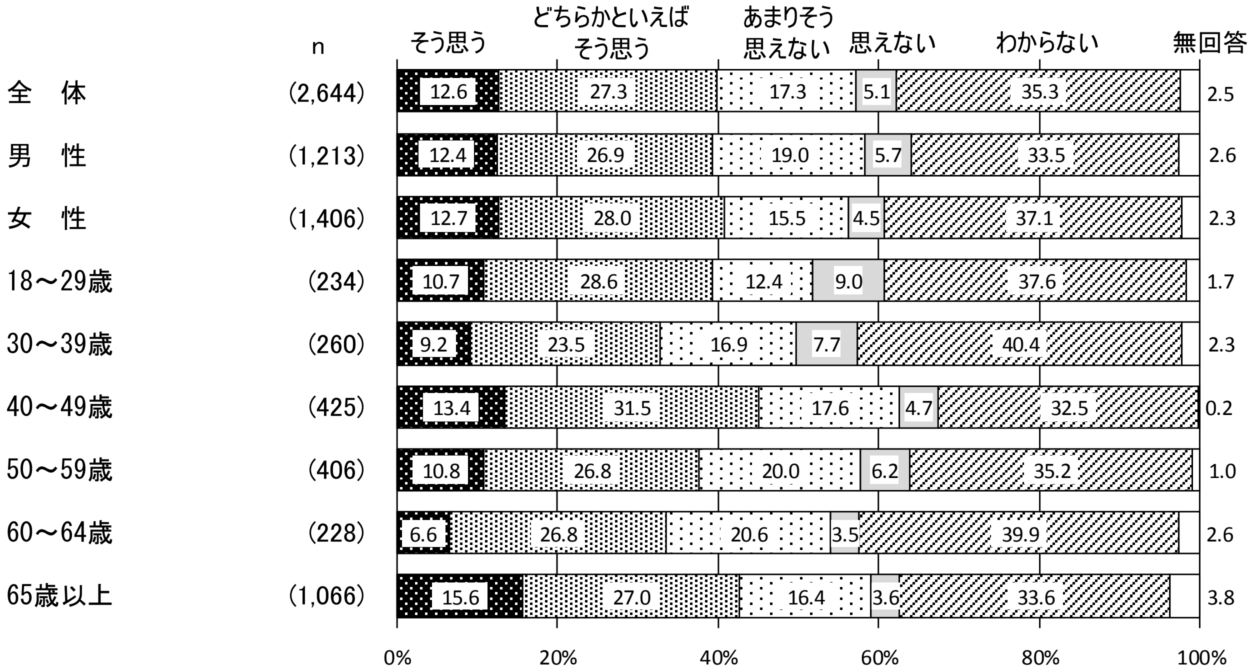
図３－28－１　地域と学校の協力による子どもたちの育み－全体、経年比較




地域と学校が、ともに協力し合って子どもたちを育んでいると思うか聞いたところ、「そう思う」（12.6％）と「どちらかといえばそう思う」（27.3％）を合わせた≪そう思う≫（39.9％）が４割弱となっている。一方、「あまりそう思えない」（17.3％）と「思えない」（5.1％）を合わせた≪そう思えない≫（22.4％）は約２割強となっている。

前回までの調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。（図３－28－１）

### 図３－28－２　地域と学校の協力による子どもたちの育みー性別、年齢別

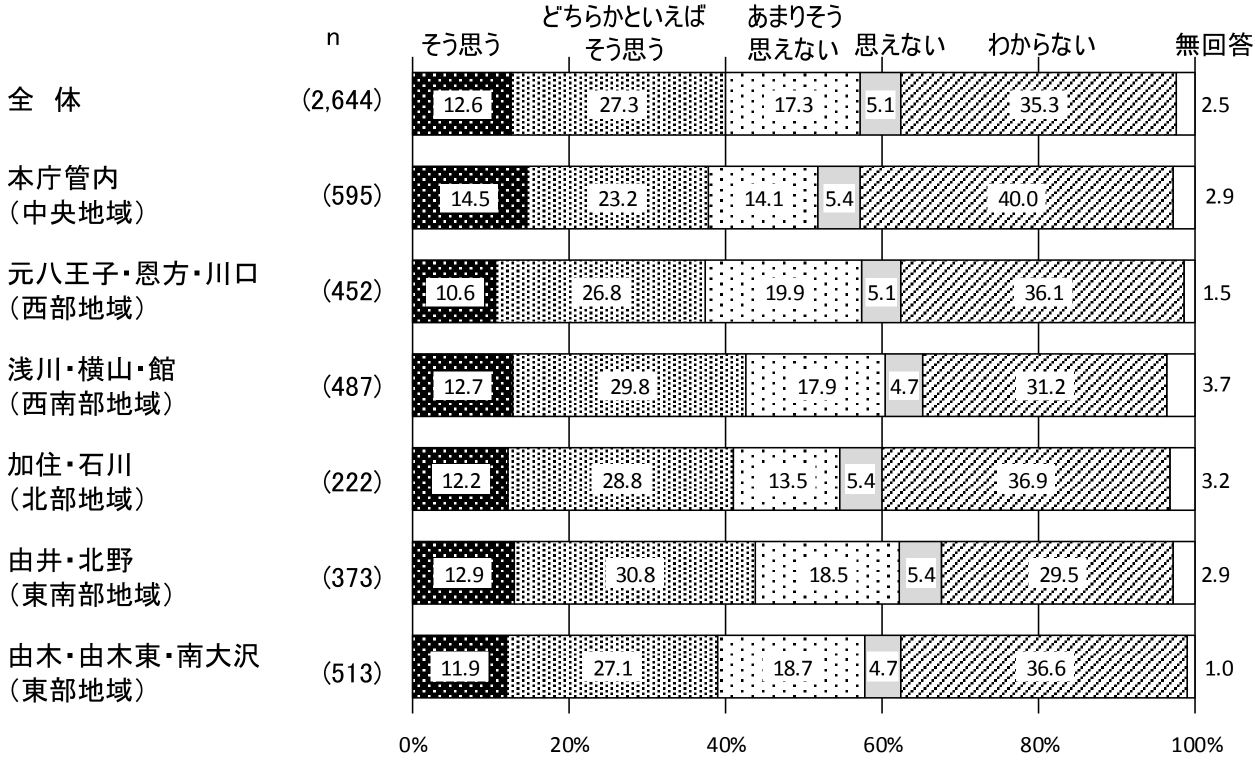



性別にみると、≪そう思えない≫は男性（24.7％）が女性（20.0％）より4.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、≪そう思う≫は40～49歳（44.9％）で４割台半ばと多くなっている。

（図３－28－２）

### 図３－28－３　地域と学校の協力による子どもたちの育みー居住地域別



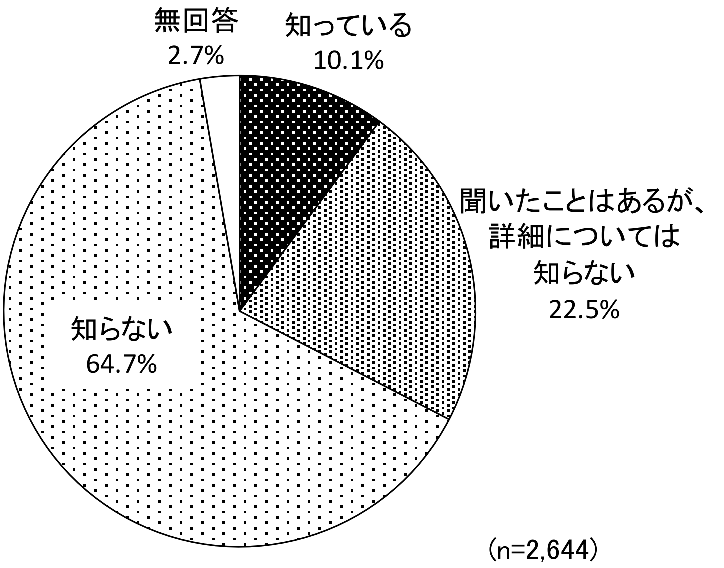

居住地域別にみると、≪そう思う≫は由井・北野（東南部地域）（43.7％）と浅川・横山・館（西南部地域）（42.5％）の両地域でともに４割強と多くなっている。（図３－28－３）

## （29）「地域とともにある学校づくり」の周知度

*◇「知っている」は約１割*

問30　市は、地域住民や保護者などが、合議制の機関である学校運営協議会を通じ一定の権限をもって学校運営に参画することで、「地域とともにある学校づくり」を進めています。あなたは、この取り組みについてご存知ですか。（○は１つだけ）

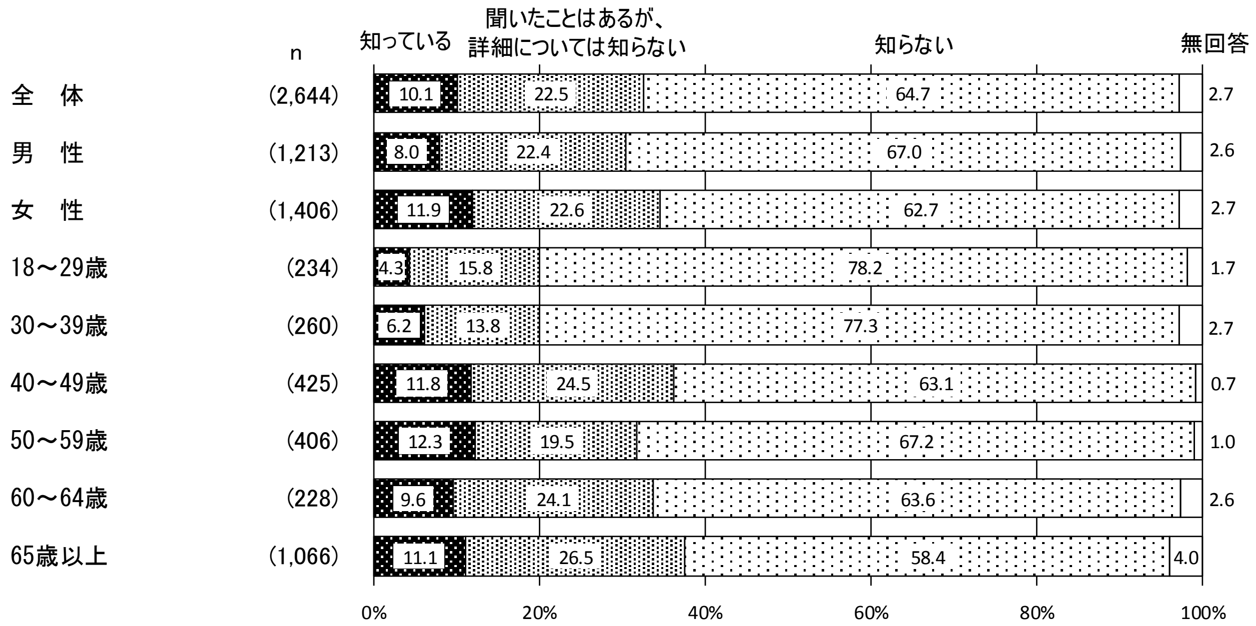
図３－29－１　「地域とともにある学校づくり」の周知度－全体




（注）新規の設問のため、経年比較はない。

市が「地域とともにある学校づくり」を進めていることを知っているか聞いたところ、「知っている」（10.1％）が約１割、「聞いたことはあるが、詳細については知らない」（22.5％）は２割強となっており、「知らない」（64.7％）が６割台半ばを占めている。（図３－29－１）

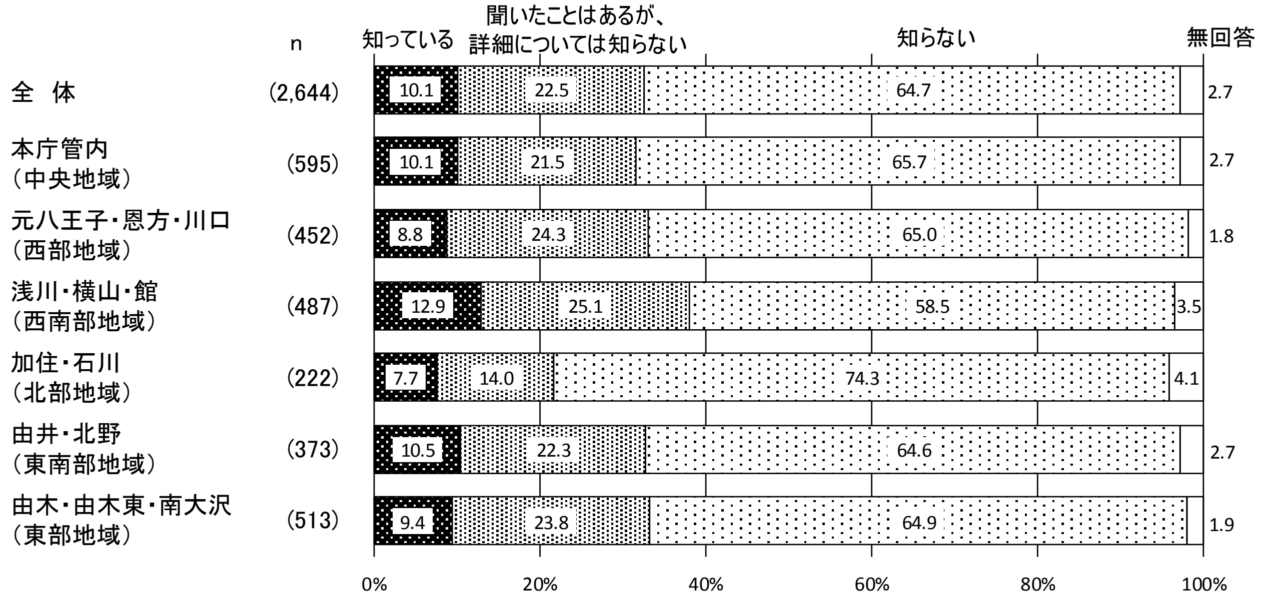
図３－29－２　「地域とともにある学校づくり」の周知度－性別、年齢別




性別にみると、「知っている」は女性（11.9％）が男性（8.0％）より3.9ポイント高くなっており、「知らない」は男性（67.0％）が女性（62.7％）より4.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知らない」は18～29歳（78.2％）と30～39歳（77.3％）でともに８割近くと多くなっている。（図３－29－２）

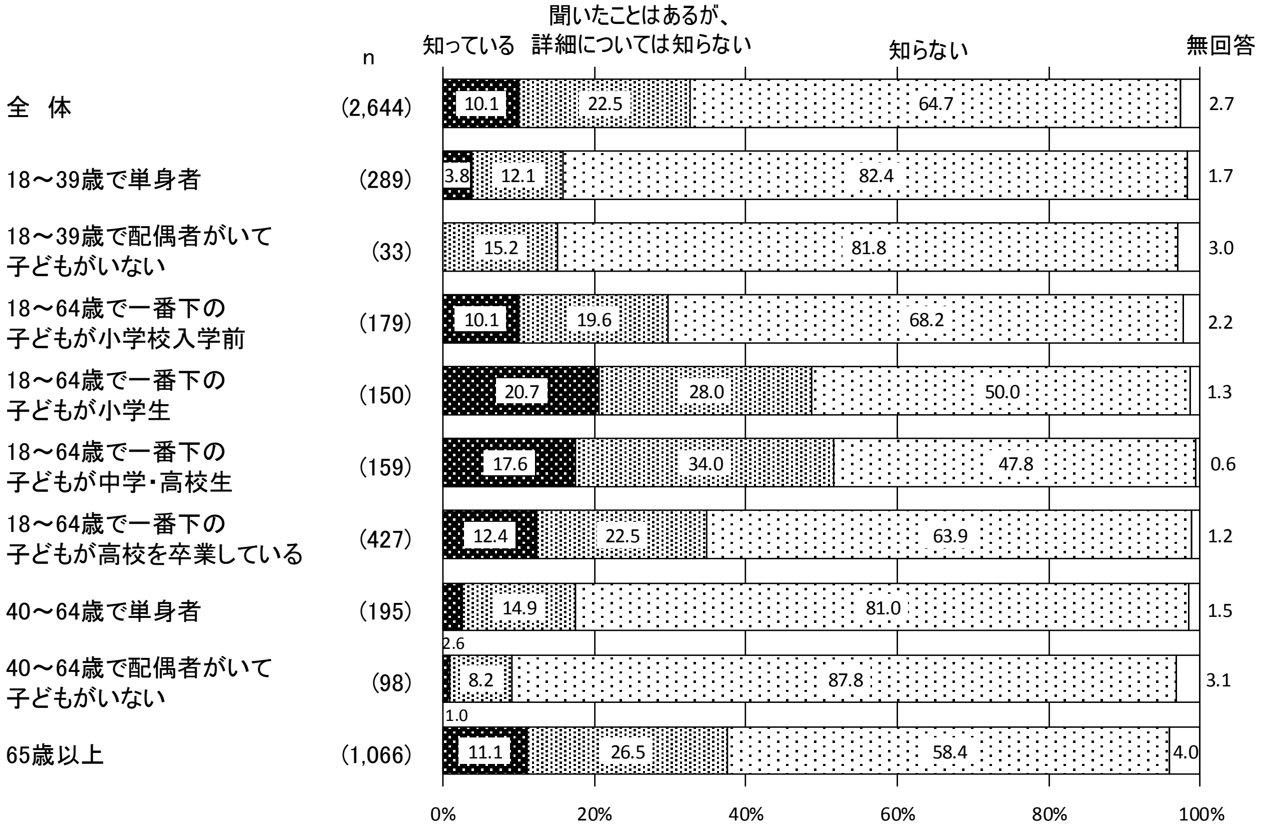
図３－29－３　「地域とともにある学校づくり」の周知度－居住地域別




居住地域別にみると、「知っている」は浅川・横山・館（西南部地域）（12.9％）で１割強と多くなっており、「知らない」は加住・石川（北部地域）（74.3％）で７割台半ばと多くなっている。

（図３－29－３）

図３－29－４　「地域とともにある学校づくり」の周知度－ライフステージ別（９区分）



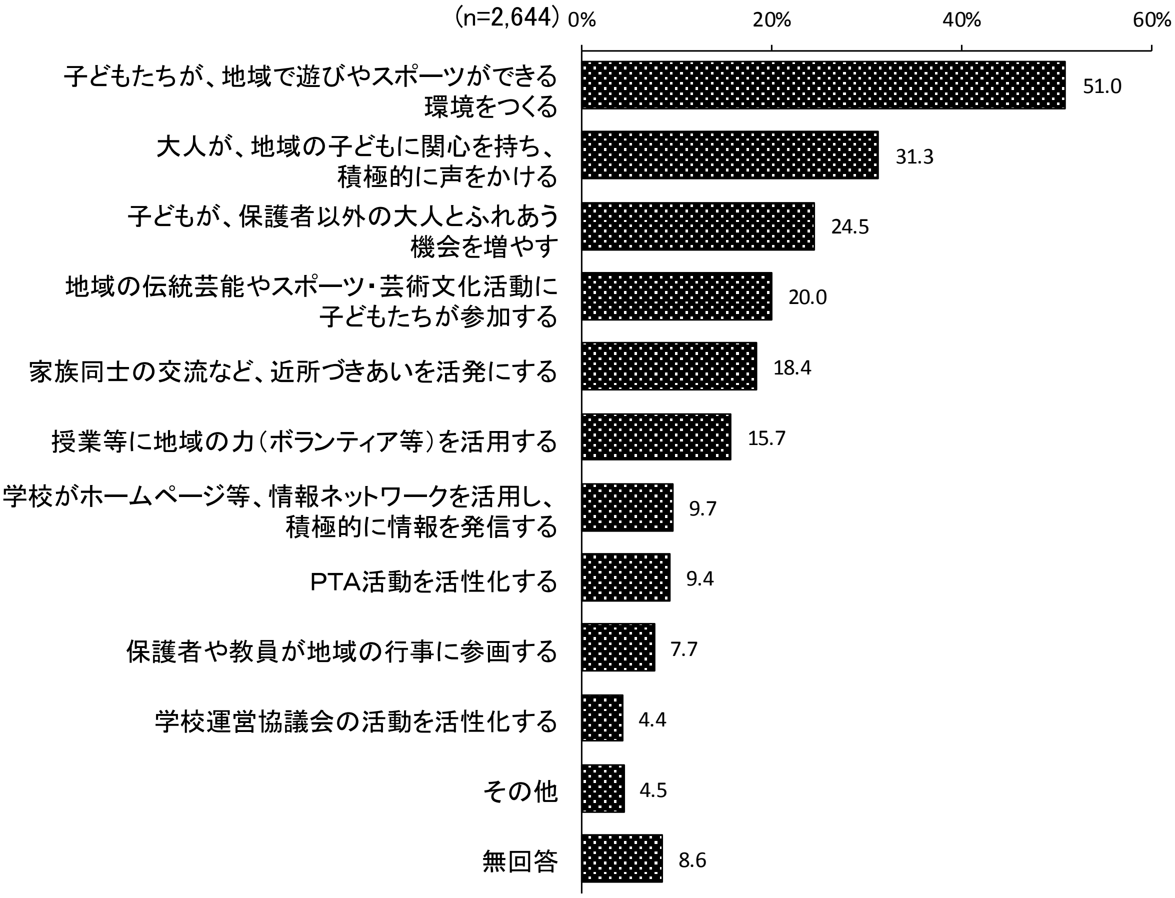

ライフステージ（９区分）別にみると、「知っている」と「聞いたことはあるが、詳細については知らない」は18～64歳で一番下の子どもが小学生～中学・高校生の両層でそれぞれ多くなっており、中でも、「知っている」は18～64歳で一番下の子どもが小学生（20.7％）で約２割、「聞いたことはあるが、詳細については知らない」は18～64歳で一番下の子どもが中学・高校生（34.0％）で３割台半ばとそれぞれ最も多くなっている。一方、「知らない」は単身者と子どもがいない各層で８割台以上と多くなっており、中でも40～64歳で配偶者がいて子どもがいない（87.8％）が９割近くと最も多くなっている。（図３－29－４）

## （30）学校・家庭・地域のつながりを深める上で重要なこと

*◇「子どもたちが、地域で遊びやスポーツができる環境をつくる」が５割強*

問31　あなたは、学校と家庭と地域のそれぞれのつながりを深めるために、どのようなことが重要であると思いますか。（〇は３つまで）

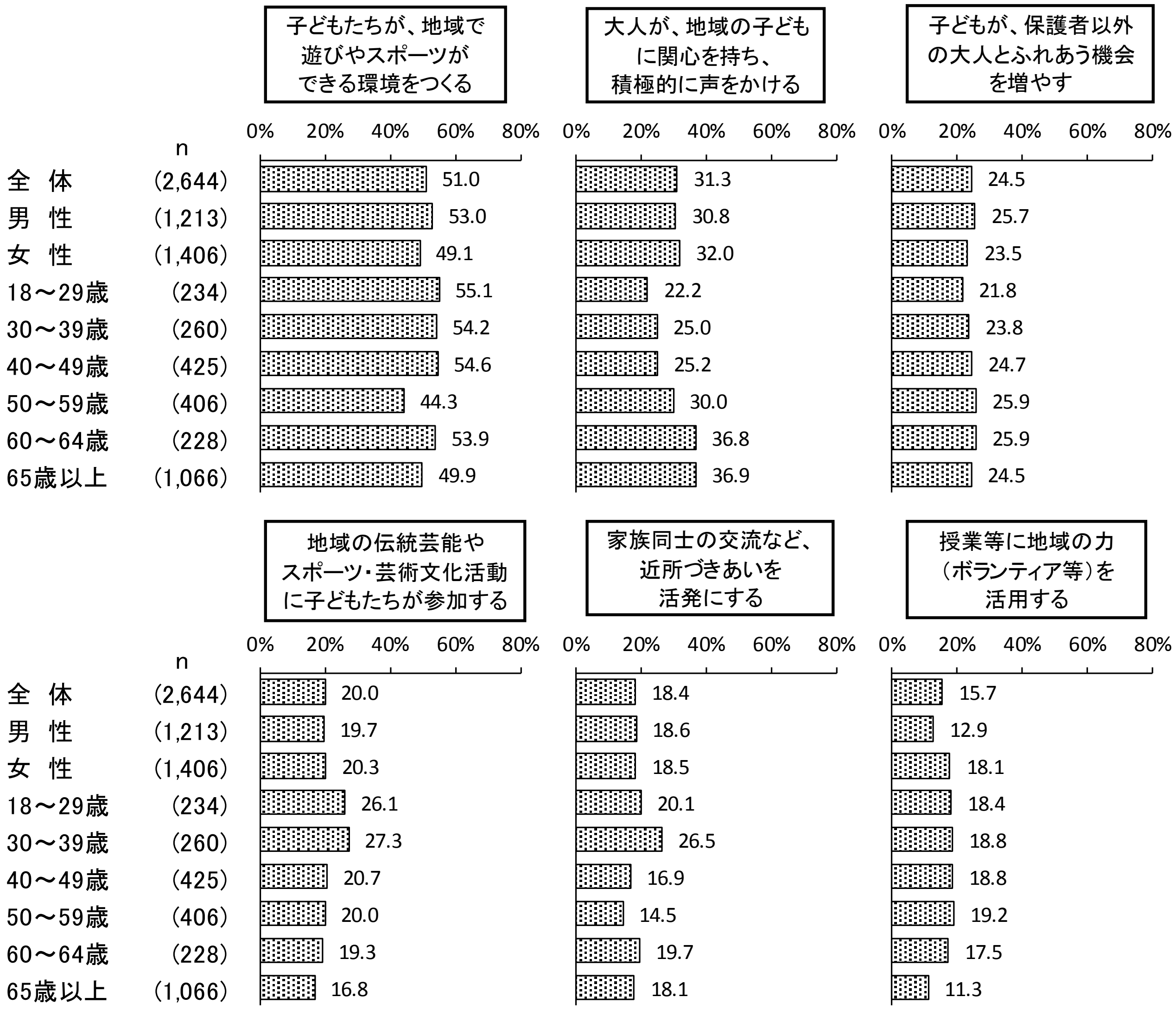
図３－30－１　学校・家庭・地域のつながりを深める上で重要なことー全体




（注）新規の設問のため、経年比較はない。

学校と家庭と地域のそれぞれのつながりを深める上で重要なことを聞いたところ、「子どもたちが、地域で遊びやスポーツができる環境をつくる」（51.0％）が最も多く５割強となっている。２位以下は「大人が、地域の子どもに関心を持ち、積極的に声をかける」（31.3％）、「子どもが、保護者以外の大人とふれあう機会を増やす」（24.5％）、「地域の伝統芸能やスポーツ・芸術文化活動に子どもたちが参加する」（20.0％）などの順となっている。（図３－30－１）

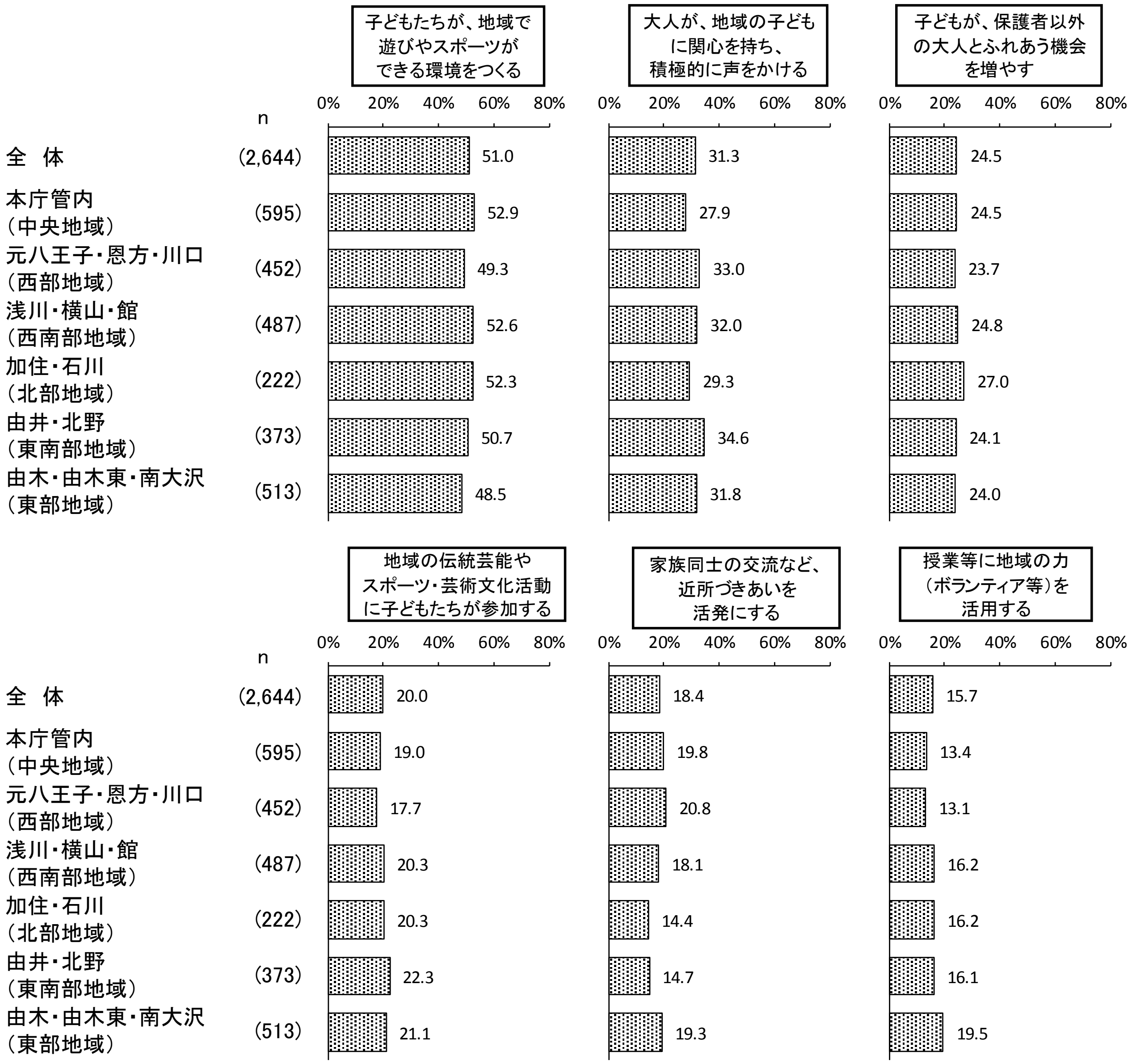
図３－30－２　学校・家庭・地域のつながりを深める上で重要なことー性別、年齢別（上位６位）




性別にみると、「授業等に地域の力（ボランティア等）を活用する」は女性（18.1％）が男性（12.9％）より5.2ポイント高くなっているが、「子どもたちが、地域で遊びやスポーツができる環境をつくる」は男性（53.0％）が女性（49.1％）より3.9ポイント高く、「子どもが、保護者以外の大人とふれあう機会を増やす」も男性（25.7％）が女性（23.5％）より2.2ポイント高くなっている。

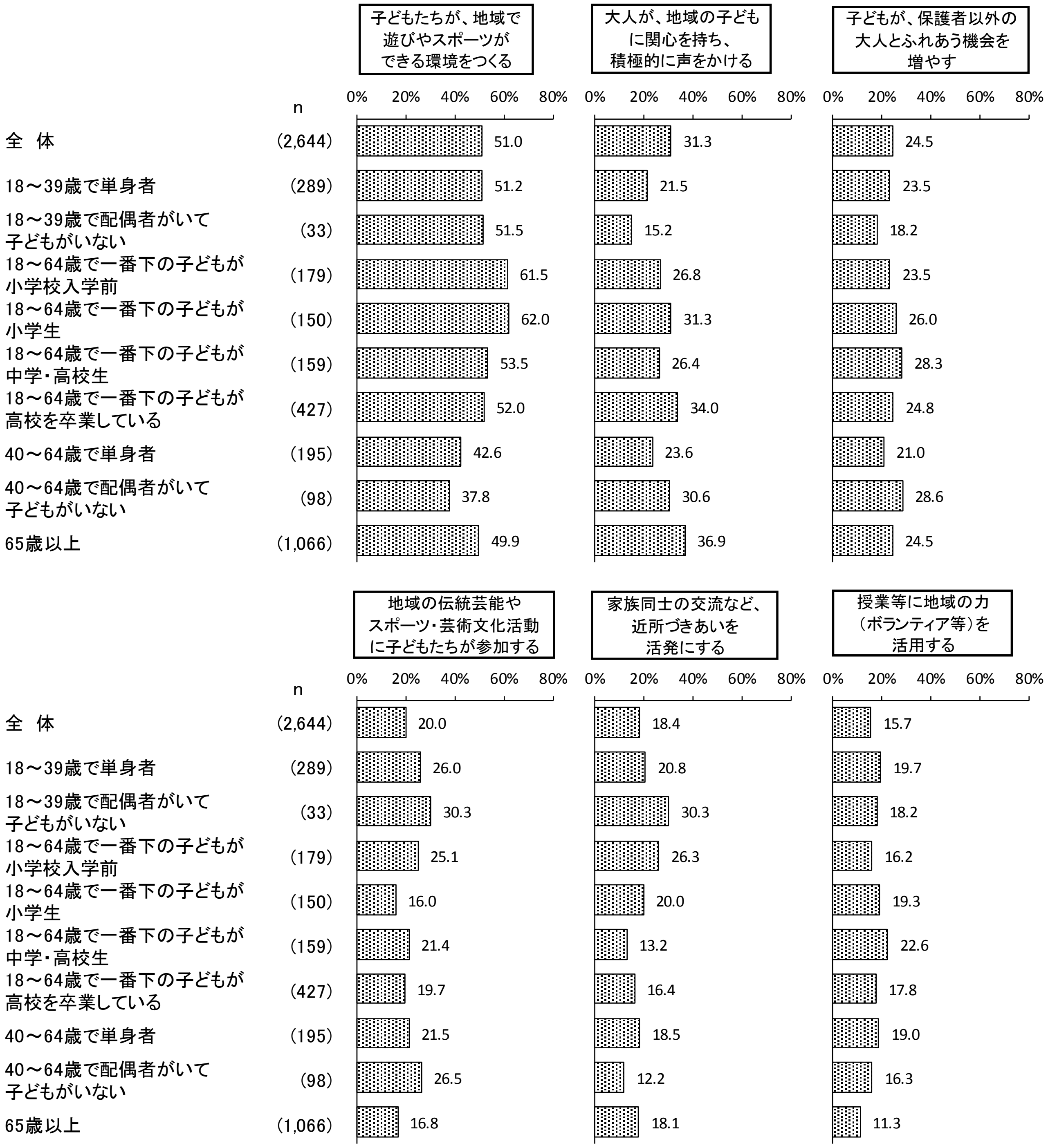
年齢別にみると、「子どもたちが、地域で遊びやスポーツができる環境をつくる」は18～29歳（55.1％）で５割台半ばと多い一方、50～59歳（44.3％）で４割台半ばと少なくなっている。「大人が、地域の子どもに関心を持ち、積極的に声をかける」は高い年代ほど割合も高まる傾向がみられ、65歳以上（36.9％）と60～64歳（36.8％）でともに４割近くと多くなっている。「地域の伝統芸能やスポーツ・芸術文化活動に子どもたちが参加する」は30～39歳（27.3％）と18～29歳（26.1％）でともに３割近くと多く、「家族同士の交流など、近所づきあいを活発にする」は30～39歳（26.5％）で３割近くと多くなっている。（図３－30－２）

図３－30－３　学校・家庭・地域のつながりを深める上で重要なこと－居住地域別（上位６位）




居住地域別にみると、「大人が、地域の子どもに関心を持ち、積極的に声をかける」は由井・北野（東南部地域）（34.6％）で、「子どもが、保護者以外の大人とふれあう機会を増やす」は加住・石川（北部地域）（27.0％）で、「授業等に地域の力（ボランティア等）を活用する」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（19.5％）で、それぞれ多くなっている。（図３－30－３）

## 図３－30－４　学校・家庭・地域のつながりを深める上で重要なこと
## －ライフステージ（９区分）別（上位６位）



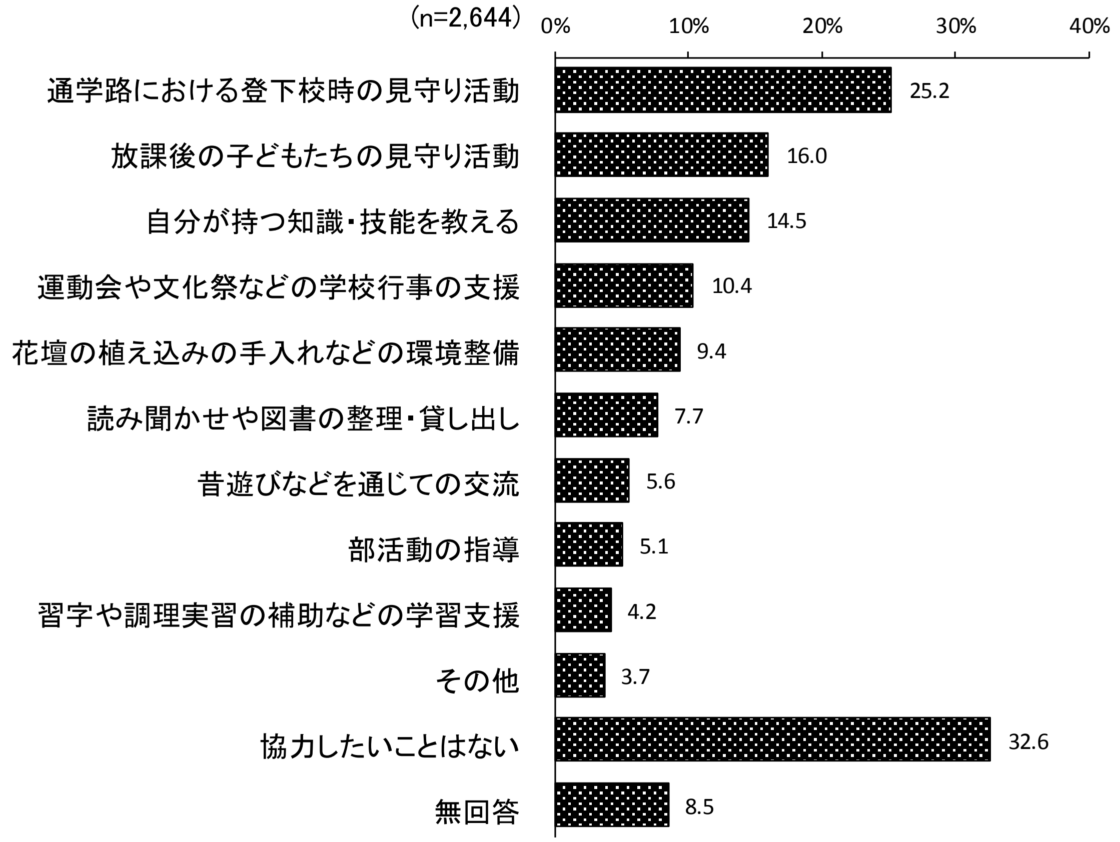

ライフステージ（９区分）別にみると、「子どもたちが、地域で遊びやスポーツができる環境をつくる」は18～64歳で一番下の子どもが小学生（62.0％）と小学校入学前（61.5％）の両層で６割強と多く、「大人が、地域の子どもに関心を持ち、積極的に声をかける」は65歳以上（36.9％）で４割近くと多くなっている。「地域の伝統芸能やスポーツ・芸術文化活動に子どもたちが参加する」と「家族同士の交流など、近所づきあいを活発にする」の２項目は18～39歳で配偶者がいて子どもがいない（両項目とも30.3％）でそれぞれ約３割と多くなっている。（図３－30－４）

## （31）地域の学校に協力してみたい（している）こと

*◇「通学路における登下校時の見守り活動」が２割台半ば*

問32　あなたが、今後地域の学校に対して協力してみたいと思う（現在協力している）ことは、どんなことですか。（○はいくつでも）

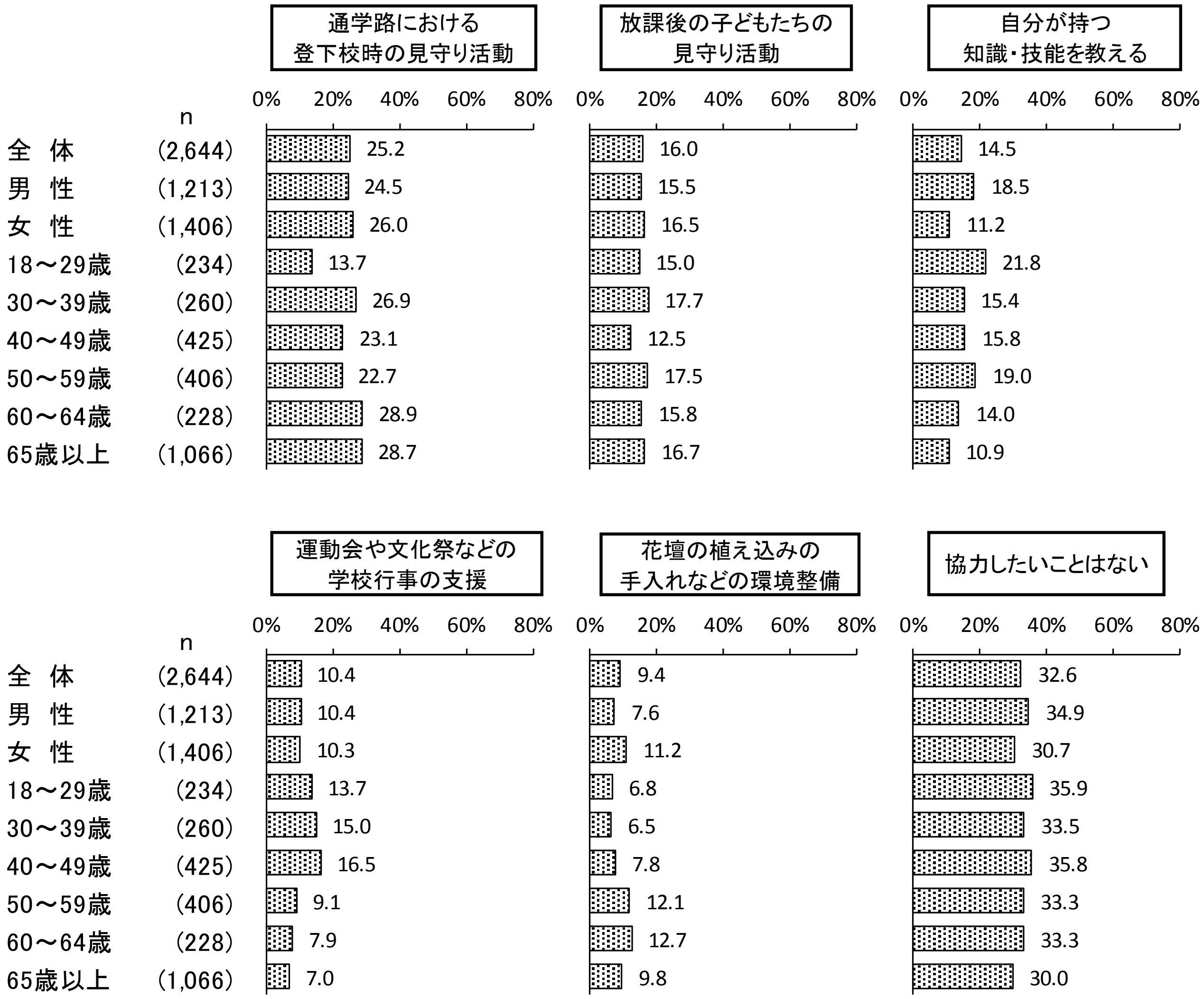
図３－31－１　地域の学校に協力してみたい（している）ことー全体




（注）新規の設問のため、経年比較はない。

今後地域の学校に対して協力してみたいと思う（現在協力している）ことを聞いたところ、「協力したいことはない」（32.6％）が３割強で最も多いものの、それを除くと「通学路における登下校時の見守り活動」（25.2％）が２割台半ばで最も多く、以下「放課後の子どもたちの見守り活動」（16.0％）、「自分が持つ知識・技能を教える」（14.5％）、「運動会や文化祭などの学校行事の支援」（10.4％）などの順となっている。（図３－31－１）

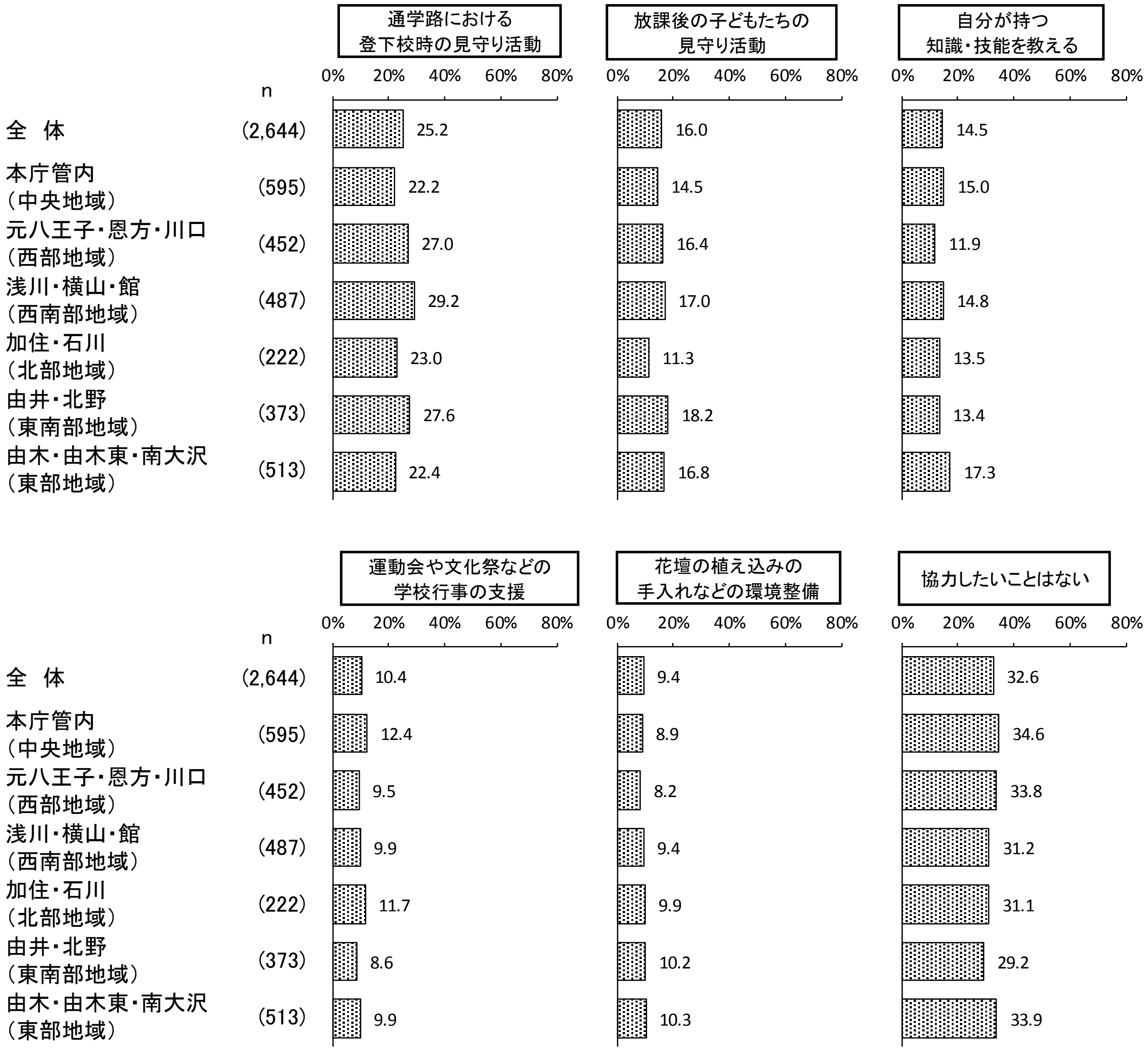
### 図３－31－２　地域の学校に協力してみたい（している）こと－性別、年齢別
### （上位５位＋「協力したいことはない」）




性別にみると、「自分が持つ知識・技能を教える」で男性（18.5%）が女性（11.2%）より7.3ポイント高く、「協力したいことはない」も男性（34.9%）が女性（30.7%）より4.2ポイント高くなっているが、「花壇の植え込みの手入れなどの環境整備」は女性（11.2%）が男性（7.6%）より3.6ポイント高くなっている。

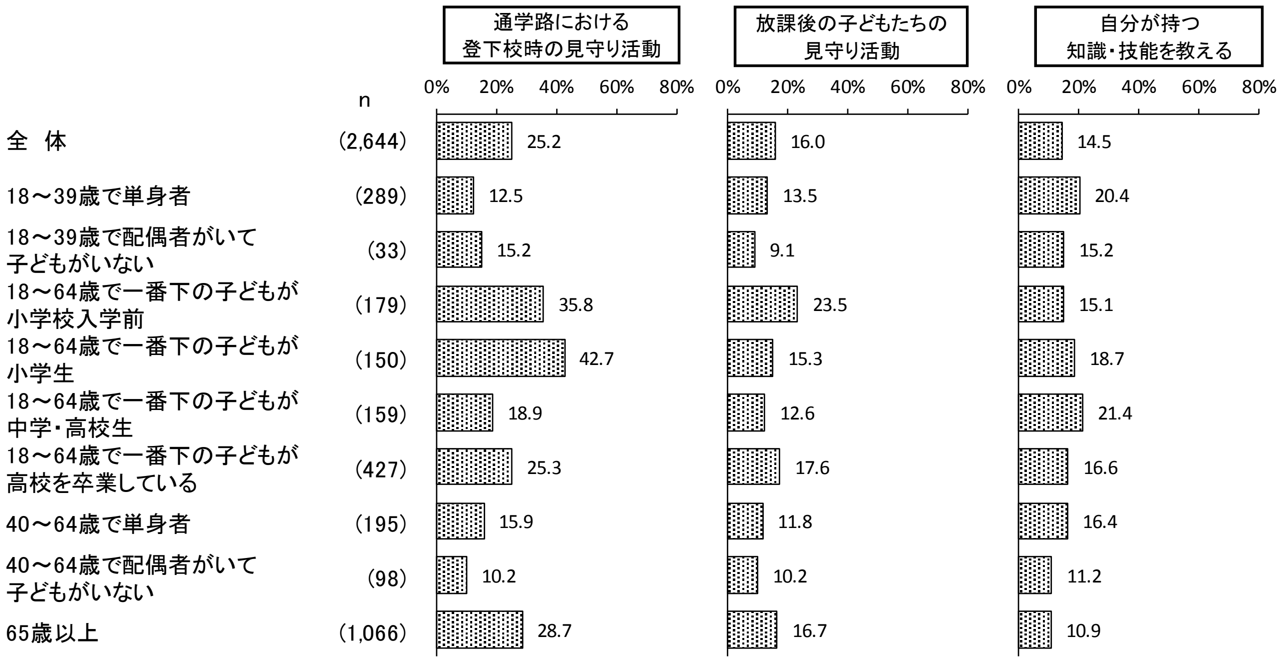
年齢別にみると、18～29歳は「通学路における登下校時の見守り活動」（13.7%）で１割強と少ない一方、「自分が持つ知識・技能を教える」（21.8%）で２割強と多くなっている。「運動会や文化祭などの学校行事の支援」は40歳代以下で１割強以上と多くなっており、その中でも40～49歳（16.5%）で２割近くと最も多くなっている。（図３－31－２）

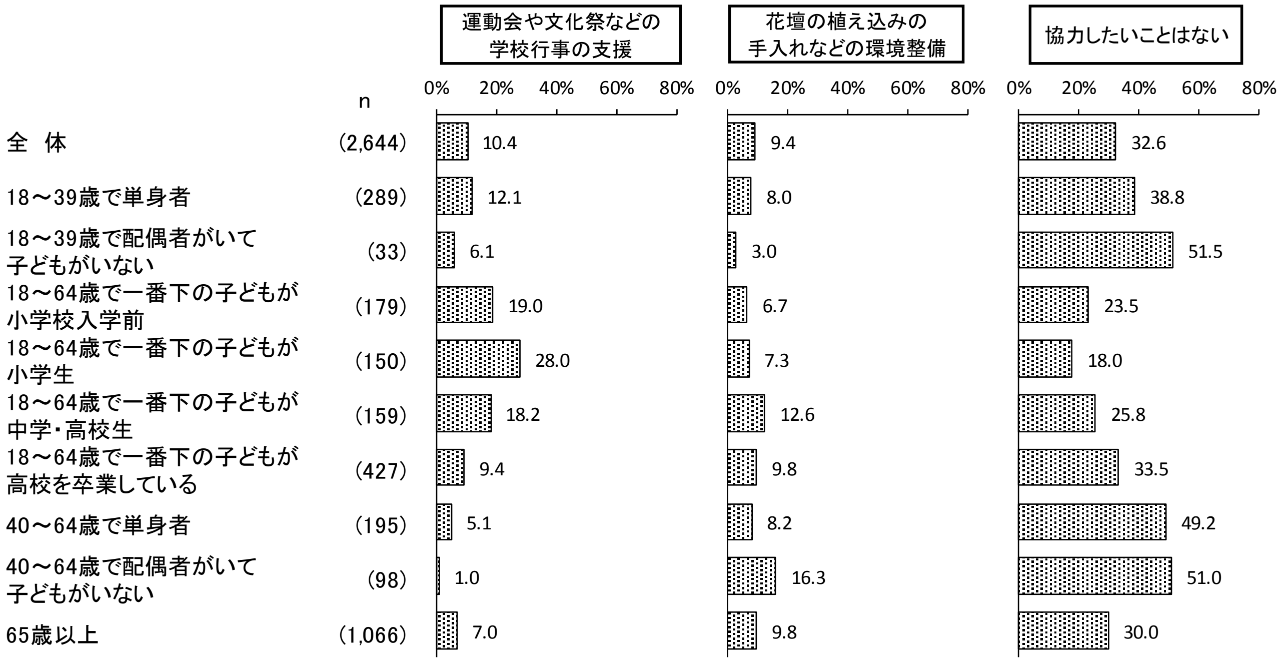
図３－31－３　地域の学校に協力してみたい（している）こと－居住地域別
（上位５位＋「協力したいことはない」）




居住地域別にみると、「通学路における登下校時の見守り活動」は浅川・横山・館（西南部地域）（29.2%）で多くなっており、「協力したいことはない」は由井・北野（東南部地域）（29.2%）で少なくなっている。（図３－31－３）

図３－31－４　地域の学校に協力してみたい（している）ことーライフステージ（９区分）別
（上位５位＋「協力したいことはない」）




ライフステージ（９区分）別にみると、「通学路における登下校時の見守り活動」は18～64歳で一番下の子どもが小学校入学前と小学生の両層で多く、中でも小学生（42.7％）で４割強と多くなっている。「運動会や文化祭などの学校行事の支援」は18～64歳で一番下の子どもが小学校入学前から中学・高校生で多く、中でも小学生（28.0％）で３割近くと最も多くなっている。（図３－31－４）

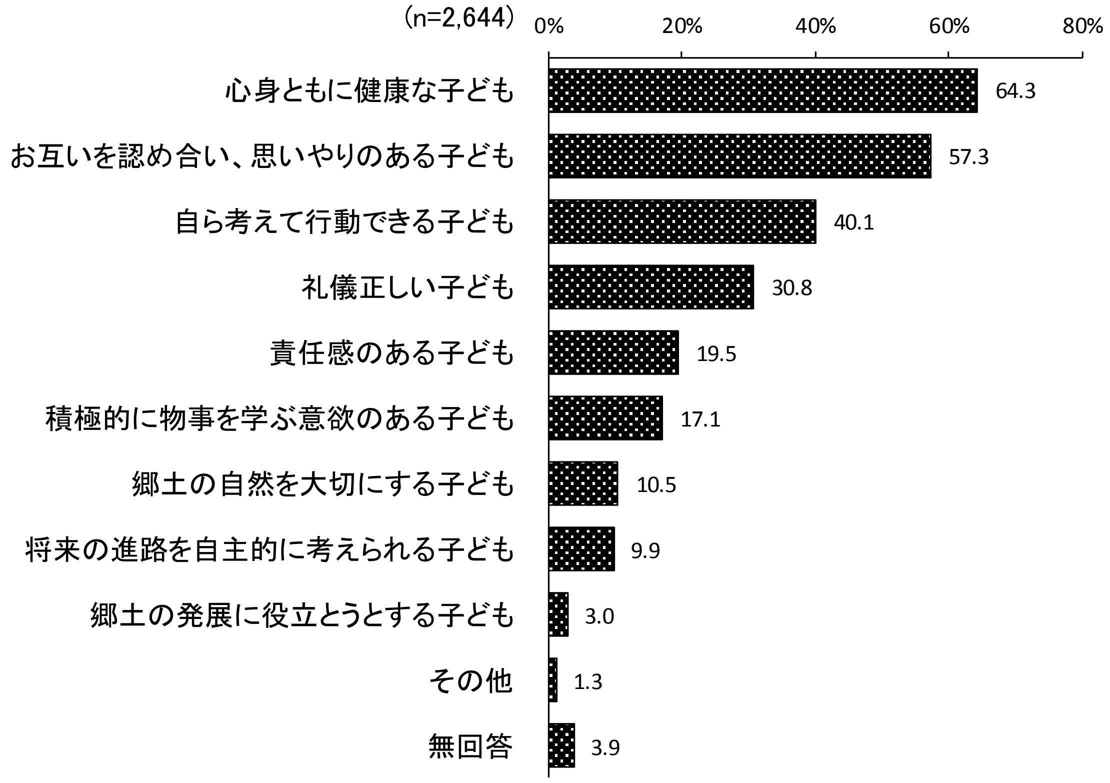
## （32）八王子の子どもに望む育ち方

### ◇「心身ともに健康な子ども」が６割台半ば

問33　あなたは、八王子の子どもたちがどのような子どもに育ってほしいと思いますか。

（〇は３つまで）

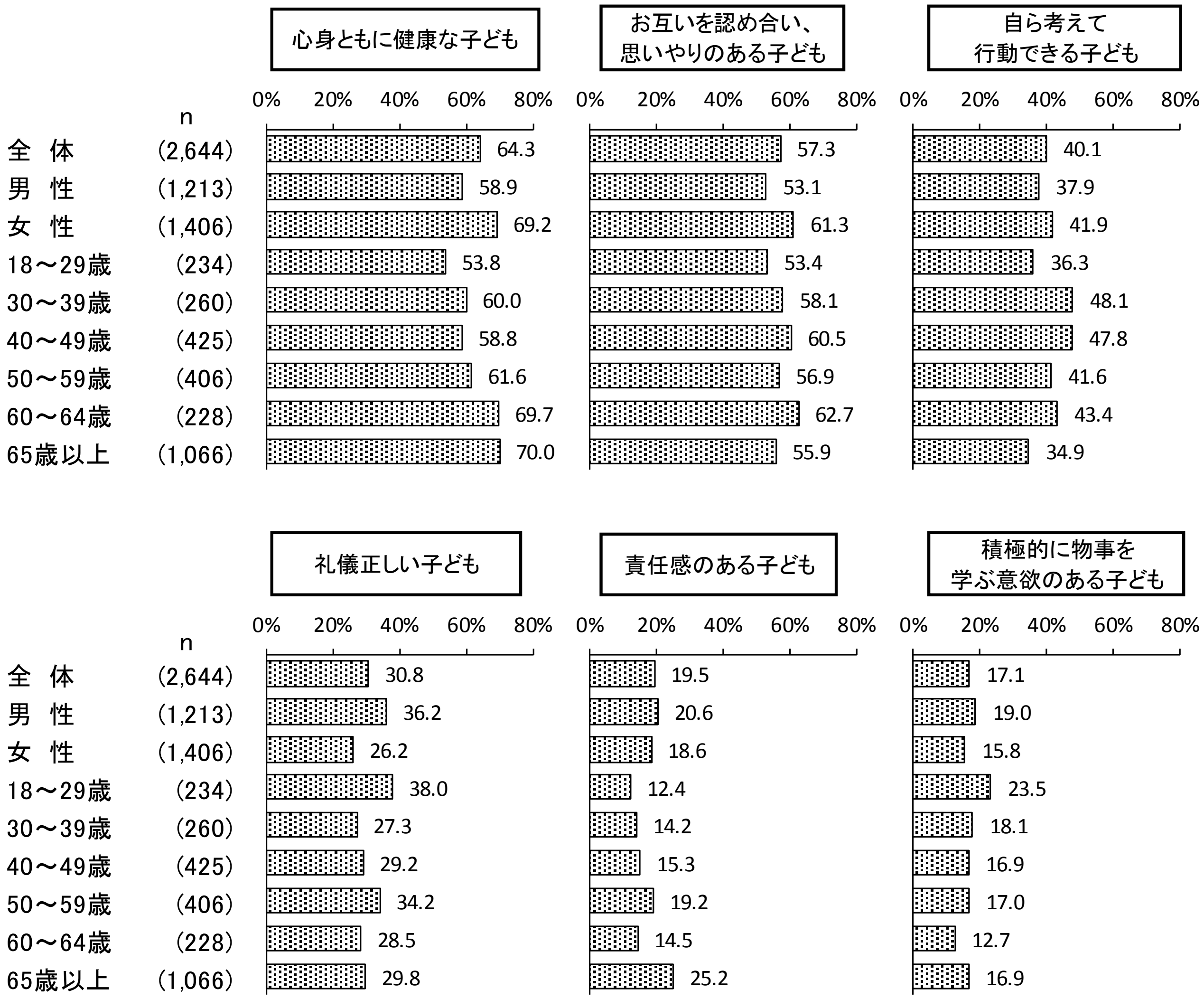
図３－32－１　八王子の子どもに望む育ち方－全体




（注）新規の設問のため、経年比較はない。

八王子の子どもたちがどのような子どもに育ってほしいと思うか聞いたところ、「心身ともに健康な子ども」（64.3％）が６割台半ばで最も多くなっている。次いで「お互いを認め合い、思いやりのある子ども」（57.3％）が６割近くで続き、以下「自ら考えて行動できる子ども」（40.1％）、「礼儀正しい子ども」（30.8％）などの順となっている。（図３－32－１）

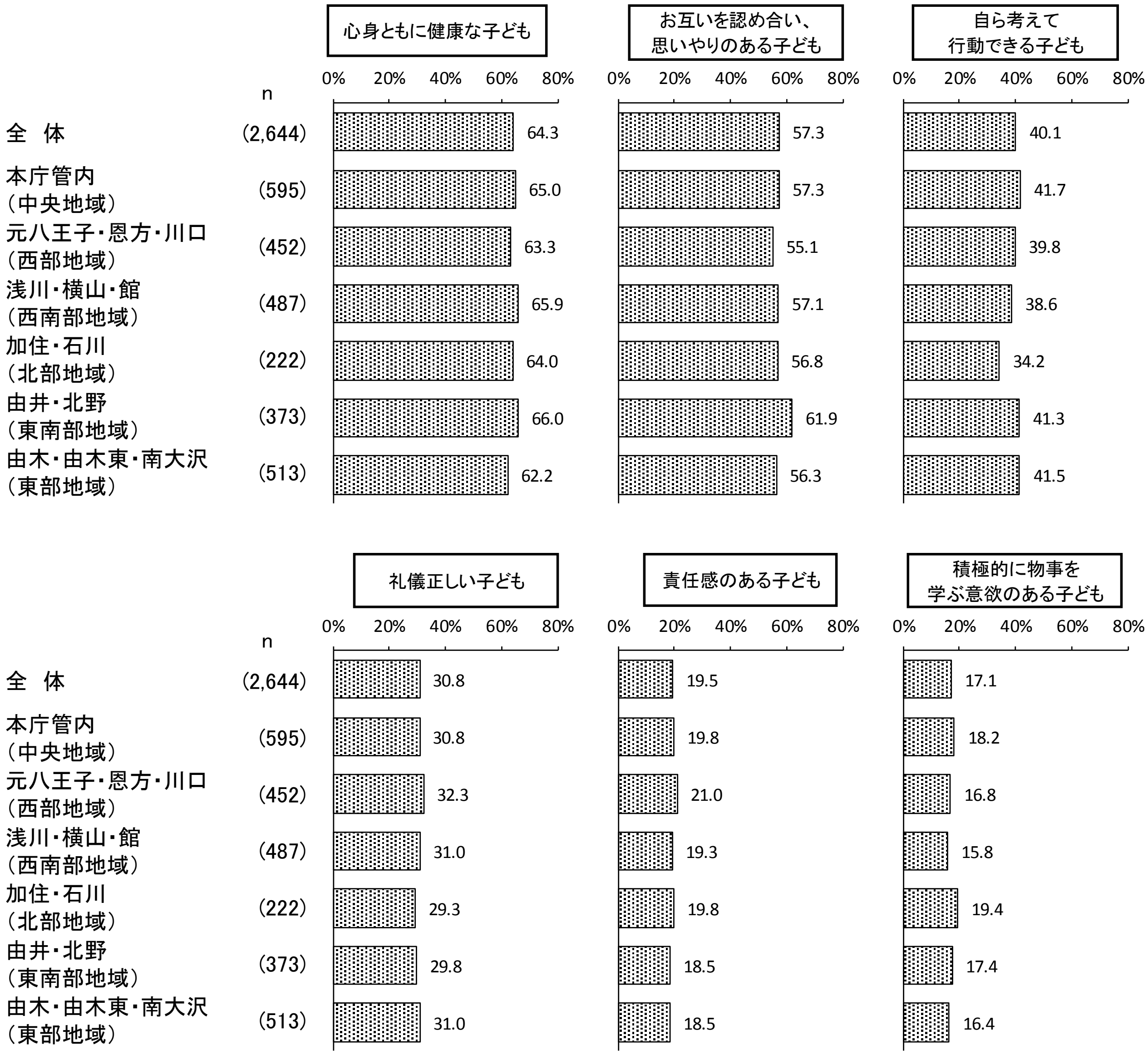
図３－32－２　八王子の子どもに望む育ち方－性別、年齢別（上位６位）




性別にみると、「心身ともに健康な子ども」は女性（69.2％）が男性（58.9％）より10.3ポイント高く、「お互いを認め合い、思いやりのある子ども」も女性（61.3％）が男性（53.1％）より8.2ポイント高くなっている。一方、「礼儀正しい子ども」は男性（36.2％）が女性（26.2％）より10.0ポイント高く、「積極的に物事を学ぶ意欲のある子ども」も男性（19.0％）が女性（15.8％）より3.2ポイント高くなっている。

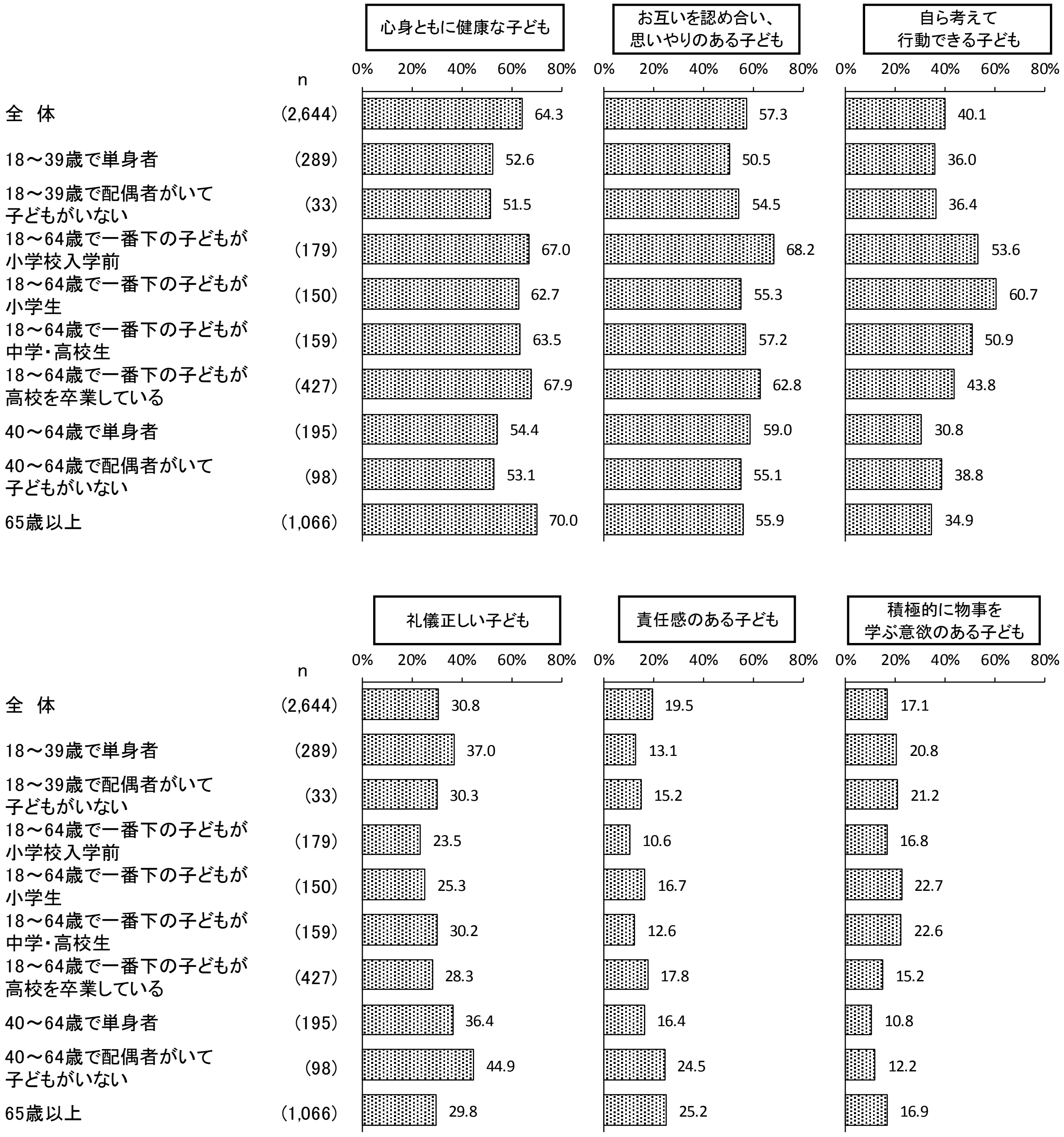
年齢別にみると、「心身ともに健康な子ども」は60～64歳（69.7％）と65歳以上（70.0％）の両層で７割弱～７割と多く、「自ら考えて行動できる子ども」は30～39歳（48.1％）と40～49歳（47.8％）の両層でともに５割近くと多くなっている。「礼儀正しい子ども」は18～29歳（38.0％）で４割近くと多く、「積極的に物事を学ぶ意欲のある子ども」も18～29歳（23.5％）で２割強と多くなっている。（図３－32－２）

図３－32－３　八王子の子どもに望む育ち方－居住地域別（上位６位）




居住地域別にみると、「お互いを認め合い、思いやりのある子ども」が由井・北野（東南部地域）（61.9%）で多くなっており、「自ら考えて行動できる子ども」が加住・石川（北部地域）（34.2%）で３割台半ばと少なくなっているのを除くと、大きな傾向の違いはみられない。（図３－32－３）

### 図３－32－４　八王子の子どもに望む育ち方－ライフステージ（９区分）別（上位６位）



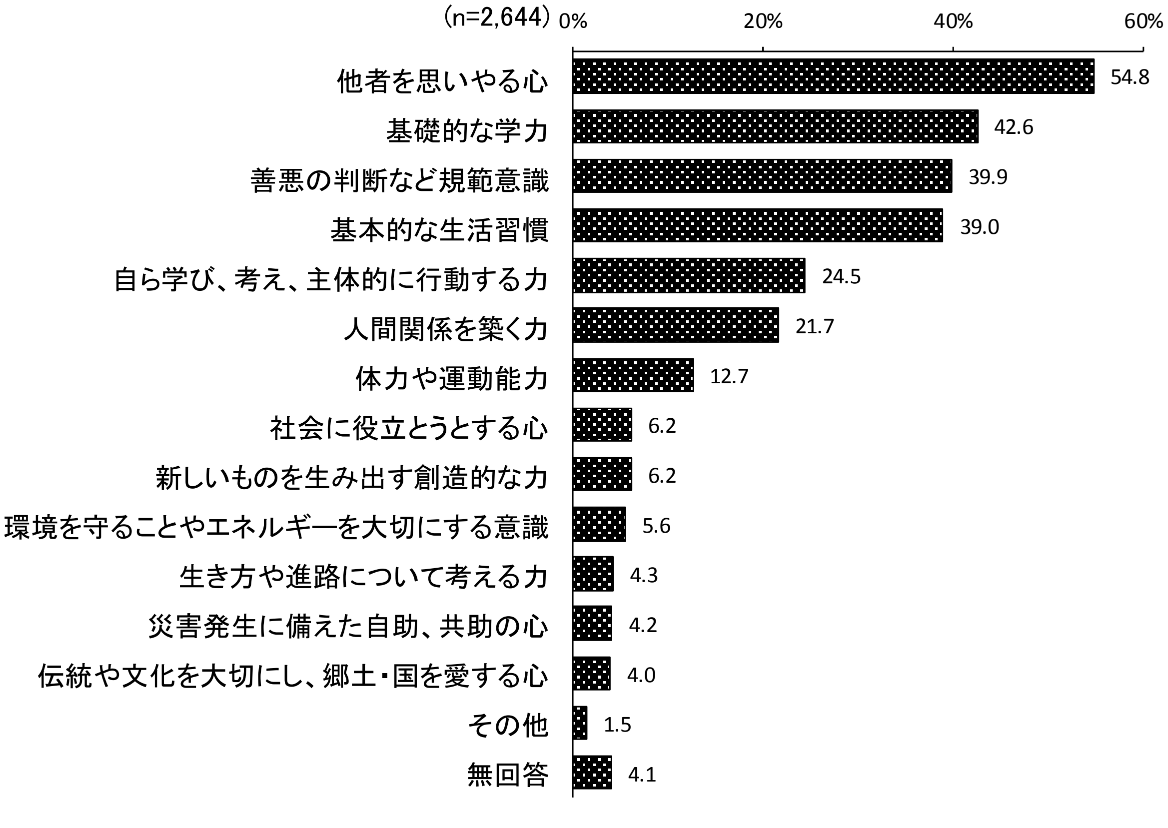

ライフステージ（９区分）別にみると、「心身ともに健康な子ども」は65歳以上（70.0％）で７割と多くなっている一方、単身者と子どものいない各層（51.5％～54.4％）ではそれぞれ５割台前半と少なくなっている。「お互いを認め合い、思いやりのある子ども」は18～64歳で一番下の子どもが小学校入学前（68.2％）で７割近くと多く、「自ら考えて行動できる子ども」は18～64歳で一番下の子どもが小学校入学前～中学・高校生で多く、中でも18～64歳で一番下の子どもが小学生（60.7％）で約６割と最も多くなっている。「礼儀正しい子ども」は40～64歳で配偶者がいて子どもがいない（44.9％）で４割台半ばと多くなっている。（図３－32－４）

## （33）小学生に必要な教育

*◇「他者を思いやる心」が５割台半ば*

問34　あなたは、小学生にどのようなことを身につけさせる教育が必要であると思いますか。
（〇は３つまで）

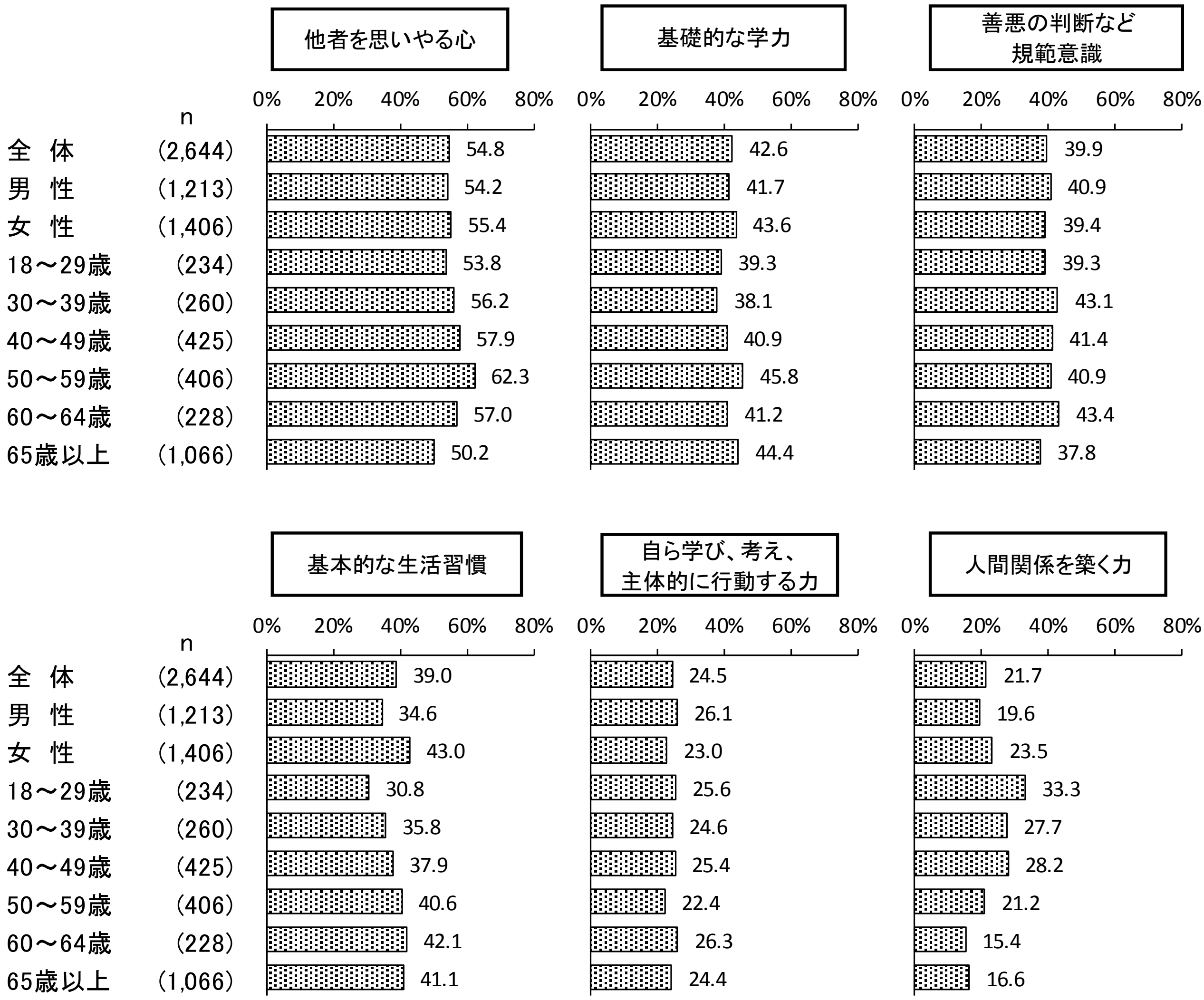
図３－33－１　小学生に必要な教育－全体




（注）新規の設問のため、経年比較はない。

小学生にどのようなことを身につけさせる教育が必要と思うか聞いたところ、「他者を思いやる心」（54.8％）が５割台半ばで最も多くなっている。これに「基礎的な学力」（42.6％）、「善悪の判断など規範意識」（39.9％）、「基本的な生活習慣」（39.0％）の３項目が４割前後で並んで続き、以下「自ら学び、考え、主体的に行動する力」（24.5％）、「人間関係を築く力」（21.7％）などの順となっている。（図３－33－１）

図３－33－２　小学生に必要な教育－性別、年齢別（上位６位）

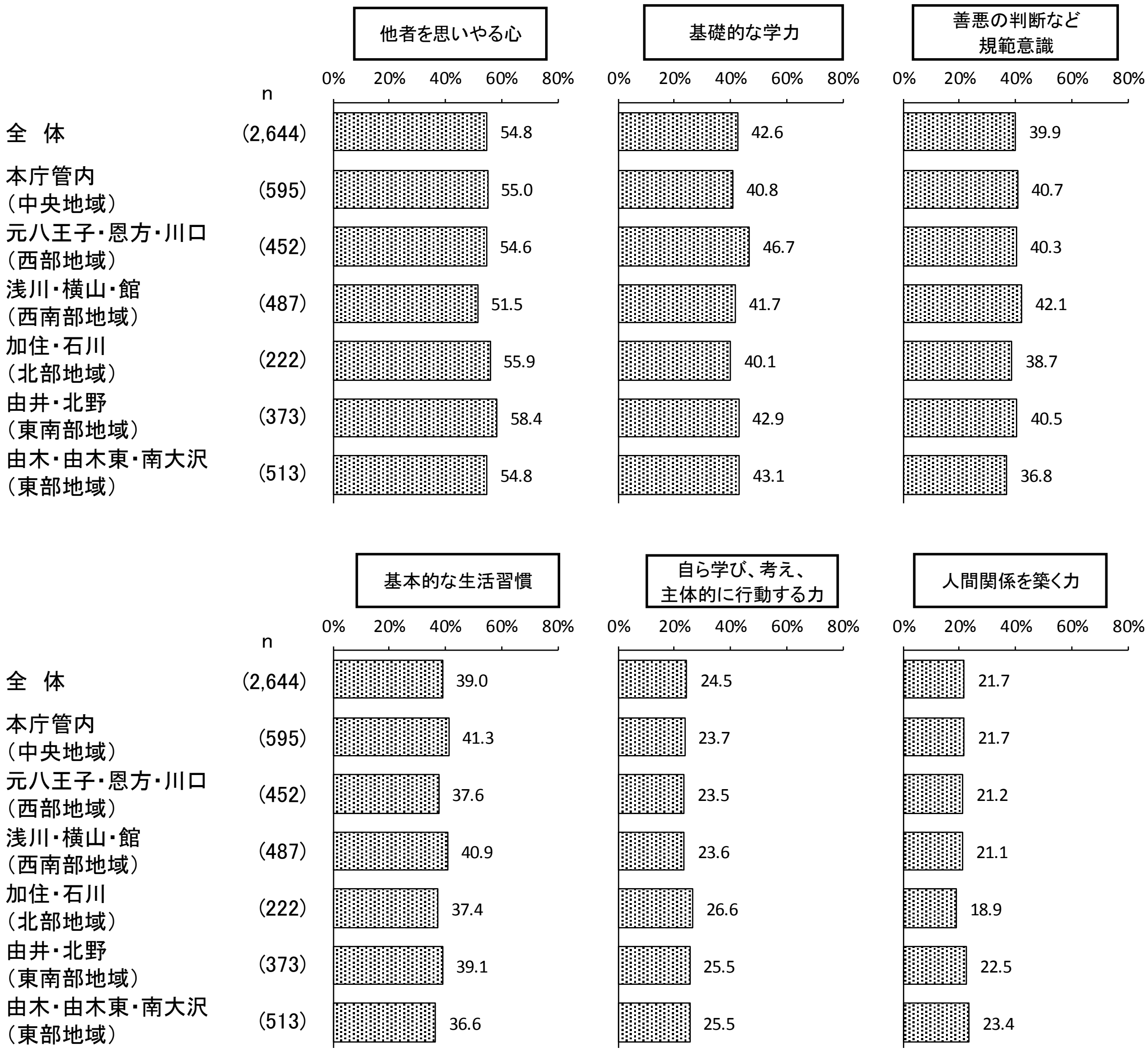



性別にみると、「基本的な生活習慣」で女性（43.0%）が男性（34.6%）より8.4ポイント高く、「人間関係を築く力」も女性（23.5%）が男性（19.6%）より3.9ポイント高くなっているが、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」は男性（26.1%）が女性（23.0%）より3.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「他者を思いやる心」は50～59歳（62.3%）で６割強と多く、65歳以上（50.2%）で少なくなっている。「人間関係を築く力」は18～29歳（33.3%）で３割強と多くなっている一方で、60～64歳（15.4%）と65歳以上（16.6%）の両層で１割台と少なくなっている。

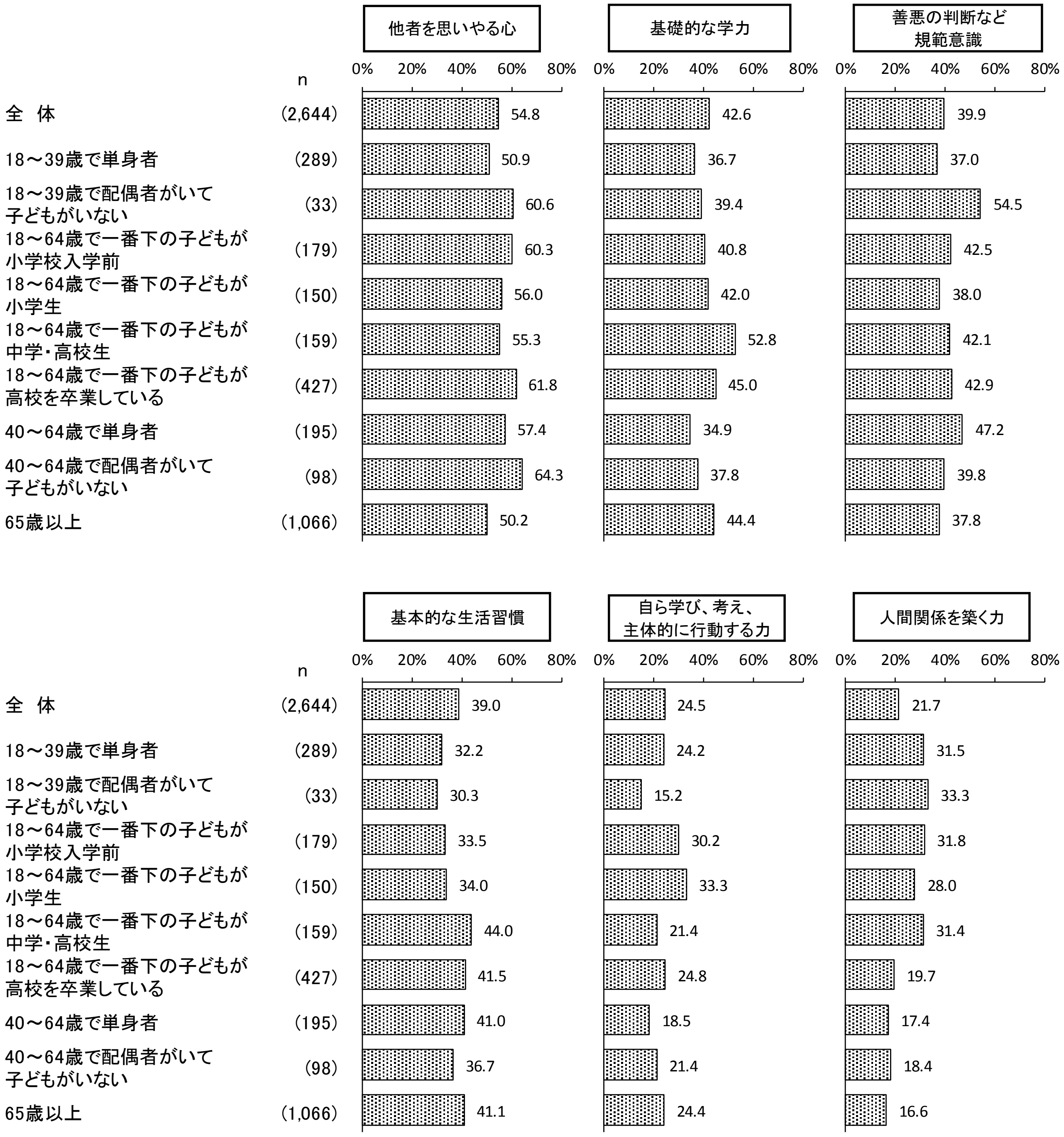
（図３－33－２）

図３－33－３　小学生に必要な教育－居住地域別（上位６位）




居住地域別にみると、「他者を思いやる心」は由井・北野（東南部地域）（58.4％）で多く、「基礎的な学力」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（46.7％）で多くなっている。（図３－33－３）

図３－33－４　小学生に必要な教育－ライフステージ（９区分）別（上位６位）



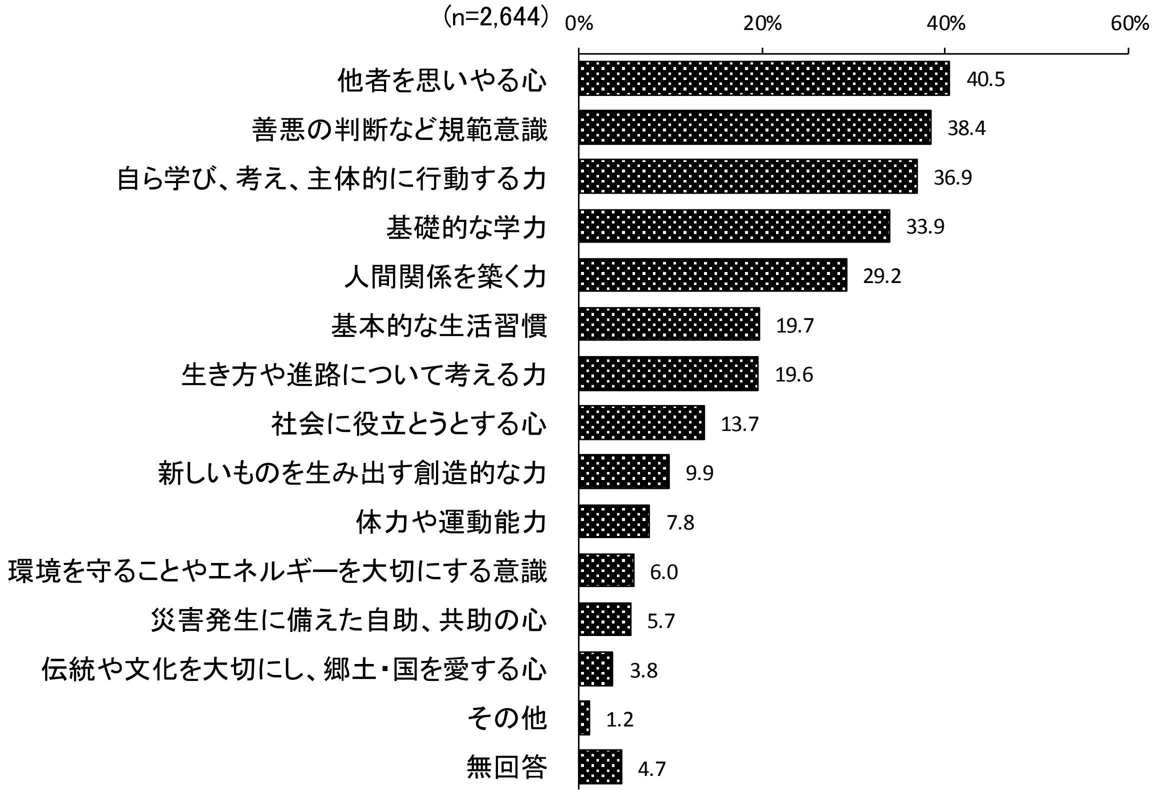

ライフステージ（９区分）別にみると、「他者を思いやる心」は40～64歳で配偶者がいて子どもがいない（64.3%）で６割台半ばと最も多く、「基礎的な学力」は18～64歳で一番下の子どもが中学・高校生（52.8%）で５割強と多くなっている。「善悪の判断など規範意識」は18～39歳で配偶者がいて子どもがいない（54.5%）で５割台半ばと多くなっている。（図３－33－４）

## （34）中学生に必要な教育

### ◇「他者を思いやる心」が約４割

問35　あなたは、中学生にどのようなことを身につけさせる教育が必要であると思いますか。
（○は３つまで）

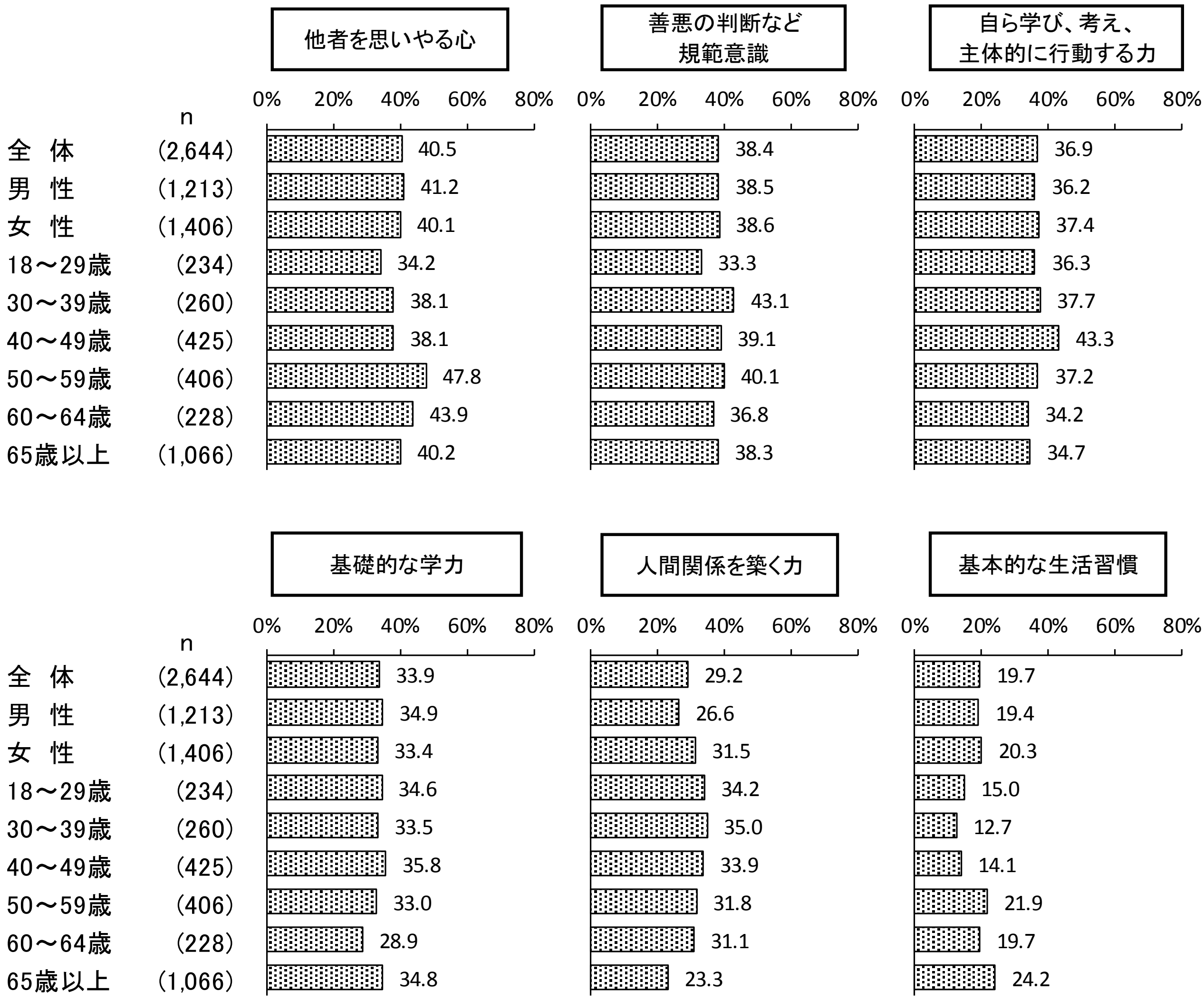
図３－34－１　中学生に必要な教育－全体




（注）新規の設問のため、経年比較はない。

中学生にどのようなことを身につけさせる教育が必要と思うか聞いたところ、「他者を思いやる心」（40.5％）が約４割で最も多くなっている。これに「善悪の判断など規範意識」（38.4％）と「自ら学び、考え、主体的に行動する力」（36.9％）がともに４割近くで続き、以下「基礎的な学力」（33.9％）、「人間関係を築く力」（29.2％）などの順となっている。（図３－34－１）

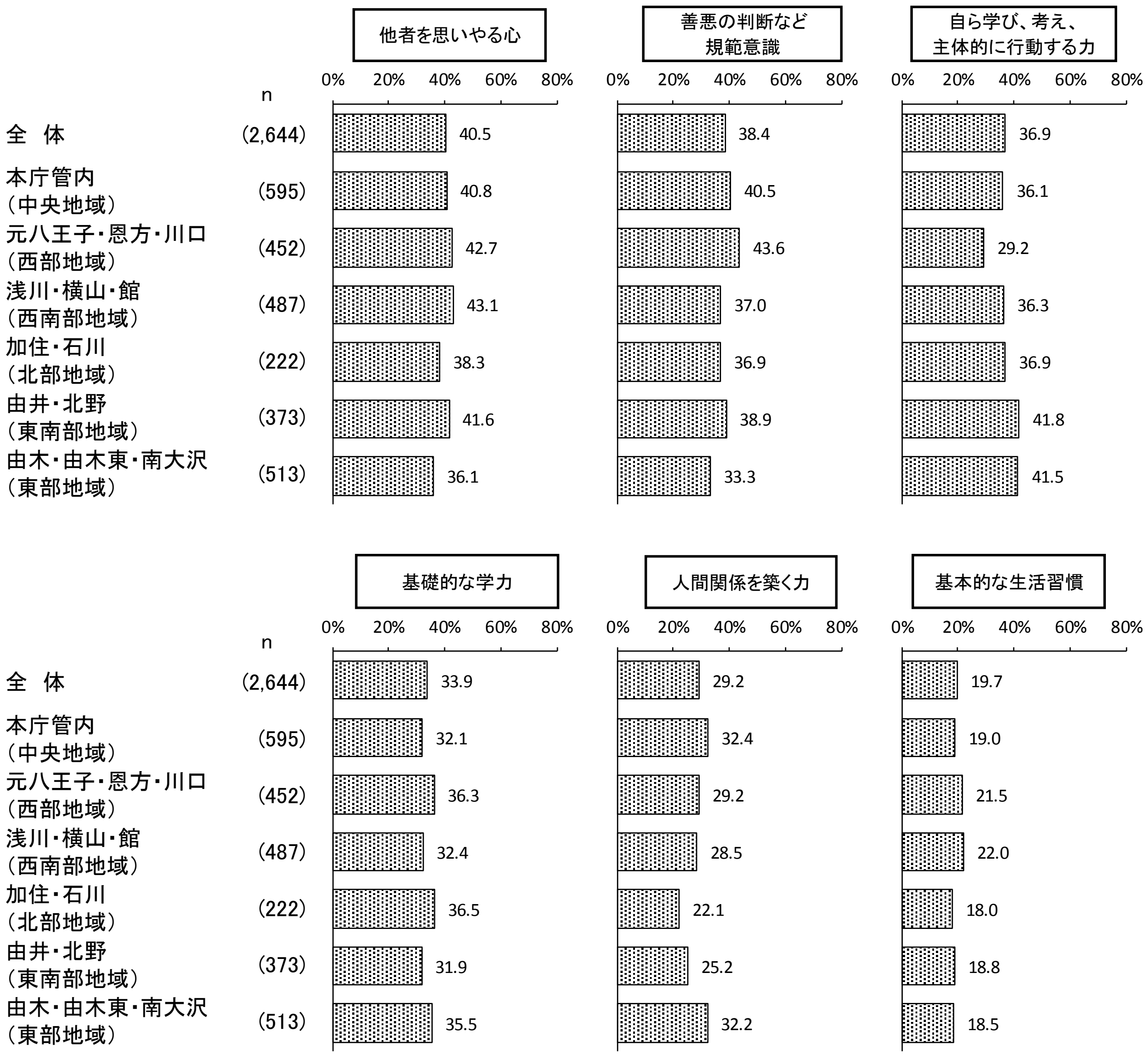
図３－34－２　中学生に必要な教育－性別、年齢別（上位６位）




性別にみると、「人間関係を築く力」で女性（31.5％）が男性（26.6％）より4.9ポイント高くなっている。

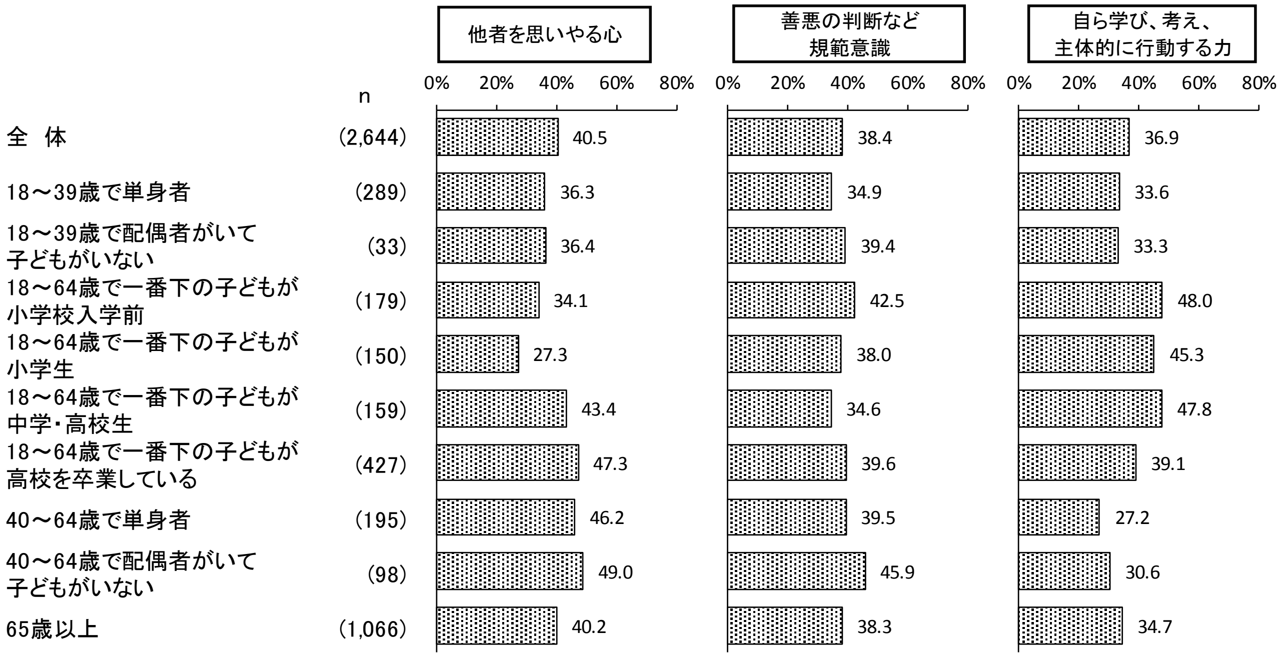
年齢別にみると、「他者を思いやる心」は50～59歳（47.8％）で５割近くと多く、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」は40～49歳（43.3％）で４割強で多くなっている。「人間関係を築く力」は30～39歳（35.0％）で３割台半ばと最も多くなっている一方、65歳以上（23.3％）で２割強と少なくなっている。（図３－34－２）

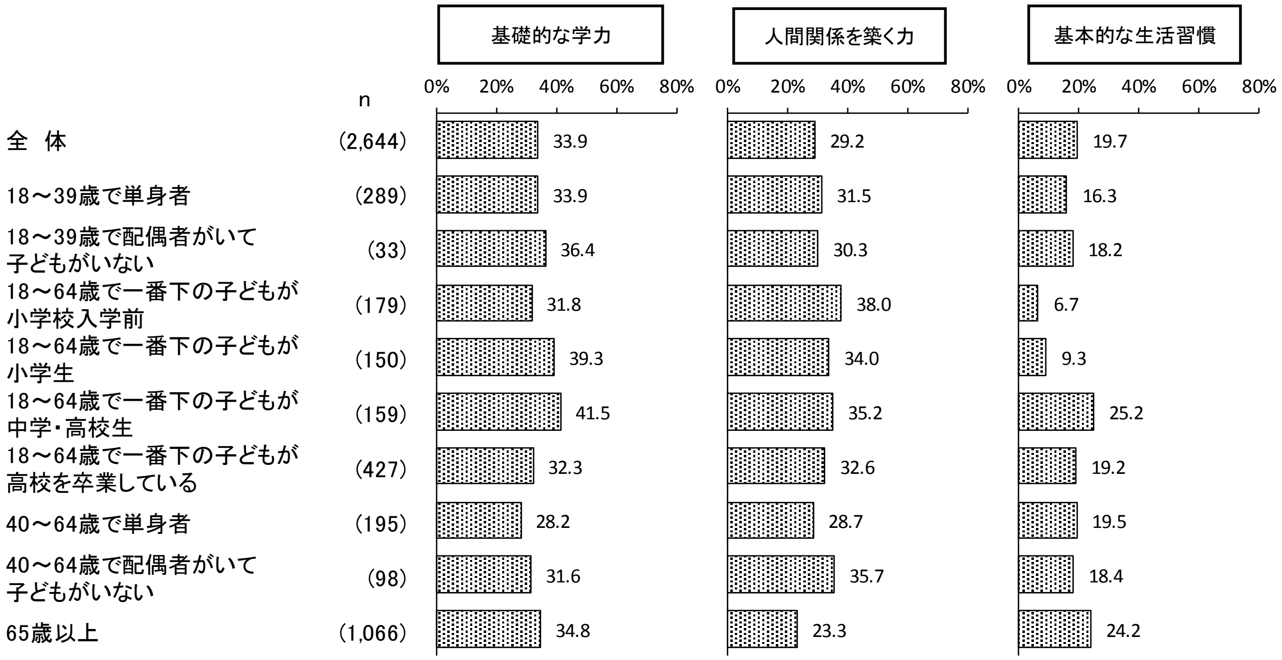
図３－34－３　中学生に必要な教育－居住地域別（上位６位）




居住地域別にみると、「善悪の判断など規範意識」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（43.6%）で４割強と多くなっており、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」は由井・北野（東南部地域）（41.8%）で４割強と多くなっている。（図３－34－３）

図３－34－４　中学生に必要な教育－ライフステージ（９区分）別（上位６位）




ライフステージ（９区分）別にみると、「他者を思いやる心」は40～64歳で配偶者がいて子どもがいない（49.0％）で５割弱と多くなっている。「自ら学び、考え、主体的に行動する力」は18～64歳で一番下の子どもが小学校入学前～中学・高校生で多くなっており、中でも小学校入学前（48.0％）と中学・高校生（47.8％）でともに５割近くと多くなっている。「基本的な生活習慣」は18～64歳で一番下の子どもが中学・高校生（25.2％）で２割台半ばと多くなっている。

（図３－34－４）